

四

「日、

蘭印經濟交渉ノ部」

昭和二十六年（一九五一年）六月

外交史料

日、蘭印經濟交渉ノ部

外務大臣官房文書課

總 目 次

第一部 自昭和九年（一九三四年）
至昭和十六年（一九四一年） 日、蘭印經濟關係ノ推移概觀

第二部 自昭和十五年（一九四〇年）八月
至昭和十六年（一九四一年）六月 日、蘭印經濟交渉經緯

序

昭和十五年（一九四〇年）八月から翌年六月までバタヴィアにおいて行われた日、蘭印經濟交渉は、日米交渉とともに、太平洋戦争勃發前に我國の行つた重要な交渉である。

本調書は、主として、右交渉の記録をありのまゝに取りまとめたものであるが、第一部においては、この交渉の一般的背景と經緯を概説したほか、それ以前における日、蘭印經濟關係の推移を概觀し、第二部においては、右交渉自体の經緯を詳述した。

日、蘭印經濟交渉に關する記録は、太平洋戦争による被害が比較的少かつたが、本調書に收めたものも必ずしも完璧とは言ひ難い。しかし將來に記録を残し、省内の執務參考に供するため、こゝに印刷に付する次第である。

本調書の編さんに主として當つたのは、右交渉の當時本省南洋局における本件の主任事務官であつた小官及び副擔當官であつた村松元通譯官と、現地において芳澤、石澤兩代表を輔佐した小谷元領事とである。

昭和二十六年（一九五一年）六月

外務大臣官房文書課長

三宅 喜二郎

第一部

自昭和九年（一九三四年）
至昭和十六年（一九四一年）

日、蘭印經濟關係ノ推移概観

目次

本文 附録

第一號 石澤・「ハルト」協定

第二號 蘭印ノ現狀維持ニ關スル有田聲明

第三號 蘭印ノ現狀維持ニ關スル蘭、獨、英、佛ヘノ我方申入及ビ之ニ關スル外務省情報部長談

第四號 蘭印物資十三品目ニ關スル有田外務大臣及ビ在京和蘭公使書翰

第五號 日、蘭印交渉方針ニ關スル有田外務大臣閣議説明資料

自昭和九年（一九三四年）
至昭和十六年（一九四一年）

日、蘭印經濟關係ノ推移概観

一、一九二九年（昭和四年）ノ米國經濟恐慌ニ端ヲ發シタル世界不況ニ至ル迄、和蘭ハ、蘭印ニ關スル限り、自由貿易政策ノ踏襲コソ、砂糖、規那等低生産費又ハ獨占的性質ヲ特徵トスル蘭印物資輸出増進ノ大道タルノミナラズ、蘭印ヲ自由市場トスルモ、敢テ和蘭本國ノ高級特殊綿布並ニ雜貨ノ販路維持ニ支障ヲ感ゼズトノ見地ヨリ、世界ニ殘存セル唯一ノ自由貿易ノ「チャムピオン」ヲ以テ自負シ居タリ。然ルニ世界不況ハ各國ヲシテ保護貿易政策ヲ復活セシムルニ至リ、一九三二年（昭和七年）ノ「オタワ」會議ヲ契機トスル英帝國內特惠貿易政策並ニ米國ノ互惠通商政策ハ、和蘭ヲシテ、一面ニ於テハ、蘭印物資仕向先ノ巨宗タル英米「ブロック」ノ門戸閉鎖ニ直面セシメ、他面ニ於テハ、日本品ノ蘭印市場席捲ニ對シ和蘭商品ノ救済策ニ腐心セシムルニ至レリ。而シテ一九三三年（昭和八年）九月ニハ蘭印非常時輸入制限令ヲ公布シ次ニ、物ノ救済ハ人ノ救済ニモ及ビテ、同年十一月ニハ蘭印ニ對スル外國人ノ入國制限令ヲ公布セリ。斯カル情勢ノ下ニ於テ、一九三四年（昭和九年）六月ニ初マリ同年十二月ニ終レル第一次日蘭會商ガ蘭側ニ取リテモ必要ナリシナリ。

翻ツテ日本ヲ見ルニ、第一次大戰中ノ生産設備擴大ト其ノ後ノ技術向上ニ依リ國際市場ニ於ケル競争力ヲ異常ニ増進セル我綿布ト雜貨ハ、一九三二年（昭和六年）末ノ金輸出再禁止ニ拍車ヲ掛けラレテ天馬空ヲ征クノ觀アリシ際ナレバ、前記保護貿易、特惠貿易、互惠貿易等ノ主義ノ復活、擡頭、流行ニ困惑セルハ勿論ニシテ、一九三三年（昭和八年）四月英國ヨリ明治三十七年八月締結ノ日印通商條約ノ廢棄ヲ通告シ來ルヤ、早クモ同年六月ニハ日印會商ヲ開始セル次第ナリキ。從ツテ我方ガ、最後迄自由貿易ノ牙城ヲ守ラムトセル和蘭ノ屬領タル蘭印ノ自由市場ヲ重要視セルハ當然ニシテ、出來得ル限り將來ニ亘リテ之ヲ確保セムトスル熱意ハ相當旺盛ナルモノアリタリ。而シテ長岡大使ヲ首班トスル我代表部ハ此ノ熱意ヲ以テ第一次會商ニ臨ミタリ。

第一次會商ノ詳説ハ省略スルモ我方要求ノ重點ハ一言以テ之ヲ蔽ヘバ「賣ラン哉」主義ニ在リタリ。即チ日本品賣込第一主義ニ在リタリ。而シテ第二次の要求トシテハ「種蒔キ」ニ在リタリ。即チ入國、企業等將來ノ邦人發展ノタメノ地盤獲得ニ在リタリ。之ニ對シ、蘭印農產物ノ輸出不振ト本國工業ノ衰弱化ニ悩ム蘭側ハ、日本側ヨリスル最大限ノ砂糖買付ト日本品ノ對蘭印輸出ノ能フ限りノ自制トヲ要求シ、將來ニ對スル遠大ナル「種蒔キ」の要求ハ凡テ之ヲ拒否シタリ。斯クテ第一次日、蘭印會商ハ決裂セリ。

二、一九三四年(昭和九年)末長岡大使ノ歸朝スルヤ、次席代表タリシ越田總領事ハ、一九三六年(昭和十一年)十一月、所謂「石澤、ハルト」協定ノ調印者タル石澤總領事ノ着任ヲ見ル迄、決裂セル第一次會商ノ善後處置ト雜多ナル經濟交渉ニ獻身の努力ヲ捧ゲタリ。蘭側モ痛ク越田總領事ノ穩健ナル人柄ト終始渝ラザル紳士的、友好的態度トニ敬意ト謝意ヲ表シ、「コンマンデュール・オランエ・ナツソウ」勳章ヲ贈リテ其歸朝ヲ惜ミタリ。

三、第一次會商ハ決裂セルモ、通商ハ續行セラレザル可ラズ。摩擦ハ調整セラレザル可ラズ。而シテ越田總領事ニ對シテ蘭側ノ示セル「アツプレシエーション」ハ、石澤總領事ノ紳士的態度ト熱意ニ對シテ更ニ其度ヲ高メ、一九三七年(昭和十二年)四月ニ至ルヤ、日、蘭印間最初ノ通商條約トモ稱スベキ「石澤、ハルト」協定(附錄第一號)成立シ、續イテ一九三八年(昭和十三年)一月ニハ「小谷、ファン・モーク」覺書成立セリ(注、「小谷、ファン・モーク」覺書ハ「石澤、ハルト」協定ノ補足的覺書ナリ)。而シテ右協定ハ曩ニ一九三六年(昭和十一年)七月成立セル南洋海運對爪哇支那日本汽船會社(J・C・J)間ノ海運協定ト相俟チ、日蘭印間ノ經濟關係ハ茲ニ曲リナリニモ一應調整セラレタリトノ感ヲ與ヘタリ。

四、抑々我國ニ對スル蘭印ノ經濟的價值ハ外務省南方關係者ノ夙ニ認ムル所ナリシガ、支那事變ノ長期化ニ伴ヒ、其ノ處理ノ促進及ビ我國經濟ノ米英倚存脱却ノ見地ヨリ、蘭印資源ノ利用増進ヲ目的トシテ、日、蘭印關係ヲ緊密化スベシトノ意見漸次軍部及ビ民間ニモ盛ントナルニ至レリ。(米國ハ中國ニ於ケル我國ノ行動ヲ牽制センガ爲、一九三九年七月

二十七日日米通商條約ノ廢棄ヲ予告シ、翌年一月其ノ失效後、漸次重要物資ノ對日禁輸ヲ行ヒタリ。依テ我方トシテハ其ノ善後策ヲ考究スルコト必要トナレル次第ナリ。併シ、若シ第二次歐洲大戰ノ勃發（一九三九年九月）無カリセバ、日、蘭印經濟關係ハ恐ラク概ネ「石澤、ハルト」協定ヲ中心トシテ調整シ續ケラレタルナルベシ。然ルニ歐洲大戰勃發ノ爲事態ノ根本の再檢討ガ必要トナルニ至レリ、即チ和蘭ガ戰爭ニ捲込マレ蘭印ニ戰禍波及スルノ可能性ニ對スル對策ヲ講ズルノ要新ニ生ジタリ。又戰爭初期ニ於ケル獨逸ノ電擊戰果ニ刺戟セラレ、我國内ニ於テ南進論ガ次第ニ擡頭シ來レリ。

五、日本政府ハ先ヅ一九三九年（昭和十四年）十一月和蘭政府ニ對シテ日、蘭印國交調整ノ交渉ヲ開始シタルガ、其ノ間歐洲ノ戰局ハ急速ニ進展シ、一九四〇年（昭和十五年）四月九日獨逸ハ諾威トド抹トヲ占領シ、戰亂ハ北歐ニモ及ブニ至レリ。西歐ニ於テハ當時獨、佛兩軍ハ「マジノ」線ニ相對峙シ、和蘭ハ中立ヲ保チ居タルガ、何時戰爭ニ捲キ込マルヤモ知レズトノ危惧存シタリ。若シ、和蘭本國ニツイテ斯クノ如キ事態ノ起ル結果、ソノ植民地タル蘭印ニモ戰禍ノ及ブガ如キコトアラバ、蘭印トノ經濟關係ノ緊密化ニツイテ種々ノ要請ヲ有スル我國トシテ甚大ナル影響ヲ受クルコトナルベシ。ココニオイテ蘭印ニツキ斯クノ如キ事態ノ發生ヲ防止スル爲、四月十五日蘭印ノ現狀維持ニ關スル所謂「有田聲明」（附錄第二號）ガ發セラレタリ。即チ米内閣ノ有田相ハ「……歐洲戰爭ノ激化ニ伴ヒ蘭印ノ現狀ニ何等カノ變更ヲ來スガ如キ事態ノ發生ニ就イテハ深甚ナル關心ヲ有スルモノデアル」トノ談話ヲ發表セリ。和蘭政府ハ、右二同感ナル旨及ビ蘭印ノ保護ヲ何國ニモ依頼シタルコトナク、マタ、何國カラノ保護ノ申出若シクハ干涉モ拒否スルノ決意ヲ有スル旨ヲ表明セリ。英、佛政府モ蘭印ノ現狀ヲ尊重スルノ意向ヲ表明セリ。

同年五月十日獨軍ガ遂ニ蘭、白ニ侵入スルニ至リタルヲ以テ、十一日有田外相ハ蘭、獨、英、佛各政府ニ對シ、蘭印ノ現狀維持ニ關スル我方ノ希望ヲ強く申入レ（附錄第三號參照）、當時中立國タリシ米、伊ニモ右ノ次第ヲ參考トシテ通報セリ。コレニ對シ前記諸國ハ何レモ同感ノ意ヲ表シタリ。

他方、東京ト「バタヴィア」ニ於イテ五月以降七月マデ數回ニ亘リ、石油、「ゴム」、錫等所謂十三品目ノ蘭印產重要

物資ニツキ各一定量以上ノ對日供給方ノ確約ヲ蘭側ヨリ取付ケタリ。(附錄第四號參照)

然ルニ、有田聲明ハ我國モ亦蘭印ノ現狀維持ヲ尊重スル建前ノモノナルヲ以テ、南進論者ハコレヲ不滿トシ、武力ハ行使セズトモ、此際少クトモ蘭印ニ於ケル我國ノ經濟的、政治的優越地位ヲ確立スベキナリト唱道セリ。在「バタヴィア」齋藤總領事ヨリモ、此際、日本ヨリ總理級大物ノ政治家ヲ蘭印ニ派遣シ、大ナル政治的交渉ヲナスベキナリト進言越シタリ。外務省ニ於イテモ、勿論、當時ノ有利ナル國際情勢ニツキテ盲目ナラザリシガ、日、蘭印經濟關係ノ緊密化、特ニ我方必需物資ノ確保ト邦人ノ經濟的進出ヲ平和裡ニ圖ルベキ交渉ヲ考工居タリ。ソノ爲ニ有田外相ハ酒匂秀一大使ヲ特派セント欲シ、七月十二日ノ閣議決定ヲ經テ、十六日和蘭側ニモコレヲ申入レタリ。右閣議ノ際ニ於ケル有田外相ノ説明資料ハ附錄第五號ノ通ナリ。然ルニ陸軍ハ、根本的ニ米內閣ノ對獨態度及ヒ南方政策ヲ以テ飽足ラズトナシ、烟陸相ヲ辭職セシムルコトニヨリ、七月十六日同內閣ヲ崩壞セシメタリ。

(二十二カ)

六、七月十九日成立セル近衛內閣(外相松岡氏)ハ、「對蘭印外交ヲ強化シ、重要資源ノ取得ヲ策ス」トノ方針ヲ決定シ、蘭印交渉ニ對スル我方代表ノ人選ニツイテモ再檢討ノ上、取り敢ヘズ八月ニ向井民間石油代表ヲ「バタヴィア」ニ先遣シ、次イデ九月ニ小林商工大臣ヲ首席トスル使節團ヲ派遣シテ(齋藤、太田兩總領事輔佐)、「ファン・モーク」經濟長官ヲ首席トスル蘭側代表部ト折衝セシメタリ。(小林使節ニ携行セシメタル參考資料ハ本書後段「日、蘭印經濟交渉經緯」(附錄第一號及ビ第二號掲載)買油交渉ハ十一月二一應妥結ヲ見タルモ、ソノ他ノ交渉ハ、九月二十七日日、獨、伊三國同盟ノ締結ニヨリ蘭側ノ態度硬化シ、大東亞ニ於ケル日本ノ指導的地位トイフガ如キモノヲ認メ得ズトカ、和蘭ハ獨逸ノ敗北ヲ希望シ、且ツコレヲ信ズトカ、和蘭ノ敵タル獨逸ト同盟セル日本トノ貿易問題ノ如キハ輕々ニ決定シ得ズトイフガ如キ議論ヲ重ナルミニテ、本筋ニ入ラザルマ、小林代表ハ十一月末歸朝セリ。ソノ後、後任ノ芳澤代表ガ十二月赴任スル迄ノ間ニ、蘭側ハ會商ノ中止方ヲ申出デタルコトアリ。コレヲ以テ見ルモ、蘭側ガソノ敵タル獨逸ト同盟國トナリシ日本トノ交渉ニ如何ニ熱無カリシカヲ知ルヲ得ベシ。

ソノ間(十月二十五日)近衛内閣ハ、「對蘭印經濟發展ノ爲ノ施策」ナルモノヲ決定シタルガ、コレハ單ナル經濟關係ノ緊密化ニ止マラズ、蘭印經濟ノ各分野ニ於テ日本ガ指導的、優越的地位ヲ占メ、蘭印ヲ東亞經濟圈ノ一環タラシメントスル趣旨ノモノナリキ。尤モ松岡外相モカクノ如キコトガ直ニ凡テ實現シ得ベシトハ考ヘ居ラザリシヲ以テ、芳澤代表ノ赴任ニ際シ、コノ半分モ纏マレバ結構ナリト語リタル趣ナリ。

七、芳澤代表ハ、石澤總領事ヲ輔佐トシテ、翌一九四一年(昭和十六年)一月ヨリ交渉ヲ開始シタルガ、蘭印側ニ對シテ第一次的ニ提出セル要求案ハ、日本人ノ入國、企業、投資、交通、通信ニ對スル制限ノ緩和、石油利權ソノ他礦業、漁業、海運、航空、電信事業ニ關スル新タナル「コンセンション」ノ許與、「ゴム」、錫ソノ他我方必需物資ノ一定量(石油ニツイテハ十一月ノ協定量ニ對スル追加)ノ供給確保、日本商品ニ對スル輸入割當ノ増加等各分野ニ亘ル廣汎ナルモノナリキ。

蘭印側ハ右ニ對スル回答ニオイテ、(1)住民ノ利益ト相容レザル措置ハ避ケザルベカラザルコト、(2)外國トノ經濟關係ニツイテハ嚴格ナル無差別主義ヲトラザルベカラザルコト、(3)直接、間接敵國ヲ利スルコトハ防止セザルベカラズ、マタ、蘭印ノ國防上ノ安全トイフコトヲ考エザルベカラザルコトヲ強調シ、マタ、(1)蘭印ノ資源ノ開發ガ不充分ナリトノ日本側主張ハ必ズシモ事實ニ即セザルコト、(2)日本ト蘭印トノ經濟關係ハ「相互依存」的ナリト日本側ハ言ウモ、蘭印ノ側ヨリ見レバ、ソノ輸出ニオイテ占ムル日本ノ割合ハ僅少ナリ。蘭印ノ福祉ハ全世界トノ貿易ニ依存スルモノニシテ、單ナル地理的近接ハ大量貿易ノ支配的要素ニハアラザルコト等ヲ指摘シ、我方要求ノ多クヲ容ルルノ意向無キコトコレニヨリ明カトナレリ。要スルニ、蘭印側トシテハ、入國、企業、交通、通信等ニ關スル大規模ノ日本側要求ハ、蘭印ヲ日本ノ「コントロール」ノ下ニ置カントスル意圖ノ現ワレニシテ、マタ、石油、ゴム、錫等戰略物資ノ尨大ナル要求ハ對獨再輸出ノ爲ナリト考エタル次第ナリ。

コレニ對シテ我方ノトルベキ對策ニツキ、東京ト現地トノ間ニ意見對立セリ。(當時本省ニ於イテ次官ハ大橋忠一氏、

南洋局長ハ齋藤晋次氏、通商局長ハ水野伊太郎氏ニシテ、在バタヴィア總領事ハ石澤豐氏ニ變リ居タリ。即チ芳澤代表ヲ始メ現地側ハ、入國、企業問題ニツキテハ我方ヨリ相當ノ讓歩案ヲ出シ、通商問題ニツキテハ取り得ル限り必需物資ヲ確保シ、先方ヨリ會商ノ打切りヤ代表部ノ引揚げヲ求メラルルガ如キコト無キ前ニ早ク交渉ヲ妥結セシムベシトノ意見ナリキ。コレニ對シ中央ニ於イテハ、將來我國ヲ繞ル國際情勢、就中、日ソ中立條約成立後ニ於ケル對米關係好轉スルニ至ラバ、蘭印側ノ態度モ緩和サルコトナルベキヲ以テ、入國、企業問題ニツキテハ、原案ヲ「ブツシユ」シツ、差當リ通商交渉ニ主力ヲ注グベシトノ意見デアリ、且ツ軍側ニオイテハ、隨員タル軍人ヲ成ルベク長ク滞在セシメンコトヲ希望セリ。

偶々松岡外相渡歐不在ノコトモアリ、右兩者ノ意見調整ニ約二ヶ月ヲ要シタルガ、結局、中央ガ現地ノ意見ニ歩ミ寄リタリ。即チ入國、企業問題ニツキテハ、芳澤代表請訓ノ讓歩案ニ必要ナル修正ヲ多少加エタル上、コレヲ回訓セリ。コノ修正ハ、協定ノ實施上蘭印側ニ漠然タル逃口上ヲ與エズ、協定ヲ有名無實ニ終ラシメザラントスル爲ノモノナリキ。蘭印產物資ノ確保ニツキテハ、中央ノ尨大ナル要求ヲ相當削減スルカ、又ハ對獨再輸出セザルコトノ保障ヲ與フルカノ外無カリシガ、結局前者ノ方法ヲ採リ、前年六月蘭側ガ供給方ヲ確約セル十三品目ノ外ニ品目ハ多少増加シタルガ、十三品目ニツキテノ要求量ハ、石油及ビ「ボーキサイト」ハ増加セルガ、ソレ以外ハ大体大同小異ノモノトセリ。

我方ノ妥協案ハ五月十四日、二十日及ビ二十二日ニ提出セラレタルガ、コレニ對シテ六月六日蘭印側ガ寄セタル回答ノ重要ナル點ハ左ノ通りナリキ。

(1) 石油利權ニツキテハ、「ボルネオ」ニ於イテ若干ヲ許與シ、マタ將來、「セレベス」及ビ「ニュー・ギニア」ニ於イテ若干ノモノヲ考慮ス。

(2) 入國、企業、交通、通信問題ニツキテハ、多少我方要求ヲ容レタル項目モ若干存シタルモ、原則的、包括的讓歩ハ大部分コレヲ拒否ス。

(3) 蘭印產物資ノ對日供給量ニツキテハ、和蘭ノ戰爭上ノ必要ヨリ、假令一箇年ニテモ又ハソレ以下ノ短期間ニテモ、無條件保障ハ與エ得ズ。ソノ何レノ品目ニツキテモ、和蘭ガ必要ト認ムルトキハ、何時ニテモ一方的ニ削減シ得ルモノトスルノ條件ガ必要ナリ。

尙、右供給量ノウチ「ゴム」、「ボーキサイト」、「コブラ」、「パーム」油等ニツキテハ、我方要求量ニ對シテ相當削減セリ。(石油ニツキテハ業者間ノ交渉ニ委ヌ。)

右回答ノ第二點モサルコトナガラ、第三點、殊ニ、留保條件ハ、遂ニ本會商ノ致命傷トナリタリ。即チ蘭印側ハ、戰略物資ニ關スル日本側要求量ハ日本ノ國內需要量ヲ越エ居リ、ソレラガ獨逸ニ再輸出サレ居ルトノ情報アリ。殊ニ、「ゴム」、「錫ハ佛印及ビ「タイ」ヨリモ日本ニ對シテ供給サルルヲ以テ、ソレト睨合セテ蘭印ノ對日供給量ヲ調節スルコトガ絶對必要ナリトナシ、コノ點ハ最後迄固持シテ譲ラザリキ。コレニ對シ我方ハ、日本ノ國內需要量ヲ蘭側ガ一方的ニ認定スルガ如キハ僭越デアリ且ツカ、ル條件附協定ニテハ前年ノ十三品目ニ關スル破約以下ニシテ、無意味ナリトナシ、遂ニ六月十七日芳澤代表ヲシテ會商「打切り」、代表引揚ゲヲ蘭側ニ通告セシメタリ。特ニ「決裂」トイフ語ヲ避ケテ「打切り」トイフ語ヲ使用セルハ、輿論ヲ刺戟セザラントノ考慮ニ出デタルモノニシテ、マタ、日、蘭印關係ソノモノガ決裂セルガ如キ印象ヲ與エザランガ爲ニ、双方協議ノ上、「……會商ノ打切りハ日、蘭印間ノ正常關係ニ變更ヲ加フルモノニ非ザルハ言フ迄モナシ」トノ共同「コミュニケ」ヲ發表セリ。

斯クテ第二次會商モ不成功ノ終幕ハ第一次同様ナリシモ、唯、第二次會商ガ第一次會商ト最モ相違セル點ハ、「賣ラシ哉」主義ガ「買ハン哉」主義ニ一變シ、百八十度ノ轉回ヲ行ヒタルコトナリ。即チ第二次會商ノ主要目標ハ重要物資十三品目ノ買付確保ニ在リタリ。記憶ニ便ナラシムル爲メニハ、第二次會商ハ石油、護謨、錫ノ確保交渉ナリキト云ヒ得ベシ、更ニ端のニ石油會商ナリキト云フモ差支ナカルベシ。

八、會商打切り後モ、現地ニ於テ石澤總領事ハ或ハ「バーター」制ニ依リ、或ハ引揚邦人用船舶ノ船腹利用ニ依リ、米英

ノ對日經濟措置ノ爲將ニ窒息死ヲ訴ヘムトスル日本ニ遙カ蘭印ヨリ輸血スベク、殆ンド開戦直前迄努力交渉セルモ、同年七月下旬我軍ガ南部佛印ニ進駐スルヤ、蘭印ハ金融協定及ビ石油協定ヲ停止シ、マタ米國ニ倣ヒテ重要物資ノ對日輸出ヲ禁止セリ。而シテ太平洋戰爭開始ニ際シ、我國ハ和蘭ニ對シテハ宣戰セザリシニ、和蘭ハ、日、米英開戦ト共ニ、我國ニ對シ戰争狀態ノ存在ヲ宣言セルコトハ周知ノ通りナリ。

(終)

附錄 第一號

石澤・ハルト協定（一九三七年（昭和十二年）四月九日調印）

（假譯）

覺 書

日本國及蘭領印度間貿易關係增進ノ目的ヲ以テ在「バタヴィア」總領事石澤豐氏及蘭領印度政府經濟長官「ジー・エイチ・シー・ハルト」博士ハ近ク日本國政府及和蘭國政府間ニ締結セラルベキ正式取極中ニ列記スベシトノ明確ナル了解ノ下ニ左記諸條ニ同意セリ

I、A、日本政府ハ蘭印物產ノ日本ヘノ輸入増進ノ爲其ノ最善ノ努力ヲ盡スベシ

一、砂糖ニ關シ

a、日本政府ハ日本（臺灣、本土、沖繩縣、南洋群島等ヲ含ム）ニ於ケル將來ノ砂糖生産ニ關シ政府最近ノ調査ニ依リ生産ガ國內消費ノ増加ニ追隨シ得サルベシトノ見込ナルコトヲ茲ニ言明シ且爪哇糖トノ關係ニ於テ最モ重要ナル地位ニ在ル臺灣ニ關シ（現在）予見シ得ル限りニ於テ日本ノ糖業者ガ爪哇糖ノ日本ヘノ輸入ニ影響ヲ及ボスガ如キ砂糖生産ノ増加ヲナスノ意嚮ナキコトヲ茲ニ併セテ言明ス

b、日本政府ハ

(1) 日本糖業者ニ對シ爪哇糖ノ價格合理的ニシテ且其ノ供給量充分ナル限り國內消費用タルト輸出用タルトヲ問ハズ出來得ル限り爪哇糖ヲ輸入スル様極力勸奨シ、且他國糖ノ輸入ハ出來ル限り差控フル様勸奨スベキコト

(2) 日本政府ハ第三國ヨリ日本ヘ輸入セラレタル砂糖ノ數量並價格ヲ隨時蘭印糖業者ニ通報スル爲必要ナル措置

ヲ講スベキコト

ヲ約ス

c、日本政府ハ海峽殖民地、馬來連邦、暹羅、印度、錫倫及新西蘭ノ砂糖市場ニ於テ現状ヲ維持スル様日本糖業者ヲ誘導スルタメ最善ノ努力ヲナスベシ

二、其ノ他ノ蘭印物産輸入増進ニ努力スルニ當リテハ日本政府ハ「コブラ」、「カボック」、「珈琲」、「パーム」油、煙草、玉蜀黍、木材、「ダマル」、「コパル」其ノ他ノ樹脂及籐ニ關シ特ニ注意ヲ拂フ様關係者ヲ誘導スベシ

三、同一目的ヲ以テ日本政府ハ日本ノ一般關稅政策ト相反セザル限り蘭印物産特ニ植物性油脂ニ對スル輸入稅引下及砂糖並其ノ他物産ニ對スル關稅据置方ニ付好意的考慮ヲ加フベシ

B、日本政府ハ左記事項ヲ促進スベシ

一、在日本蘭人輸出商ニシテ既ニ輸出組合ニ加入シ居ルカ又ハ本協定締結後六ヶ月以内ニ右ニ加入ノ意思ヲ表示セルモノハ日本人ト平等ノ立場ニ於テ輸出許可書ヲ受クベキコト

二、輸出組合ハ蘭人輸出商ノ基礎割當増加並特別割當獲得ノ可能性ニ關シ満足ナル解決ヲ見出ス爲蘭人輸出商ト協議スルコト

三、蘭印政府ノ協力ヲ得テ兩國政府ノ官吏ヨリ成ル委員會ハ兩當事者ガ了解ニ到達シ得ル様日本ニ於テ斡旋スルコト

II、一、蘭印政府ハ蘭印並和蘭ノ利益擁護ノ必要ト相反セザル限り外國輸入品及在蘭印外國輸入商ニ關シ、特ニ日本當業者ニ關シ「モデレイト・ポリシイ」ヲ維持スベキコトヲ約ス

二、總テノ在蘭印輸入商ガ其ノ割當ノ範圍ニ於テ蘭品並外國品輸入ニ付協力スベキ現行義務―割當遞減制適用ノ罰則ノ下ニ―ハ現行ノ原則ニ遵ヒ引續キ存續セラルベシ

但シ蘭印政府ハ和蘭ヲ原產地トセザル輸入品ニ限り且當該割當量ノ輸入ガ他ノ方法ニ依リ充分ニ實現シ得ル限り割當量ノ輸入ニ協力スベキ義務ノ免除方ニ關スル日本人輸入商ノ要求ニ對シ好意的考慮ヲ加フル用意アリ

三、蘭印政府ハ左ノ事項ニ付好意的考慮ヲ加フベシ

a、蘭印竝和蘭ノ利益ト相反セザル限り現在任意ノ外國ヨリ蘭印へ輸入ヲ許可セラレ居ル商品ニ付出來得ル限り日本ノ利益ニ關スル現狀維持方ノ日本ノ要求

b、新ニ輸入制限令カ實施セラル、場合日本ニ對シ「エキイタブル・シエヤー」ノ許與

四、蘭印政府ハ一九三四年來自發的ニ日本人輸入商ニ對シ輸入制限品許可總量ノ所謂「最高ニ割五分割當」ヲ許與シ來リタル處

a、蘭印竝和蘭ノ利益ト相反セサル限り右慣行ヲ繼續シ

b、左記品目ニ付テハ日本人輸入商ノ割當總量ヲ最高三割迄増加スル様好意的考慮ヲ加ヘ

陶磁器、硝子製品、琺瑯鐵器、銅製品及硝子笠付「ランプ」

c、日本人輸入商ニ對シ、綿布及其他ノ商品ニ付テハ(a)ニ記載ノ方法ニヨリ、又(b)ニ掲グル商品ニ付テハ(b)ニ記載ノ方法ニ依リ、可能ナル場合ハ特別割當許與方ニ付引續キ好意的考慮ヲ加フル

ノ用意アリ

五、蘭印政府ハ在日本蘭人輸出商ニシテ未タ輸出組合ニ加入シ居ラサルモノ又ハ單ニ或ル一部ノ組合ニ加入シ居ルニ過キサルモノニ對シテハ組合加入方ヲ勸奨スヘシ

六、蘭印政府ハ營業制限條令ニ關シテハ千九百三十四年九月二十九日附長岡博士宛書翰ニ於テ爲シタル本條令ニ關スル「ハルト」博士ノ聲明カ引續キ效力ヲ有スルモノナルコトヲ確認ス

III、兩國政府ノ執レカ一方ハ本取極ノ内容及精神ト相反スト認メラレタル事情又ハ行爲ニ付他方ノ注意ヲ喚起スルノ權利ヲ保留スルモノト了解ス

IV、本取極締結當時ノ事情又ハ本取極ノ締結ヲ促シタル事情ニ變更アリ又ハ近キ將來ニ於テ變更ノ虞アル場合ハ兩國政府

ノ孰レカ一方ハ相互貿易關係ノ補足的調整ニ關スル了解ニ到達スル爲他方ト協議スルノ權利ヲ保留ス
V、本取極ハ調印後十日ヲ經テ實施セラルヘク千九百三十八年十二月三十一日迄效力ヲ有ス

右期日ノ三月前ニ兩國政府ノ孰レカ一方ヨリ本取極ヲ終了セシムルノ意思ヲ他方ニ通告セサルトキハ本取極ハ兩國政府
ノ孰レカ一方カ終了ノ通告ヲ他方ニ爲シタル日ヨリ三箇月ノ期間滿了ニ至ル迄引續キ效力ヲ有ス

千九百三十七年四月九日「バタヴィア」ニ於テ本書ニ通ヲ作成シ之ニ「イニシアル」ス

在「バタヴィア」日本總領事

石 澤 豐

蘭領印度經濟長官

ジー・エイチ・シー・ハルト

MEMORANDUM.

For the purpose of promoting trade relations between Japan and the Netherlands Indies, Mr. Y. Ishizawa, Japanese Consul-General at Batavia, and Dr. G. H. C. Hart, Director of Economic Affairs of the Government of the Netherlands Indies, have concurred in the following terms with the explicit understanding that the same shall be itemized in a formal agreement to be concluded at an early date between the Governments of Japan and the Netherlands:

I. A. The Japanese Government will do their utmost to further the importation of Netherlands-Indian products into Japan.

1. With regard to sugar:

a. the Japanese Government state hereby concerning the future sugar production in Japan (including Formosa, Japan proper, the prefecture Okinawa, the South Sea Islands etc.) that, according to their recent investigation, they expect the production

will not be able to keep pace with the increase of home consumption, and they further state hereby that, regarding Formosa, which stands in the most important position in relation to Java sugar, the Japanese sugar interests have, as far as can be foreseen, no intention for the increase of sugar production, which will affect the importation of Java sugar into Japan.

b. the Japanese Government undertake:

- (1) that they will strongly urge the sugar interests of Japan to import Java sugar as much as possible, be it for home consumption or export, provided that Java sugar is available at a reasonable price and in sufficient quantity, and further urge them to refrain as much as possible from importing sugar of any other origin;
 - (2) that they will take necessary steps to apprise the Netherlands Indian sugar interests from time to time of the amount and price of the sugar imported into Japan from third countries.
- c. the Japanese Government will do their utmost to induce the Japanese interests to maintain the status quo in the sugar markets of the Straits Settlements, the Malay States, Siam, India, Ceylon and New Zealand.
2. In their endeavours to further the importation of other Netherlands-Indian products the Japanese Government will induce those concerned to pay special attention to copra, kapok, coffee, palm oil, tobacco, maize, timber, damar, copal, other resins and rattan.
 3. With the same object in view the Japanese Government will take into favourable consideration a reduction of import duties on Netherlands-Indian products, especially the duties on vegetable oils and fats and a consolidation of tariffs on sugar and other goods which are important for the Netherlands Indies, so far as it is compatible with the Japanese general tariff policy.

B. The Japanese Government will promote:

1. that Netherlands exporters established in Japan, who have already become members of export-associations or who within six months after the conclusion of this agreement declare their willingness to become members thereof, shall receive export licences on equal footing with Japanese nationals;
2. that the export-associations will confer with the Netherlands exporters to find a satisfactory solution concerning the possibility of increasing their basic quota and procuring extra-quota;
3. that, with cooperation of the Netherlands Indian Government, a committee consisting of officials of the two Governments will render good offices in Japan in order that the two interested parties may be able to come to an understanding.

II. 1. The Netherlands Indian Government undertake to maintain their moderate policy in connection with foreign imports and foreign importers established in the Netherlands Indies, more particularly as regards the Japanese interests concerned, so far as this is compatible with the necessity of safeguarding the Netherlands-Indian and Netherlands interests;

2. The existing obligation for all importers established in the Netherlands Indies to cooperate to the extent of their shares in the importation of Netherlands and foreign goods, —under penalty of the application of the system of “diminishing quota” — will remain in force according to the existing principles. The Netherlands Indian Government, however, are prepared to take into favourable consideration the requests from Japanese importers that they shall be exempted from the said obligation to cooperation in the importation of quota in so far as the origin of the goods to be imported is other than the Netherlands, provided that and so long as the effectuation of the importation of the said quota can be sufficiently promoted by other means;

3. The Netherlands Indian Government will take into favourable consideration:

- a. the Japanese request that, concerning the goods, which are at present allowed to be imported into the Netherlands Indies from any country, the present situation with regard to the Japanese interests will be maintained as much as possible, in so far

- as this is compatible with the Netherlands-Indian and Netherlands interests.
- b. the granting of an equitable share to Japan, whenever a new ordinance to restrict imports is brought into effect.
4. The Netherlands Indian Government, who have since 1934 voluntarily granted to Japanese importers the so called "maximum 25% share" of the total available amount of licences for restricted import commodities, are prepared:
- a. to continue this practice as long as it is compatible with the Netherlands Indian and Netherlands interests;
 - b. to take into favourable consideration an increase in the total share of Japanese importers to a maximum of 30% for the following items: porcelain, earthenwares, enamelwares, copperwares and lamps with glass cap;
 - c. to continue to give favourable consideration to the granting of extra-licences for cotton piece goods and other commodities, whenever possible, to Japanese importers with application of the practice described above in (a) and for the commodities mentioned in (b) with application of the practice described therein.
5. The Netherlands Indian Government will induce the Netherlands exporters, established in Japan, who have not as yet enlisted as members of export-associations or who have only joined some of them, to subscribe to the membership thereof.
6. The Netherlands Indian Government will confirm, as regards the business-regulation-ordinance, that Dr. Hart's statement concerning the said ordinance in his letter to Dr. Nagaoka of September 29th 1934 shall remain in force.
- III. It is understood that either party reserves the right to draw the attention of the other party to circumstances or acts which may be deemed to be incompatible with the contents or with the spirit of this agreement.
- IV. In case circumstances prevailing at the time of the conclusion of this agreement or circumstances having influenced the attainment thereof are found modified or are expected to be modified in the near future, either party reserves the right to communicate with the other party in order to come to an understanding concerning a supplementary regulation of the mutual

trade relations.

- V. The agreement shall come into force 10 days after the signature of the agreement and remains in force until the 31st day of December 1938. In case neither of the two Governments shall have given notice to the other three months before the said date of their intention to terminate the agreement, it shall continue operative until the expiration of three months from the date on which either of the two Governments shall have given notice of termination to the other.

Done in duplicate and initialled at Batavia on the 9th day of April 1937.

(Initialled)

Y. Ishizawa.

Japanese Consul-General

at Batavia.

(Initialled)

G. H. C. Hart.

Director of Economic Affairs

of the Government of the Netherlands Indies.

附錄 第二號

蘭印ノ現状維持ニ關スル有田聲明

(蘭印問題ニ關シ新聞記者ノ質問ニ對スル有田外務大臣ノ回答)

一九四〇年(昭和十五年)四月十五日

歐洲戰亂ハ遂ニ北歐ニ迄擴大スルニ至リ今後情勢ノ變化ニヨリテハ或ハ和蘭其他ノ中立國ニ波及スルヤモ知ラレザル情勢ニ對スル日本ノ態度如何ヲ質問サレタノニ對シ有田外務大臣ハ左ノ如ク語ツタ。

日本ハ南洋諸地方就中蘭印ト經濟的ニ有無相通ノ緊密ナル關係ニ在リ、他方之等諸地方ト他ノ東亞諸國トノ間ノ經濟關係モ亦相當密接ナルモノカアル、要スルニ日本及之等諸國並ニ諸地方ハ何レモ相倚リ相援ケテ共ニ東亞ノ繁榮ニ寄

與シツ、アル次第テアルガ若シ歐州戰禍カ和蘭ニ波及シ諸君ノ言フガ如ク蘭印カ其ノ影響ヲ受クルコト、ナラバ右有無相通、共存共榮ノ維持増進ニ支障ヲ來タスノミナラス東亞ノ平和及安定ノ上ヨリモ好マシカラザル事態トナルデアラウ。敍上ノ見地ヨリ帝國政府ハ歐州戰爭ノ激化ニ伴ヒ蘭印ノ現狀ニ何等カノ變更ヲ來スガ如キ事態ノ發生ニ就テハ深甚ナル關心ヲ有スルモノデアル

On being questioned by newspapermen concerning Japan's position with regard to the possible involvement of the Netherlands in the European war and its repercussions in the Netherlands East Indies, the Foreign Minister Mr. Arita replied as follows:

“With the South Seas regions, especially the Netherlands East Indies, Japan is economically bound by an intimate relationship of mutuality in ministering to one another's need. Similarly other countries of East Asia maintain close economic relations with these regions.

That is to say, Japan, these countries and these regions together are contributing to the prosperity of East Asia through mutual aid and interdependence. Should the hostilities in Europe be extended to the Netherlands, and produce repercussions, as you say, in the Netherlands East Indies, it would not only interfere with the maintenance and furtherance of the abovementioned relations of economic interdependence, and of co-existence and co-prosperity, but also give rise to an undesirable situation from the standpoint of the peace and stability of East Asia.

In view of these considerations the Japanese Government can not but be deeply concerned over any development, accompanying the aggravation of the war in Europe, that may affect the *status quo* of the Netherlands East Indies.”

蘭印ノ現狀維持ニ關スル蘭、獨、英、佛ヘノ我方申入レ及ビ之ニ關スル外務省情報部長談

(イ) 對蘭申入(一九四〇年(昭和十五年)五月十一日)

帝國政府ハ日本ト蘭領印度トノ緊密ナル經濟關係及東亞ノ平和及安定ノ見地ヨリ蘭印ノ現狀ニ何等カノ變更ヲ來スカ如キ事態ノ發生ニ就テハ深甚ナル關心ヲ有スル旨曩ニ四月十五日日本大臣ヨリ宣明スル所アリ右ニ關シテハ當時和蘭政府ニ於テモ之ニ同感ナル旨從テ蘭印ノ保護ヲ何國ニモ依頼セズ又何國ヨリノ保護ノ申出若ハ干涉モ之ヲ拒否スル決意ヲ表明セラレタルカ今回不幸ニシテ歐州戰局カ和蘭ニ波及スルニ至リ帝國ノ本問題ニ關スル關心ハ切實ナルモノアリ、帝國政府ハ貴國政府カ今后モ右ノ決意ヲ堅持セラルヘキコトヲ期待スルモノナリ

尙貴國ガ英佛ト共同シテ獨逸ト交戰セラル、結果蘭印ニ關スル新ナル措置ノ爲日本ト蘭印トノ經濟關係ノ維持増進カ阻害セラル、ニ至ルカ如キコトハ貴國トノ傳統的友好關係ニ鑑ミ我方ノ堪ヘ難キ所ナルニ付此點貴國政府ニ於テモ特ニ留意セラレンコトヲ希望ス

尙本件ニ付テハ他ノ關係交戰國ニモ申入レタリ

The Japanese Government are deeply concerned over any development that may affect the *status quo* of the Netherlands East Indies, in view of the close economic relations existing between Japan and that Netherlands colony as well as from the standpoint of peace and stability of East Asia. I made this position of Japan clear in my announcement made on the 15th of last month.

Regarding the matter, the Netherlands Government at that time expressed their appreciation of the Japanese Government's attitude, and stated that the Netherlands Government had not sought nor would seek in the future any country's protection of the Netherlands East Indies, and that the Netherlands Government were determined to refuse any offer of protection or intervention of any kind which might be made by any country. Unfortunately, however, the European war has now spread to the Netherlands, making the

concern felt by Japan regarding the Netherlands East Indies still more acute. The Japanese Government earnestly hope that Your Excellency's Government will continue to maintain that firm determination.

If, as a consequence of your country's waging war against Germany in common with Great Britain and France, the maintenance and promotion of economic relations between Japan and the Netherlands East Indies should be impaired by any new measure adopted concerning the Netherlands East Indies, it would be what Japan can hardly bear, in view of the traditionally friendly relations subsisting between your country and mine. It is earnestly hoped, therefore, that Your Excellency's Government will pay special attention to this point.

I wish to add that similar steps have been taken with regard to other belligerent countries concerned.

(□)對獨申入(昭和十五年五月十一日)

帝國政府ハ日本ト蘭領印度トノ緊密ナル經濟關係及ビ東亞ノ平和及安定ノ見地ヨリ蘭印ノ現狀ニ何等カノ變更ヲ來スガ如キ事態ノ發生ニ就テハ深甚ナル關心ヲ有スル次第ニシテ曩ニ四月十五日日本大臣ヨリ右旨宣明スル所アリタルガ今回歐洲戦局ガ和蘭ニ波及シタルニ鑑ミ右帝國政府ノ關心ハ一層切實ナルモノアリ就テハ茲ニ前四月十五日發表寫ヲ差上クルニ付キ右ノ次第貴國政府ニ傳達アリ度シ

尙蘭印ノ現狀維持尊重方ニ關シテハ本日他ノ關係交戰國政府ニモ申入ル、コトニシタルニ付右爲念申添フ

The Japanese Government are deeply concerned over any development that may affect the *status quo* of the Netherlands East Indies, in view of the close economic relations existing between Japan and that Dutch colony as well as from the standpoint of peace and stability of East Asia. I made this position of Japan clear in my announcement made the 15th of last month.

Now, in view of the spread of European war to the Netherlands, the concern felt by the Japanese Government have become still more acute. In this connection I want to hand to you a copy of the said announcement of April 15, which I wish your Excellency will be good enough to transmit to your Government.

As regards the matter of respecting the *status quo* of the Netherlands East Indies, I wish to add that similar steps will be made by the J. Y. with regards to the Government of other belligerent countries concerned.

(ハ) 對英、佛申入(昭和十五年五月十一日)

帝國政府ハ日本ト蘭領印度トノ緊密ナル經濟關係及ヒ東亞ノ平和及安定ノ見地ヨリ蘭印ノ現状ニ何等カノ變更ヲ來スガ如キ事態ノ發生ニ就テハ深甚ナル關心ヲ有スル次第ニシテ曩ニ四月十五日日本大臣ヨリ宣明スル所アリ右ニ關シテハ和蘭政府ノミナラズ貴國政府ニ於テモ同感ノ意ヲ表明セラレタルガ今回愈々歐洲戰局ガ和蘭ニ波及スルニ至リタルヲ以テ帝國ノ本問題ニ關スル關心ハ一層切實ナルモノアリ、帝國政府ハ貴國政府カ曩ニ表明セラレタル蘭印ノ現状ヲ尊重セラレル、態度ニ變更ナカル可キ事ヲ期待スルモノナリ。

尙貴國ガ和蘭ト共同シテ獨逸ト交戦セラル、結果蘭印ニ關スル新ナル措置ノ爲日本ト蘭印トノ經濟關係ノ維持増進ガ阻害セラル、ニ至ルコトハ我國トシテ堪エ難キ所ナルヲ以テ斯ノ如キコトナキ様貴國政府ニ於テモ嚴ニ留意セラレンコトヲ希望ス

尙蘭印ノ現状維持尊重方ニ關シテハ本日他ノ關係交戦國政府ニモ申入ル、コト、シタルニ付右爲念申添フ。

The Japanese Government are deeply concerned over any development that may affect the *status quo* of the Netherlands East Indies, in view of the close economic relations existing between Japan and that Netherlands colony as well as from the standpoint of

peace and stability of East Asia. I made this position of Japan clear in my announcement made on the 15th of last month.

Regarding the matter, not only the Netherlands Government but your Excellency's Government expressed the same sentiment as ours. However, the European war has now spread to the Netherlands, making the concern felt by Japan regarding the Netherlands East Indies more acute. The Japanese Government earnestly hope that no change will be made in the attitude previously expressed by your Excellency's Government of respecting the *status quo* of the Netherlands East Indies.

If, as a consequence of your country's waging war against Germany in common with the Netherlands, the maintenance and promotion of economic relations between Japan and the Netherlands East Indies should be impaired by any new measure adopted concerning the Netherlands East Indies, it would be what Japan can hardly bear. It is earnestly hoped that your Excellency's Government will pay strict attention so that such a situation will not arise.

As regards the matter of respecting the *status quo* of the Netherlands East Indies, I wish to add that similar steps will be taken with regard to other belligerent countries concerned.

(二) 外務省情報部長談(昭和十五年五月十一日午後七時)

帝國政府ハ曩ニ和蘭ニ戰爭ノ波及スベキ場合ヲ慮リ去ル四月十五日蘭領印度ノ現狀ニ何等カノ變更ヲ來スカ如キ事態ノ發生ニ就テハ深甚ナル關心ヲ有スル旨態度ヲ宣明シ且和蘭政府ニ右ノ次第ヲ通告シタルニ和蘭政府ハ如何ナル場合ニモ右現狀維持ノ方針ヲ變更セザルノ決意ヲ表明スル所ガアツタカ、今回愈々戦局ガ和蘭ニ波及スルニ至リタルヲ以テ本十一日午後有田外務大臣ヨリ在京蘭國公使ノ來訪ヲ求メ蘭國政府ガ蘭印問題ニ關スル右決意ヲ堅持スベキコトヲ期待スル旨申入ル、一方在京英獨佛各交戰國代表者ニ對シテモ帝國ノ本問題ニ對スル關心ニ付注意ヲ喚起シタ尙米國及伊太利ノ兩中立國代表者ニ對シテモ帝國ガ關係交戰國政府ニ右ノ如キ申入ヲ爲セル旨ヲ參考トシテ通報シタ。

Statement of the Foreign Office Spokesman concerning the Maintenance of *Status Quo* of the Netherlands East Indies.

May 11, 1940.

Considering the possibility of the war in Europe spreading to the Netherlands, the Japanese Government made public on the 15 of April their attitude of deep concern over any development that may affect the *status quo* of the Netherlands East Indies, and subsequently they notified the Netherlands Government to that effect. In connection with this, the Netherlands Government expressed their determination not to alter their policy of maintaining the *status quo* of the said Netherlands colony under any circumstances.

As the European war has now spread to the Netherlands, the Foreign Minister, Mr. Hachiro Arita, invited the Netherlands Minister at Tokyo, General J. C. Pabst, to the Foreign Office this afternoon, and informed the latter that the Japanese Government earnestly hope that the Netherlands Government will firmly maintain their said determination regarding the question of the Netherlands East Indies.

The Foreign Minister has also called attention of the representatives in Tokyo of belligerent countries, namely, Great Britain, Germany and France, to Japan's concern over the said question.

The Foreign Minister has informed the representatives of two neutral countries, the United States and Italy, for their reference, the fact that the Japanese Government made the above notification to the Governments of belligerent countries concerned.

附錄 第四號

蘭印物資十三品目ニ關スル有田外務大臣及ビ在京和蘭公使書翰

(イ)昭和十五年五月二十日附在京和蘭公使宛有田外務大臣書翰

通六機密第一〇號

以書翰啓上致候陳者閣下ハ本月十六日蘭領印度產物資ニ關スル本大臣トノ會談ニ於テ蘭印總督ヨリ蘭印トシテハ石油ハ素ヨリ錫、護謨其他ノ本邦必需原料品ノ對日輸出ヲ制限スル意嚮ナク日蘭印間ノ一般經濟關係ヲ從來通り持續スルコトヲ希望スル旨電報越セル趣ヲ述ベラレタルガ帝國政府ニ於テモ總督ノ通報ヲ謝スル旨ヲ通知スルト同時ニ右ニ關連シ從來蘭印ヨリ帝國ヘ輸出セラレ居ル物資ハ多大多様ナルトコロ差當リ帝國ノ特ニ必要トスル別紙記載十三品目ニ付蘭印政府ニ於テ右ヲ今後毎年少クモ別紙記載數量ヲ將來如何ナル事態ニ於テモ日本ニ輸出スルコトノ確約ヲ與ヘラレンコトヲ要請スルノ光榮ヲ有シ候

本大臣ハ前記總督言明竝ニ獨蘭戰爭開始後蘭印總督ニ賦與セラレタル廣汎ナル權限(本年五月十一日附本大臣宛貴翰參照)ニ鑑ミ右帝國政府ノ要請ニ對スル蘭印總督ノ應諾力出來得ル限り速ニ閣下ヨリ文書ヲ以通報セラレンコトヲ希望且期待スルモノニ有之候

右申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

昭和十五年五月二十日

外務大臣 有田 八郎

和蘭國特命全權公使

「ゼネラル・イユー・セー・パプスト」閣下

- | | |
|----------|-------------|
| 一、錫(鑛石共) | 三、〇〇〇 廛 |
| 二、護謨 | 二〇、〇〇〇 同 |
| 三、鑛油 | 一、〇〇〇、〇〇〇 同 |

四、「ボーキサイト」	一〇〇、〇〇〇同
五、「ニッケル」鑛	一五〇、〇〇〇同
六、滿 俺 鑛	五〇、〇〇〇同
七、「ウオルフラム」	一、〇〇〇同
八、屑 鐵	一〇〇、〇〇〇同
九、「クローム」銑鐵	五、〇〇〇同
一〇、工 業 鹽	一〇〇、〇〇〇同
一一、「ヒマシ」	四、〇〇〇同
一二、規 那 皮	六〇〇同
一三、「モリブデン」	一、〇〇〇同

No. 10/C6

Translation.

Monsieur le Ministre,

20th May, 1940.

I have the honour to refer to my conversation with Your Excellency on the 16th May concerning the products of the Netherlands East Indies, in the course of which you informed me that you had received a telegram from the Governor-General of the Netherlands East Indies to the effect that the Government-General of the Netherlands East Indies had no intention of placing any restriction in future on the exportation to Japan of mineral oil, tin, rubber and other raw materials which are of vital importance to Japan, and that it was the desire of the same Government-General to maintain the general economic relations between Japan and the Netherlands East

Indies as close as ever.

While informing Your Excellency that the Japanese Government fully appreciate the communication of the Governor-General of the Netherlands East Indies I wish to point out that, in addition to mineral oil, tin and rubber, there are many other kinds of commodities hitherto imported into Japan from the Netherlands East Indies which are of vital importance to this country. It is, therefore, requested that the Governor-General of the Netherlands East Indies would give a definite assurance that, for the time being, at least the quantities of the thirteen articles enumerated in the attached list shall be exported to Japan each year from the Netherlands East Indies under any circumstances that may arise in future.

In view of the above-mentioned telegraphic communication from the Governor-General of the Netherlands East Indies and of the wide powers with which he has been vested since the outbreak of hostilities between the Netherlands and Germany (vide Your Excellency's Note addressed to me under date of the 11th May), I shall be grateful if Your Excellency will be good enough to inform me in writing as soon as possible that the Governor-General of the Netherlands East Indies ment.
(文書部分終了)

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency, Monsieur le Ministre, the assurance of my high consideration.

(L. S.)

Minister for Foreign Affairs.

Articles.	Quantities in Metric tons (weight)
1. Tin (including ore)	3,000 tons
2. Rubber	20,000 tons
3. Mineral Oil	1,000,000 tons

4. Bauxite	200,000 tons
5. Nickel Ore	150,000 tons
6. Manganese Ore	50,000 tons
7. Wolfram	1,000 tons
8. Scrap Iron	100,000 tons
9. Chrome Iron Ore	5,000 tons
10. Salt	100,000 tons
11. Castor Seeds	4,000 tons
12. Quinine Bark	600 tons
13. Molybdenum	1,000 tons

(六カ)
(ロ)昭和十五年六月五日附有田外務大臣宛在日和蘭公使書翰

(假譯)

以書翰啓上致候陳者兩國政府間ノ經濟關係改善ニ付和蘭國政府及日本國政府間ニ交換セラレタル書翰ニ關シ本使ハ先ヅ閣下ニ對シ和蘭政府ハ和蘭國カ當面スル戰爭ニ依リ惹起セラレタル困難ナル地位ニ關シ日本國政府ニ依リ示サレタル同情ヲ深ク多トスル旨ヲ通告スル光榮ヲ有シ候

我政府ハ又在「ハーグ」日本國公使ニヨリ提出セラレタル答ノトコロ一九四〇年五月十八日在「バタヴィア」日本國總領事ヨリ蘭領印度總督ニ提出セラレ且一九四〇年五月二十日附閣下發書翰通六第一〇號ニ依リ補充セラレタル覺書ハ此ノ不幸ナル時ニ於テ相互ノ接觸及討議ノ缺除ノタメ三世紀來幸ニ和蘭國及日本國ノ間ニ存在スル傳統的友好關係ヲ害スヘキ緊

張力發生シ且其繼續スルヲ防止セントスル意圖ニ出テラレタルモノト思考致候

和蘭國政府ハ虛偽ノ報道及惡意ノ宣傳ト闘フ必要有リトノ日本國政府ノ意見ニ全く同感ニ有之候而シテ右目的ハ卒直且冷靜ナル雰圍氣ノ下ニ於ケル接觸ニ依リ最モヨク達成セラルヘク候

女皇政府ハ和蘭國及日本國間ノ關係特ニ蘭領印度及日本國間ノ關係ニ付テハ憂慮スヘキ何等ノ理由無之ト思考致候

右ニ關シテハ兩國間ノ經濟關係ハ一九三七年四月九日所謂「ハルト」石澤協定ニヨリ規律セラレタル事ヲ想起スルコト有益ナルヘク候當時双方ニ於テ或ル協定ノ適用ニ付キ常ニ口頭又ハ書面ニ依ル討議カ行ハレ候而シテ右討議ニ於テハ常ニ友好精神ニ支配セラレ其例トシテ本使ハ一九三八年和蘭國政府カ蘭領印度及日本國間ノ貿易尻ヲ漸次均衡セシムルコト竝ニ砂糖ノ如キ、土人產物ヲ出來得ル限り買付方努力スヘキ旨ノ日本國ノ約束ニ關シ「ハルト」石澤協定ニ依リ作ラレタル可能性カ實現ヲ見ルコト遼遠ナリシ事實ニ付キ日本國政府ノ注意ヲ喚起スルヲ適當ト認メタルコトヲ指摘致候右申入ハ右輸出カ土人ニトリ絶大ナル重要性ヲ有スル事實ニ基キタルモノニ有之即チ土人ノ購買力ハ多數ノ日本品ヲ輸入スル基礎ニ有之候

然ルニ其結果ハ和蘭國政府ニトリ余リ満足ナラサリシニ不拘我政府ハ支那事變カ日本國ニ於ケル經濟情勢及「ハルト」石澤協定ノ右部分ノ實行ニ對シ甚大ナル影響ヲ及ボセリトノ日本國政府ノ説明ヲ受諾致候和蘭國政府ハ「ハルト」石澤協定ノ結果ヲ判斷スルニ當リテハ常ニ戰爭狀態ヨリ不可避的ニ生スル已ムナキ事情ヲ考慮致候依テ和蘭國政府ハ日本國政府ニ於テモ和蘭國政府モ亦戰爭ニ入りタル事實ヲ考慮セラル、モノト確信致候而シテ右戰爭狀態ハ當然蘭領印度ノ經濟狀態ニ影響ヲ及ボスヘキモノニ有之候

然レドモ我政府ハ日本國ニトリテモ將又蘭領印度ニトリテモ兩國間ノ通商關係カ障礙ナク發展スルコトノ利益ナルコトヲ充分了解致候

和蘭國政府ハ蘭領印度ノ現狀維持ノ意義ニ關シ閣下カ爲サレタル聲明ヲ満足ヲ以テ諒承致候我政府ハ右現狀ヲ無條件ニ維

持スヘキ意圖ヲ再三再四確認致候右現狀維持ハ和蘭國ノ同盟國及他ノ太平洋沿岸國ノ利益ニ極メテ密接ナル關係ヲ有スルニ鑑ミ右相互ノ聲明ハ益々重要性ヲ有スルモノト認メラレ右ハ英國、佛蘭西及米國ニ依リ爲サレタル聲明ニヨリテモ明白ニ表明セラレ候

實ニ蘭領印度ノ地位ニ變更ナク且同國力不斷ニ諸種ノ原料品及食料品ヲ以テ世界ヘノ供給ニ參加スルコトヲ繼續シ得ルコトハ實ニ世界ノ此ノ部分（東洋）ニ於ケル平和維持ノ爲極メテ重要ニ有之候

本使ハ次ニ閣下ニ對シ一九四〇年二月二日附在「ハーグ」日本國公使ノ書翰及貴翰ニ依リ補充セラレタル前記覺書中ニ含マレタル提案ニ對スル回答ヲ致スベク候

蘭領印度及日本國間通商關係

和蘭國政府及蘭領印度政府ハ既ニ決シテ蘭領印度及日本國間ノ通商ヲ制限セントスルカ如キ意嚮ナキコトヲ聲明セルカ寧口通商關係ノ漸進的發展ハ蘭領印度ニトリテモ將又日本國ニトリテモ利益トスル所ニ有之國際關係ノ變化シタル近時ニ於テ自己ノ輸出ヲ遂行スルニ非ザレバ其絕對必要トスル輸入品ヲ取得シ得ザル蘭領印度ノ國民ニトリテハ輸出ハ嘗テ如何ナル時代ニ於テモナカリシ死活の重要性ヲ有スルニ鑑ミ右ノ次第ハ愈明白ニ有之候

而シテ近年極度ニ不利トナリシ貿易尻ヲ均衡セシムルコトノ可能性増大スルトセバ夫丈更ニ日本品ノ輸入ヲ増進スルコト可能ナルヘク從テ和蘭國政府ハ過去ニ於テ常ニ日本向輸出ノ増進ニ努メタルニ鑑ミ和蘭國政府及蘭領印度政府ニ於テモ掲記セラレタル十三品目ニ付日本國政府ノ要求ニ係ル保障ヲ繰返スコトニ何等ノ反對無之候

而シテ右數量ニ關シ一切ノ誤解ヲ避クル爲メ閣下ハ附屬書中ニ右ニ關スル説明ヲ見出サルベク候

曩ニ發シタル聲明ニ合致スル前述ノ事項ニ加ヘ國際情勢ノ變化ニ依リ特ニ蘭領印度力爲替管理上必要ナル規則ヲ採用スル必要ニ迫ラレタルコトヲ附言致度候日本國政府ハ右措置力就中圓及弗爲替維持ノ爲絕對ニ必要ナルコトヲ御了解相成モノト存候次デ蘭領印度ヨリ輸出セラル、產品ガ終局ニ於テ敵ノ手中ニ落トルコトヲ防止スル爲及過度ノ輸出ガ蘭領印度自身

ニ於テ缺乏ヲ惹起スルコトヲ防止スル爲ノ措置ヲ執ル必要有之候然シ右ノ如キ措置ヲ執ルニ當リテハ外國トノ正常ノ通商ヲ阻害スルコトヲ能フ限リ尠カラシムベキ實施方法ヲ講究セラル、コトト存候「ハルト」石澤協定ニ於テ意見ノ一致ニ達シタル詳細ナル討議ノ目的トナレル日本國原產品ノ輸入ハ正常ニ繼續セラル可ク現在ノ情勢ニ鑑ミ右輸入ガ減少スルヨリモ寧ロ増加ノ傾向ヲ有スルコトヲ希望シ得ベシト存候和蘭國政府ハ現在ノ事態ガ必然的ニ現行輸入規則ノ適用ニ變更ヲ必要ナラシムルコトヲ看過スルモノニ無之候然シ我政府ハ右規則ノ原則ガ其ノ當初ノ價值ヲ些モ喪失シタルモノニ非スト思考仕候

前述ノ如ク輸入ノ可能性ハ輸出ノ可能性ト表裏ヲ爲スモノニ有之從テ右輸出ヲ阻害スル一切ノ事態ハ蘭領印度ノ不利トナルト同時ニ又日本國ニトリテモ不利ノ結果トナルベク候右ニ關シテハ均衡政策ヲ遂行セラル、モノト存シ候日本向輸出ノ増進及特ニ土人ノ購買力ヲ増加スル產品(砂糖、「コブラ」、「カポック」、珈琲、「パーム」油、煙草、玉蜀黍、「ダマル」、「コパール」及其他ノ樹脂及簾)ノ輸出ノ恢復ハ輸入可能性ノ維持及増大ニ特ニ寄與シ得ベシト信ジ候和蘭政府ハ蘭領印度ノ必要トスル物品ニ關シ禁止的又ハ制限的措置ヲ執ルコトヲ能フ限リ差控フベシトノ日本國政府ノ意嚮ヲ満足ヲ以テ諒承仕リ候又和蘭國政府ハ原料或ハ燃料ノ缺乏スル場合ニ付テ表明セラレタル留保ヲモ諒承致候日本國政府ハ土人產品ノ輸入ヲ増加スル爲ノ實質的措置ヲ示唆セラレ候處右示唆ハ其ノ正當ナル價值ニ從ヒ「アプレシエート」セラルベク和蘭國政府ハ右措置ガ「ハルト」石澤協定ニ特記セラレタル產品ノ輸入ノ恢復又ハ改善ニ寄與センコトヲ敢テ希望スル次第ニ有之候入國問題

和蘭國政府ハ遺憾乍ラ外國人ノ勞働許可ヲ規定スル規則ヲ撤廢スルコトヲ得ザル次第ニ有之候元來右規則ハ蘭領印度ニ於テ勞働力ノ保護特ニ相當進歩セル文化ノ程度ニ達セル土人、歐羅巴人及(蘭領)印度ニ於テ生レタル非土人タル東洋人ニ關スル勞働力ノ保護ニ必要ナル措置ヲ構成スルモノニ有之右規則ヲ撤廢スル時ハ凡ユル種類ノ外國人ノ殺到ヲ招キ以テ前掲諸人種カ就職スル可能性ニ重大ナル支障ヲ與フル結果ヲ來スニ至ルヘク候他方一國ノミニ適用セラル、部分的撤廢ノ如キ

ハ凡ユル國民ニ對シ同一待遇ヲ與フル和蘭國政府ノ傳統的政策ト背馳スルヲ以テ之ヲ爲スコト不可能ナルコト勿論ニ有之候又斯ル措置ハ希望セラレタル現狀ノ侵犯ト相成ルベク候

和蘭國政府ハ日本人ノ要求ハ深甚ノ考慮ヲ以テ取扱ハレ且事業主ガ許可取得ノ必要ヲ證明シタル場合右許可ガ賦與セラレザリシ如キ場合ハ一モ發生シタルコトナシトノ意見ニ有之候又和蘭國政府ハ右政策ヲ繼續シテ實行致スベク依テ日本政府ニ於テモ右措置ノ必要性ヲ充分了解セラレ將來其ノ臣民ノ爲何等重大ナル困難ヲ危惧セラルル如キコトナカルベシト確信仕候

我政府ハ日本國ニ於テハ和蘭國商人及其商業使用人ノ入國ニ付何等ノ制限存在シ居ラザルコトヲ多トシ居ルモノニ有之候ヘ共日本國ニ於ケル和蘭國臣民ハ極メテ小數ナルコト及當該商人ハ大部分日本人勞働力ヲ使用シ居ル事實ハ之ヲ考慮スルコトヲ要スベシト存候

商社及投資

和蘭國政府ハ蘭領印度ニ於テハ外國人ニヨル企業開始及投資ニ關シテ自由政策ヲ採リ居ル事實ニ關シ注意ヲ喚起スルモノニ有之候

右政策ハ一九一二年ノ日蘭通商條約中ニ表示セラレ居ル處ニシテ和蘭國政府ハ蘭領印度居住者ノ利益又ハ和蘭王國ノ死活の利益ヲ害スル場合ノ外何等條件乃至制限措置ヲ設ケタルコト無之又斯ル場合モ第三國ニ關シ一律ニ適用シ來レルモノニ有之候和蘭國政府ノ意見ニ依レバ右政策ハ極メテ公平且公正ニテ將來ニ於テモ維持セラルベキモノニ有之候前述ノ如キ理由ヨリシテ特定國ニ對シ除外例ヲ設クルコトハ不可能ニ有之候又各個ノ場合ニ關シ即チ和蘭國政府ハ日蘭合同企業ニ付キテモ亦各個人商人ノ發意ニ委セラレ居ル事實ニ付日本政府ノ注意ヲ喚起スルモノニ候又政府ハ或企業ニ對シテハ公共上ノ理由ニヨリ開發ノ權利ヲ留保スルモノニ有之候

尙和蘭國政府ハ蘭領印度ニ於テ日本國ノ利益カ和蘭國政府ノ完全ナル保護ヲ享有シ居ルト同様日本國政府ニ關スル限り日

本、支那、滿洲ニ於テ和蘭國ノ利益カ保護セラル、モノナリト推測致候

然日本政府ニ於テ予定セラル、是等ノ地域ニ於ケル投資ノ使宣ハ和蘭國政府ノ多トスルトコロナル處和蘭國政府ハ差當リ右ノ如キ投資ニ付キ和蘭國臣民カ有スルトアルベキ興味ハ比較的僅少ナリト思考致候

新聞取締

蘭領印度官憲カ第三國ニ對シ好マシカラザル性質ヲ有スル新聞記事ノ掲載ヲ抑制スル様新聞ニ對シ深甚ナル注意ヲ拂ヒ居ルコトハ日本政府ノ御承知ノ通り有之右注意ニ依リ蘭領印度ニ於ケル支那事變ノ反響カ抑制セラレ且ツ一時ナリトモ重大ナル性質ヲ帶ビタルコトナキコトヲ陳述スルコトハ有益ト存候尙現在ニ於テハ右取締ハ更ニ強化セラレ居リ候

和蘭國政府ハ右ノ如キ措置ニヨリ新聞ノ活動ノ爲ニ友好關係カ危險ニ陥ルカ如キ憂ハ毫ナキモノト思考致候

前記ノ如キ論據ニ鑑ミ和蘭國政府ハ現在實際上ノ關係ニヨリ補足セラレタル現行諸條約ハ和蘭國及日本國間ノ良好關係特ニ蘭領印度及日本國間ノ經濟關係ニ付テモ右良好關係ガ維持セラルベキ原則及基礎ヲ満足ニ表現シ居ルモノト思考致候

和蘭國政府ハ日本國政府ニ於テ疑念ヲ抱カルベキ諸問題ニ關シ前記記述中ニ満足ナル説明ヲ與ヘタルモノト信ジ度候尤モ今後蘭領印度及日本國間ノ經濟關係ニ關スル具体的問題ニ付双方ヨリ個々ノ問題提起セラル、コトハアリ得ベキ處如斯場合ハ右問題ハ在「バタビヤ」日本國總領事及蘭領印度政府ノ指示スベキ機關ニヨリ討議セラレ且ツ處理セラルベク候、

和蘭國政府ハ多クノ場合如斯シテ此等ノ問題ハ解決ヲ見出シ得ルモノト信ジ候、本使ハ茲ニ閣下ニ向ツテ敬意ヲ表シ候
敬具

一九四〇年六月六日

和蘭國特命全權公使

イユー・セー・パブスト

外務大臣 有田 八郎閣下

附屬書

一九四〇年五月十八日附ヲ以テ在「バタヴィア」日本國總領事ニ依リ蘭領印度總督ニ提出セラレタル書翰及一九四〇年五月二十日有田八郎閣下ニ依リ在東京和蘭國公使ニ提出セラレタル書翰中ニ掲記セラレタル十三ノ輸出品ニ關スル若干ノ備考

「ボーキサイト」	(二〇〇、〇〇〇「キロトン」)
「クローム」鐵鑛	(五、〇〇〇「同」)
「ニッケル」鑛	(二五〇、〇〇〇「同」)
錫 及 錫 鑛	(三、〇〇〇「同」)
護 謨	(二〇、〇〇〇「同」)
規 那 皮	(六〇〇「同」)
蓖 麻 子	(四、〇〇〇「同」)

以上ノ諸品ニ對スル數字ハ何等ノ備考ヲ必要トセズ

石油產品(一、〇〇〇、〇〇〇「キロトン」)ニ對スル數字ハ過去三ケ年間ニ於ケル蘭領印度ノ日本向平均輸出货量ニ超過スルモノニシテ右輸出ハ左ノ通ナリキ

一九三七年	八六九、〇〇〇「キロトン」
一九三八年	六六八、〇〇〇「同」
一九三九年	五七三、〇〇〇「同」

蘭領印度ノ石油會社ハ日本側ニ於テ適時ニ契約ガ締結セラル、コトヲ條件トシ右要求量ヲ供給スルコト可能ナリト思考セ

ラル鹽一〇〇、〇〇〇「キロトン」ハ蘭領印度ニ於テ生産セラル、コト可能ナリ但シ新鹽田ヲ開發スルコト必要ナルニツキ數年間ノ契約ヲ締結セラル、コトヲ條件トス元來蘭領印度ニ於ケル鹽ノ生産ハ專ラ國內市場ニ向ケラレ居ル處準備量ハ惡天候ノ結果殆ド枯涸シ居リ從テ一九四〇年九月以前ニ供給ヲ開始スルコトハ普通ニテハ不可能ナルベシ尤モ數年間ニ付キ契約ヲ締結セラル、ニ於テハ右期日ハ繰上ゲラルベシ蓋シ右ノ場合ハ必要ナル準備量ヲ補充セラル、コト確實ナルヲ以テナリ

屑鐵(一〇〇、〇〇〇「キロトン」)ニ對スル數字ハ毎年輸出ニ供シ得ル數量ヲ超過ス一九三七年ニハ一〇三、七〇〇「キロトン」一九三八年ニハ六〇、六〇〇「キロトン」及一九三九年ニハ四七、二〇〇「キロトン」ヲ輸出シタル處右輸出數量ハ殆ド專ラ日本ニ向ケラレタリ輸出ニ向ケ得ル數量ノ屑鐵ヲ日本向輸出ニスルコトハ如何ナル制限ニモ服セシメラレザルベキコトヲ保障スル用意アリ「マンガン」鑛(五〇、〇〇〇「キロトン」)ニ付テノ數字ハ正確ニ非ザルヤニ思考セラル即チ蘭印ノ全輸出數量ハ殆ド全生産量ニ相當シ一九三七年ニハ一五、七〇〇「キロトン」、一九三八年ニハ一一、二〇〇「キロトン」ニシテ一九三九年ニハ七、三〇〇「キロトン」ナリシ處日本ハ右數量ノ内全然買付ヲ爲シ居ラズ而シテ現ニ稼行中ノ鑛山以外ニハ重要ナル鑛區ノ存在知ラレ居ラザル次第ナリ日本ハ現ニ實行中ノ契約ノ許ス限りハ自由ニ本產品ヲ買付得ベシ「ウオルフラム」及「モリブデン」(一、〇〇〇「トン」)ハ現實生産ノ數字ト符合セズ尤モ「ウオルフラム」ハ錫採掘中極メテ少量取得セラル、ニ過ギズ右數字ハ最高年數「トン」ナル處常ニ日本ニ輸出セラレ居タリ又「モリブデン」ノ輸出ハ嘗テ行ハレタルコトナシ右ハ蘭領印度ニ於テハ極メテ稀ニ發見セラル、ニ過ギズ

LÉGATION DES PAYS-BAS

N°873 H.H. 18 (G).

Tokio, le 6 juin 1940.

Monsieur le Ministre,

En me référant à la correspondance échangée entre le Gouvernement néerlandais et le Gouvernement japonais au sujet de l'amélioration des relations économiques entre les deux pays, j'ai l'honneur de faire savoir à Votre Excellence que le Gouvernement des Pays-Bas apprécie hautement les sentiments de sympathie exprimés par le Gouvernement japonais par rapport à la situation difficile dans laquelle les Pays-Bas se trouvent et qui fut occasionnée par la guerre. Mon Gouvernement apprécie en outre qu'à l'évidence le memorandum destiné à être remis par le Ministre du Japon à La Haye et que fut remis le 18 mai 1940 au Gouverneur-Général des Indes néerlandaises par le Consul-Général du Japon à Batavia, complété par la note de Votre Excellence du 20 mai 1940, no. 10C6, étaient motivés par le souci d'empêcher en ces temps pénibles, que, par un manque de contact et de délibérations, des tensions se manifestent ou se prolongent, qui pourraient nuire aux traditionnelles relations d'amitié qui existent si heureusement entre les Pays-Bas et le Japon depuis trois siècles. D'accord avec le Gouvernement japonais le Gouvernement des Pays-Bas est d'avis qu'il faut combattre les fausses nouvelles et une propagande mal dirigée. Cette fin sera le mieux servie par un contact pris dans une atmosphère de franchise et d'objectivité.

Le Gouvernement de la Reine pense qu'il n'y a aucune raison de s'inquiéter sérieusement des relations entre les Pays-Bas et le Japon et surtout pas des relations entre les Indes néerlandaises et le Japon.

A ce sujet il peut être utile de se rappeler que les relations économiques entre les deux pays furent réglées le 9 avril 1937 par l'accord dit Hart-Ishizawa. De part et d'autre des promesses furent faites et un nombre de proportions furent fixées, tandis qu'au sujet d'autres points et au sujet de l'application de l'accord des délibérations soit orales soit écrites avaient lieu continuellement. A ces délibérations un esprit de bienveillance a toujours prédominé. Comme exemple je puis citer qu'en 1938 le Gouvernement des Pays-Bas a cru opportun d'attirer l'attention du Gouvernement japonais sur le fait que les perspectives ouvertes par l'accord Hart-Ishizawa quant à la

mise en équilibre graduellement de la balance commerciale entre les Indes néerlandaises et le Japon et quant à la promesse du Japon de s'efforcer d'acheter dans une plus large mesure des produits indigènes tel que le sucre, étaient loin d'être réalisées. Cette démarche était dictée par l'importance primordiale qu'ont ces exportations pour la population indigène. Le pouvoir d'achat de cette population est une des bases sur lesquelles repose l'importation de plusieurs articles japonais.

Malgré ce résultat peu satisfaisant pour le Gouvernement des Pays-Bas, mon Gouvernement a accepté l'explication donnée par le Gouvernement japonais que l'incident en Chine influençait considérablement les conditions économiques au Japon ainsi que l'exécution de cette partie de l'accord Hart-Ishizawa. En jugeant les résultats obtenus par l'accord Hart-Ishizawa, le Gouvernement des Pays-Bas a toujours tenu compte des exigences qui découlent inévitablement d'une situation de guerre. Donc, le Gouvernement des Pays-Bas se tient convaincu que le Gouvernement du Japon tiendra compte du fait que lui aussi a été entraîné en guerre. Cet état de guerre doit forcément avoir des répercussions sur la situation économique aux Indes néerlandaises.

Toutefois mon Gouvernement comprend très bien qu'il est d'intérêt pour le Japon aussi bien que pour les Indes néerlandaises que les relations commerciales entre les deux pays se développent sans entraves.

Le Gouvernement des Pays-Bas a pris note avec satisfaction des déclarations faites par Votre Excellence concernant la signification du maintien du status quo des Indes néerlandaises. Mon Gouvernement a confirmé, à maintes reprises, la volonté de maintenir sans réserves ce status quo. Cette déclaration mutuelle est jugée d'avoir d'autant plus d'importance puisque le maintien du status quo touche de très près les intérêts de ses alliés et d'autres pays qui confinent au Pacifique, ce qui ressort clairement des déclarations faites par la Grande Bretagne, la France et les Etats-Unis.

Il est en effet d'une grande importance pour le maintien de la paix dans cette partie du monde que la position des Indes néerlandaises reste intacte, et que ce pays puisse continuer sans interruption à participer à l'approvisionnement du monde avec

différentes matières premières et denrées alimentaires.

Qu'il me soit permis maintenant de donner à Votre Excellence une réponse aux propositions contenues dans la note du Ministre du Japon à La Haye du 2 février 1940 et dans le memorandum suscité, tel qu'il a été complété par la note de Votre Excellence.

Relations Commerciales entre les Indes néerlandaises et le Japon.

Les Gouvernement des Pays-Bas et des Indes néerlandaises ont déjà déclaré qu'il n'est nullement de leur intention de restreindre le commerce entre les Indes néerlandaises et le Japon. Au contraire, le développement progressif des relations commerciales est aussi bien de l'intérêt des Indes néerlandaises que du Japon. Ceci est d'autant plus évident puisque le revenu de l'exportation dans ces temps où les relations internationales ont changé, est plus qu'auparavant d'une importance vitale pour la population des Indes néerlandaises qui ne peut se procurer les articles importés de première nécessité que si l'exportation ne lui en fournit les moyens. Plus il sera possible de mettre en équilibre la balance commerciale, qui pendant les dernières années était fortement négative, plus il sera possible d'encourager encore plus l'importation de produits japonais. Puisque le Gouvernement des Pays-Bas dans le passé s'est toujours efforcé à stimuler l'exportation vers le Japon, il n'existe aucune objection à réitérer l'assurance demandée par le Gouvernement japonais à savoir que le Gouvernement des Pays-Bas ou le Gouvernement des Indes néerlandaises s'abstiendra à prendre des mesures qui pourraient entraver l'exportation des 13 produits mentionnés en quantités également mentionnées. Afin d'éviter tout malentendu concernant ces quantités votre Excellence voudra bien trouver dans l'annexe une note explicative à ce sujet.

Il faut ajouter à ce qui précède, conforme à des déclarations faites antérieurement, que le changement survenu dans les conditions internationales exige en premier lieu que les Indes néerlandaises introduisent un règlement pour le contrôle des changes. Le Gouvernement Impérial comprendra de telles mesures sont inévitables, entre autres pour le maintien des changes du Yen et de la

Dollar. Ensuite il importe de prendre des mesures pour empêcher que les produits exportés par les Indes néerlandaises ne tombent finalement aux mains de l'ennemi et pour empêcher qu'une exportation excessive ne crée une pénurie aux Indes néerlandaises même. En prenant ces mesures on cherchera une méthode d'exécution qui nuira aussi peu que possible aux échanges commerciales normales avec l'étranger. L'importation de marchandises d'origine japonaise, qui a fait l'objet de délibérations approfondies menant à une identité de vues exprimée dans l'accord Hart-Ishizawa, sera poursuivie normalement. Il y a raison d'espérer vu les conditions actuelles que cette importation aura plutôt tendance à augmenter qu'à diminuer.

Le Gouvernement Royal ne perd pas de vue que les événements actuels demandent nécessairement une modification dans l'application des règlements d'importation existants. Il estime tout de même que la base de ces règlements n'a rien perdu de sa valeur originale.

Comme il est dit plus haut, la possibilité d'importer est le complément direct de la possibilité d'exporter. Donc, tout ce qui nuira à cette exportation sera en même temps au détriment du Japon qu'au détriment des Indes néerlandaises. A ce sujet on poursuivra une politique d'équilibre. Des exportations intensifiées vers le Japon et la reprise de l'exportation des produits qui stimulent par excellence le pouvoir d'achat de la population indigène (sucre, copra, capoc, café, huile de palmier, tabac, maïs, bois, damar, copal et autres résines et rotan) pourraient contribuer spécialement au maintien et à l'accroissement des possibilités d'importer.

Le Gouvernement des Pays-Bas a noté avec satisfaction les intentions du Gouvernement japonais de s'abstenir autant que possible de prendre des mesures prohibitives ou restrictives en ce qui concerne des articles dont ont besoin les Indes néerlandaises. Il a également pris note des réserves exprimées pour le cas où les matières premières ou les combustibles vinrent à manquer.

Le Gouvernement du Japon avait suggéré de prendre des mesures positives afin de stimuler l'importation des produits indigènes. Cette suggestion a été appréciée à sa juste valeur et le Gouvernement Royal ose espérer que ces mesures contribueront au

rétablissement ou à l'amélioration de l'importation des produits énumérés spécifiquement dans l'accord Hart-Ishizawa.

IMMIGRATIONS.

Le Gouvernement des Pays-Bas à son regret n'est pas à même de révoquer l'ordonnance réglant les permis de travail des étrangers. Cette ordonnance constitue une mesure nécessaire à la protection de la main d'œuvre aux Indes, particulièrement en ce qui concerne les indigènes ayant atteint un degré de culture assez avancé, les européens et les orientaux non indigènes nés aux Indes. La révocation de cette ordonnance aurait pour résultat une affluence de toutes sortes d'étrangers ce qui nuirait sérieusement aux possibilités de trouver du travail des catégories de personnes précitées. Il va de soi qu'une révocation partielle applicable à un seul pays, est impossible vu qu'une mesure pareille serait en contradiction avec la politique traditionnelle du Gouvernement des Pays-Bas, impliquant un traitement uniforme de toutes les nationalités. Une pareille mesure constituerait une violation du status quo désiré.

Le Gouvernement des Pays-Bas est d'avis que les demandes de personnes japonaises ont été traitées avec une grande considération et qu'aucun cas s'est présenté où le patron ayant prouvé la nécessité d'obtenir une permission, celle-ci ne lui fut pas accordée. Le Gouvernement des Pays-Bas continuera de poursuivre cette politique et reste convaincu que le Gouvernement japonais, en pleine compréhension de la nécessité de ces mesures, n'aura à l'avenir aucune sérieuse difficulté à craindre pour ses ressortissants.

Mon Gouvernement l'apprécie qu'au Japon aucune restriction existe quant à l'immigration des commerçants néerlandais et des employés de commerce. Du reste il faut considérer le nombre très restreint des ressortissants néerlandais au Japon et le fait que les commerçants en question emploient pour la plus grande partie de la main d'œuvre japonaise.

Maisons de commerce et placement de capitaux.

Le Gouvernement néerlandais se permet d'attirer l'attention sur le fait qu'une politique libérale est poursuivie aux Indes néerlandaises quant à la fondation d'entreprises commerciales et le placement des capitaux par les étrangers.

Cette politique trouve son expression dans le traité de commerce entre les Pays-Bas et le Japon de 1912. Le Gouvernement n'a posé des conditions ou institué des mesures restrictives que dans les cas où les intérêts de la population des Indes néerlandaises ou des intérêts vitaux du Royaume ont rendu inévitable telle action, ceci sans aucune discrimination de pays. Cette politique selon l'avis de mon Gouvernement est si équitable et bien justifiée qu'on devra la maintenir à l'avenir. Pour des raisons déjà données plus haut il n'est pas possible de faire une exception pour un pays séparé. Quant à des cas isolés le Gouvernement Royal doit attirer l'attention du Gouvernement Impérial sur le fait que l'initiative, également pour les entreprises mixtes néerlando-japonaise est laissée aux commerçants individuels. Le Gouvernement se réserve le droit d'exploiter pour des raisons d'ordre public certaines entreprises elle-même.

Le Gouvernement des Pays-Bas présume sans autre que la protection des intérêts néerlandais au Japon, en Chine et en Mandchourie, pour autant que cela regarde le Gouvernement japonais, est sauvegardée, comme également les intérêts japonais aux Indes néerlandaises jouissent de la protection absolue du Gouvernement des Pays-Bas. Les facilités pour des placements dans ces dits territoires mise en perspective par le Gouvernement japonais sont appréciées par le Gouvernement néerlandais, qui estime toutefois que l'intérêt qu'aurait ses ressortissants pour de tels placements est assez restreint pour le moment.

Contrôle de la presse.

Le Gouvernement japonais n'ignore pas que les autorités des Indes néerlandaises surveillent soigneusement la presse pour reprimer la publication d'articles ayant un caractère indésirable vis à vis de puissances étrangères. Il peut être utile à rapporter que

grâce à cette surveillance la répercussion aux Indes néerlandaises des événements en China a été limitée et n'a jamais, même temporairement, pris un caractère sérieux. Dans les circonstances actuelles ce contrôle est encore plus rigoureusement appliqué.

Le Gouvernement des Pays-Bas est d'avis qu'en suivant une telle ligne de conduite il n'y a aucun lieu de craindre que les bonnes relations ne soient mis en danger par l'activité de la presse.

Vu les arguments précités le Gouvernement des Pays-Bas est d'avis que les traités en vigueur, complété par la pratique des relations existantes, expriment d'une façon satisfaisante les principes et les bases sur lesquelles les bonnes relations entre les Pays-Bas et le Japon pourront rester fondés, également et surtout en ce qui concerne les relations économiques entre les Indes néerlandaises et le Japon.

Le Gouvernement Royal se plaint à croire avoir fourni dans les lignes qui précèdent une explication satisfaisante concernant les questions au sujet desquelles le Gouvernement japonais pourrait avoir des doutes. Il est toutefois possible que des questions spécifiques se présenteront de part et d'autre sur des sujets concrets, touchant aux relations économiques entre les Indes néerlandaises et le Japon. En pareil cas ces questions pourront être discutées et réglées par le Consul-Général du Japon à Batavia et les organes que désignera le Gouvernement des Indes néerlandaises. Le Gouvernement des Pays-Bas croit que dans la plupart des cas ces questions pourront ainsi trouver une solution.

Veuillez agréer, Monsieur le Ministre, les assurances de ma plus haute considération.

Signé: J. C. Pabst.

Son Excellence

Monsieur Hachiro Arita,

Ministre des Affaires Etrangères, Tokio.

LEGATION DES PAYS-BAS

ANNEXE.

Quelques remarques au sujet des 13 produits d'exportation qui sont mentionnés dans la note du Consul-Général du Japon à Batavia adressée au Gouverneur-Général des Indes néerlandaises en date du 18 mai 1940 et dans la note de Son Excellence Monsieur Hachiro Arita remis au Ministre des Pays-Bas à Tokio le 20 mai 1940.

Les chiffres ayant trait au

bauxite (200,000 tonnes),

minerai de fer chromé (5,000 tonnes),

minerai de nickel (150,000 tonnes),

étain et minerai d'étain (3,000 tonnes),

caoutchouc (20,000 tonnes),

écorcée de quinquina (600 tonnes),

graines de ricin (4,000 tonnes),

ne soulèvent aucune remarque.

Le chiffre pour les produits pétroliers (10,000,000 tonnes) est considérablement supérieur à l'exportation moyenne des Indes néerlandaises au Japon pendant les derniers trois ans. L'exportation était en 1937

869,000 tonnes
en 1938
668,000 tonnes

Il semble possible que les compagnies de pétrole aux Indes néerlandaises peuvent livrer ces quantités demandées à condition que du côté japonais des contrats soient conclus à temps.

Une quantité de sel de 100,000 tonnes peut être produite aux Indes néerlandaises à condition toutefois qu'un contrat pour plusieurs années soit conclu puisqu'il sera nécessaire mettre en exploitation des salines nouveaux. La production du sel aux Indes néerlandaises est orientée uniquement vers le marché dans le pays même, tandis que les réserves sont presque épuisées par suite des mauvaises conditions atmosphériques. Il ne sera normalement pas possible de commencer les livraisons avant le mois de novembre 1940. Il est possible que cette date soit avancée, si un contrat pourra être conclu pour plusieurs années. On aura alors la certitude que les réserves nécessaires seront supplées.

Le chiffre pour la ferraille (100,000 tonnes) est supérieur à la quantité disponible annuellement pour l'exportation. En 1937 on a exporté 103,700 tonnes, en 1938 60,600 tonnes et en 1939 47,200, quantités qui ont été exportées presque exclusivement au Japon. On est disposé à garantir que l'exportation au Japon de la quantité de ferraille qui sera disponible pour l'exportation ne sera soumise à aucune restriction.

Il semblerait que le chiffre donné pour le minerai de manganèse (50,000 tonnes) ne peut être exact. L'exportation totale, qui équivalait la presque totalité de la production, était en 1937 15,700 tonnes, en 1938 11,200 tonnes et en 1939 7,300 tonnes. Le Japon n'a presque rien acheté de ces quantités outre les mines en exploitation actuellement on n'a pas connaissance de l'existence d'autres gisements importants. Le Japon pourra acheter ce produit librement, pour autant que des contrats en cours d'exécution le permettent.

Les chiffres pour le wolfram et la molybdène (1,000 tonnes) ne correspondent pas avec les chiffres de la production. Le wolfram n'est obtenu qu'en très petite quantité au cours de l'exploitation de l'étain. Ces quantités, tout au plus quelques tonnes par année, ont

été toujours exportées au Japon.

Des exportations de molybdène n'ont jamais eu lieu. On ne le trouve que très rarement aux Indes néerlandaises.

(ハ)昭和十五年六月二十八日附在京和蘭公使宛有田外務大臣書翰

通六機密第一九號

以書翰啓上致候陳者客月二十日附通六機密第一〇號拙信ヲ以テ申進候蘭領印度產原料品ノ對日輸出ニ關シ本月六日附第八七三號H、H一八(G)貴信中ニ於テ御回答相成之ヲ閱悉セルコトヲ通報スルノ光榮ヲ有シ候

貴公使閣下ハ右貴翰中ニ於テ「和蘭國政府及蘭領印度總督府ニ於テモ貴翰ニ掲記ノ十三品目ニ付要求セラレタル數量ノ輸出ヲ阻害スヘキ措置ヲ執ラサルヘキコトニ付日本國政府ノ要求ニ係ル保障ヲ繰返スコトニ付何等ノ反對ナシ」ト述ヘラレ候處右ハ前顯拙信ニ照シ「和蘭國政府及蘭領印度總督府ニ於テハ前記拙信掲記ノ十三品目ニ付要求セル數量(別紙附屬書ニ於テ詳細御承知相成度)ハ之ヲ毎年最小限度トシテ如何ナル事態ニ於テモ對日輸出ヲ爲スコトヲ確約セラレタルモノト諒解シ尙又右確約ヲ實行セラルル爲ニハ要スレハ適當ナル措置ヲ執ラルルハ勿論輸出値段ハ市價ヨリ高カラサルヘキモノナリ」ト解釋致スコト當然ナリト思考致居候處右ニ御異議アラハ何分ノ儀至急御回答相成度候
右申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

昭和十五年六月二十八日

和蘭國特命全權公使

外務大臣 有田 八郎

「ゼネラル、イエー、セー、パプスト」閣下

附屬書

一、「ボーキサイト」 二〇〇、〇〇〇 吨

二、「クローム」鐵鑛 五、〇〇〇 同

三、「ニッケル」鑛 一五〇、〇〇〇 同

四、「ゴ ム」 二〇、〇〇〇 同

五、規 那 皮 六〇〇 同

六、「ヒ マ シ」 四、〇〇〇 同

七、屑 鐵 輸出可能量

右ノ内一、三及三、ニ關シテハ既ニ日本國商社ト蘭領印度商社トノ間ニ私的契約ニ依リテ買付クルコトナリ居ルニ付右契約期間中毎年所定ノ數量マテハ輸出ヲ可能ナラシメラレ度シ

四、及五、ニ付近ク日本國商社ト蘭領印度商社トノ間ニ賣買契約ヲ締結スル筈ナルニ付右御承知ノ上契約締結方ニ付必要アラハ何分ノ御援助ヲ與ヘラレ度シ

六、ニ關シテハ蘭領印度ニ於ケル輸出業者ヨリ輸出許可願出タル場合之ニ對シ遲滯ナク許可ヲ與ヘラルル様致度シ

七、屑鐵ニ關シテハ御來示ノ通り御取計相煩度シ

八、錫及錫鑛

日本國商社ハ現在「バンカ」錫及「ピリトン」又ハ「シンケップ」ノ錫鑛石買付ノ爲蘭領印度ノ當該經營者ト契約締結ノ爲交渉中ナルニ付其成功ニ付蘭領印度總督府ニ於テモ便宜ヲ與ヘラレ度シ

尙右契約ニ於テ「バンカ」錫二千吨鑛石一千吨買付方希望スル次第ナリ

九、滿俺鑛

本品ハ日本ニ於テ一九三〇年七千六百十四吨、一九三一年三百八十一吨、一九三二年二千二百三十九吨、一九三八年二百八十五吨ノ輸入実績ヲ有シ居ルニ鑑ミ今後差當リ少クモ爪哇ヨリ毎年一萬五千吨「ボルネオ」ヨリ一萬二千吨輸入致度目下日本國商社ニ於テ蘭領印度當業者ト契約締結方交渉中ナルカ蘭領印度總督府ニ於テモ之カ成立ニ付援助ヲ與ヘラレ度シ

二〇「ウォルフラム」鑛

本品ノ現狀ニ付テハ貴信御申越ノ通りトスルモ其生産ヲ増加スル可能性アリト傳ヘラルルニ顧ミ出來得ル限り多量供給サレ度シ尙本品ノ買付方ニ付日本國商社ニ於テ蘭領印度當局ト交渉中ナルニ付好意的ニ御配慮相煩度シ

二一「モリブデン」鑛

本鑛ノ採掘ニ關シテハ日本國商社ニ於テ蘭領印度ノ業者ト協力スル用意アルニ付蘭領印度總督府ニ於テモ之ヲ諒解サレ此ノ際此ノ如キ貴重ナル鑛物ヲ對日輸出品トシ多少ナリトモ日本、蘭領印度間ノ貿易ノ改善ニ資スルコトニ御助力相煩度シ

二三、鹽

本品ニ付既ニ日本國商社ト蘭領印度專賣局トノ間ニ少クモ毎年十萬吨ツツ買付ヲ條件トスル長期買付契約締結方ニ關シ交渉中ナルニ付御承知相成度シ

三、石油

從來日本國石油取扱商社カ蘭領印度ニ於ケル石油ヲ買付クル場合ニ於テハ殆ント例外ナク東京ニ於テ當該石油採掘會社ノ代理商社ト契約ヲ爲シ居ル處此等販賣機關ハ自己ノ便宜ニ依リ蘭印以外ノ他ノ石油產出國ヨリ配給ヲ爲スコトアリ又時トシテハ此等販賣機關ハ石油ノ特種品タル關係ヲ利用シ恰モ獨占の振舞ヲ爲スコトアリテ蘭領印度產石油買付方ニ付圓滑ヲ缺クコト多シ故ニ茲ニ日本政府ノ要求スル所ハ蘭領印度產石油ヲ每年少クモ一百萬吨ツツ買付方ニ付長期契約

ヲ締結セントスルモノナリニ付蘭領印度總督府ニ於テ適當ナル措置ヲ執ラレ右契約ヲ成立セシムル様御盡力相煩度シ

28th June, 1940.

Translation.

No. 19/C6 Confidential.

Monsieur le Ministre,

I have the honour to acknowledge the receipt of Your Excellency's Note No. 873 H.H.18 (G) of the 6th June, in which you replied to my Note No. 10/C6 of the 20th May on the question of the exportation to Japan of raw materials produced in the Netherlands Indies.

You state in your Note, "il n'existe aucune objection à réitérer l'assurance demandée par le Gouvernement japonais à savoir que le Gouvernement des Pays-Bas ou le Gouvernement des Indes néerlandaises s'abstiendra à prendre des mesures qui pourraient entraver l'exportation des 13 produits mentionnés en quantités également mentionnées." In the light of my above-mentioned Note the passage quoted above may quite properly be interpreted as meaning that "the Netherlands Government and the Government-General of the Netherlands Indies definitely undertake to export annually to Japan under any circumstances at least the quantities requested of the thirteen articles mentioned in my above-said Note (please see the Annexe to this Note for particulars), and in order to carry out this definite undertaking they will of course take appropriate measures when necessary, and the export prices shall not be higher than the market prices." Should you have any objection to this interpretation, I shall be grateful if you will immediately let me know.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency, Monsieur le Ministre, the assurance of my high consideration.

(L. S.)

Minister for Foreign Affairs.

Annexe.

- | | |
|--------------------|---|
| 1. Bauxite | 200,000 tons. |
| 2. Chrome Iron Ore | 5,000 tons. |
| 3. Nickel Ore | 150,000 tons. |
| 4. Rubber | 20,000 tons. |
| 5. Quinine Bark | 600 tons. |
| 6. Castor Seeds | 4,000 tons. |
| 7. Scrap Iron | As much as the Netherlands Indies can export. |

In respect of 1, 2 and 3, it has already been arranged to make purchases through private contracts between Japanese firms and Netherlands Indian firms. So please see that the annual export up to the fixed quantities during the period of the contract is made possible.

For 4 and 5, contracts of purchase are expected shortly to be concluded between Japanese firms and the Netherlands Indian firms. You will please render assistance in the conclusion of contracts, if necessary.

As regards 6, the Netherlands Indian authorities are requested to issue an export permit without delay when exporters in the Netherlands Indies apply therefor.

With regard to 7, it is requested that the Government-General of the Netherlands Indies will take such steps as are indicated in your Note.

8. Tin and Tin Ore.

Negotiations are now in progress between Japanese firms and the interested parties in the Netherlands Indies for the purchase of tin of Bangka and tin ore of Biliton or Singkep. It is requested that the Government-General of the Netherlands Indies will render facilities for a successful conclusion of the negotiations.

It is desired to buy 2,000 tons of Bangka, tin and 1,000 tons of tin ore.

9. Manganese Ore.

In view of the fact that the quantities of manganese ore imported into Japan in recent years have been 7,614 tons in 1930, 381 tons in 1931, 2,239 tons in 1932, and 285 tons in 1938, it is desired to import annually for the time being at least 15,000 tons from Java and 12,000 tons from Borneo. Japanese firms are now negotiating for the conclusion of contracts with firms in the Netherlands Indies. The Government-General of the Netherlands Indies are requested to give assistance in the conclusion of contracts.

10. Wolfram.

May the present condition of this article be as stated in your Note, it is said that there is a very good prospect of increased production of wolfram. Therefore it is requested that the Netherlands Indies will see that as much of this articles as possible is exported to Japan.

Negotiations are being made between Japanese firms and the Netherlands Indian authorities for the purchase of this article, and your assistance is requested.

11. Molybdenum.

Japanese firms are prepared to cooperate with the Netherlands Indian firms in the mining of molybdenum. It is requested that the Government-General of the Netherlands Indies will give favourable consideration to this matter and render assistance in improving trade between Japan and the Netherlands Indies by including this valuable ore among the articles exported to Japan.

12. Salt.

You will please note that negotiations are now being made between Japanese firms and the Monopoly Bureau of the Netherlands Indies for a long-term contract for the annual purchase of at least 100,000 tons of salt.

13. Mineral Oil.

Hitherto, when buying the Netherlands Indian mineral oil, Japanese firms have almost without exception made contracts in Tokyo with the agents of the firms in the Netherlands Indies. These agents, in order to suit themselves, sometimes get oil from countries other than the Netherlands Indies, and sometimes, taking advantage of the special nature of this commodity, act as if they had a monopoly in the trade, with the result that the purchase of the Netherlands Indian oil is occasionally made difficult. The Japanese Government require therefore the conclusion of a long-term contract for the purchase of at least 1,000,000 tons annually of mineral oil produced in the Netherlands Indies. It is requested that the Government-General of the Netherlands Indies will take appropriate measures with a view to bringing about the successful conclusion of such contract.

(二) 昭和十五年七月二十六日附松岡外務大臣宛在京和蘭公使書翰

(假譯)

以書翰啓上致候陳者六月六日附第八七三號拙信ノ字句ニ關シ日本國政府ハ六月二十八日附書翰ヲ以テ其ノ解釋ニ付説明ヲ求メラレ候處本使ハ本國政府ノ訓令ニ依リ右字句ハ蘭印總督ニ提出アリタル一九四〇年五月十八日附覺書中日本政府ニ依リ請求セラレタル保證ノ「テキスト」ト同一ナルコトヲ閣下ニ通報スルノ光榮ヲ有シ候
上記保證ニ對スル和蘭國政府ノ態度ニ關シテハ本使ハ左ノ通説明スルコトヲ許可セラレ候
和蘭國政府ハ總テノ友好國ヲ同一ニ待遇スルコトニ背馳セサル限り親善關係ヲ保持スル諸國ノ要求ニ對シ蘭印ノ輸出ヲ調

整スルコトヲ常ニ努メ居タル次第ニ有之而テ蘭印物資ノ對日輸出ノ増加ハ常ニ蘭印ノ利益ト考ヘラレ居リタル次第ニ候
斯ル政策ニ基キ和蘭國政府ハ日本國政府ニ依リ指示セラルル產物ノ最少量ニ關スル日本國ノ特別要求ヲ考慮ニ入レ政府ノ
執リ得ル凡ユル方法ニ依リ對日輸出ヲ助長シ且容易ナラシムル用意有之候

尙最モ重要ナル產物ノ供給ニ付テハ何等ノ困難ナキコトハ既ニ經驗ノ示ス所ニ候處否ラサル場合ニ於テハ生産ノ限度ヲ考
慮シ能フ限り多量ノ供給ヲ計ルコト可能ニ有之候從テ右ノ場合ハ生産ノ限度カ供給數量ニ影響ヲ及ホス唯一ノ要素ニ有之
候

和蘭國政府ハ蘭印原產品ノ對日輸出ヲ阻害スル一切ノ障礙ヲ除去スル爲常ニ協力ヲ爲ス用意有之候、而テ輸出値段ハ市價
ヨリ高カラサルヘキコトハ承知仕候

六月二十八日附前大臣書翰附屬書ニ對スル回答ハ本信附屬ニ記載致候本使ハ閣下ニ向テ重ネテ敬意ヲ表シ候 敬具

一九四〇年七月二十六日

和蘭國特命全權公使

イユー・セー・パプスト

外務大臣 松岡 洋右閣下

附屬書

日本國政府ノ資料ニ依レハ「ボーキサイト」、「クローム」鐵鑛、「ニッケル」鑛、ゴム、規那皮、錫、錫鑛及鹽ノ買付ニ
關スル交渉ハ既ニ日本商社ニ依リ開始セラレ又ハ今後開始セラルヘキ趣ニ有之候若シ右交渉力困難ニ遭遇スル場合ハ蘭印
官憲ハ協定締結ヲ容易ナラシムルタメ協力スルノ用意有之候

六、「ヒマシ」、七、屑鐵、一〇、「ウオルフラム」鑛、一二、「モリブデン」ニ關シテハ和蘭國政府ハ日本國政府ノ希望ニ

副フ用意有之候然シ「ウオルフラム」及「モリブデン」ノ輸出ニ對スル見込ニ付テハ和蘭國政府ハ日本國政府ノ見解程樂觀シ居ラサル次第ニ有之候又和蘭國政府ハ石油輸出ノ増加ニ對シ何等ノ反對無之候處該交渉ハ直接當該商社ト爲サルヘキモノナルコトヲ附言致候得共和蘭國政府ハ既ニ此等商社ニ對シ日本側要求ヲ満足セシムルコトヲ重要視スル旨ヲ通知致候處該商社ハ其ノ協力ヲ約束致シ候

蘭領印度ニ產出セラルル「マンガン」鑛ハ化學及冶金工業ニ使用セラルルモノニ候而シテ冶金工業ニ使用セラルル鑛石ヲ產出スル鑛山ハ總テ開發セラレ居ルモ左程ノ數量ヲ產出セサル處日本ノ關心ヲ有セラルルモノハ實ニ此ノ「マンガン」鑛ナルヲ以テ右ニ關スル御要求ハ困難ニ有之候。然シ乍ラ蘭領印度當局ハ數量ニ余剩ノアル限り右鑛石ノ日本向輸出ヲ爲ス用意有之候

GEZANTSCHAP DER NEDERLANDEN.

Tokio, le 26 juillet 1940.

Nr. 1172 H. H. 18 (G)-

Monsieur le Ministre.

En réponse à la Note nr. 19/C6 du 28 juin dernier de Son Excellence Monsieur H. Arita, j'ai l'honneur de faire savoir à Votre Excellence, d'ordre de mon Gouvernement, que la phrase de ma note du 6 juin dr., nr. 873, sur la signification de laquelle le Gouvernement japonais dans sa note du 28 juin demandait des éclaircissements, est identique au texte de l'assurance demandée par le Gouvernement japonais dans son memorandum du 18 mai 1940, présenté à Son Excellence le Gouverneur-Général des Indes néerlandaises. Quant à l'attitude du Gouvernement des Pays-Bas vis à vis de l'assurance susmentionnée je suis autorisé à donner les précisions suivantes. Le Gouvernement des Pays-Bas s'est toujours efforcé d'ajuster l'exportation des Indes néerlandaises aux

exigences des Pays avec lesquels il entretient de bonnes relations autant qu'un traitement égal de toutes les nations amies ne s'y opposait pas. L'accroissement de l'exportation des Indes néerlandaises au Japon a toujours été considérée comme étant de l'intérêt des Indes néerlandaises.

En conformité avec cette politique le Gouvernement des Pays-Bas est prêt à stimuler et à faciliter l'exportation au Japon avec tous les moyens qui sont à sa disposition, tout en tenant compte des demandes spéciales du Japon concernant les quantités minima des produits mentionnés par le Gouvernement japonais. L'expérience a déjà montré que la livraison des produits les plus importants ne rencontre aucune difficulté; en d'autres cas il sera possible d'arranger la livraison de quantités aussi larges que possible en tenant compte des limites de la production. Donc, ces limites sont les seuls qui puissent influencer les quantités à livrer.

Le Gouvernement des Pays-Bas est toujours prêt à accorder son concours pour éliminer tout obstacle qui pourrait entraver l'importation au Japon en provenance des Indes néerlandaises. Il est entendu que les prix d'exportation n'excéderont pas les prix courants.

Votre Excellence voudra bien trouver à l'annexe la réponse à l'annexe de la note de Votre prédécesseur du 28 juin dernier.

Veuillez agréer, Monsieur le Ministre, les assurances de ma plus haute considération.

Signé: J. G. Pabst

Son Excellence,

Monsieur Y. Matsuoka,

Ministre des Affaires Etrangères,

TOKIO.

ANNEXE.

Selon les données du Gouvernement japonais des négociations ont déjà été entamées ou seront entamées par des maisons de commerce japonais pour les achats de bauxite, minéral de fer chromé, minéral de nickel, caoutchouc, écorce de quinquina, étain, minéral d'étain et sel. Si ces négociations rencontreraient des difficultés, l'Administration des Indes néerlandaises est préparée à collaborer pour faciliter la conclusion d'un accord.

Quant au point 6 grains de ricin, 7 "ferraille" 10 wolfram 13 molybdène, mon Gouvernement est prêt à accéder aux désirs du Gouvernement japonais. Au sujet des perspectives pour l'exploitation du wolfram et du molybdène mon Gouvernement est moins optimiste que le Gouvernement japonais.

Le Gouvernement Royal n'a aucune objection à élever contre l'accroissement de l'exportation du pétrole, mais il précise que les négociations doivent être faites directement avec les compagnies en question. Le Gouvernement des Pays-Bas a fait savoir à ces compagnies qu'il attache un prix à ce que les demandes japonaises soient satisfaites. Les compagnies ont promis leur collaboration.

Le minéral de manganèse qu'on trouve aux Indes néerlandaises est employé par l'industrie chimique et par l'industrie métallurgique. Les mines où l'on trouve le minéral employé par l'industrie métallurgique sont tous en exploitation totale mais ne produisent pas des quantités importantes. Puisque c'est ce dernier minéral qui intéresse le Japon la demande y relative doit être erronée. Toutefois l'Administration des Indes néerlandaises est prête à effectuer l'exportation de ce produit vers le Japon en des quantités disponibles.

(日、蘭印交渉方針ニ關スル昭和十五年七月十二日有田外務大臣閣議說明資料)

帝國ト蘭領東印度トノ地理的近接竝ニ有無相通ノ關係ニ鑑ミ兩者ノ經濟的緊密化ヲ圖ルト共ニ、兼テ其ノ豐富ナル資源ヲ開發・利用スル爲邦人ノ經濟的發展ヲ促進シ、以テ日・蘭印間經濟提携ノ實ヲ舉グルコトハ我方多年ノ要望タリシ處、和蘭側トシテハ邦人ノ經濟的進出ヲ喜バズ、形式的ニハ歐米諸國トノ差別的待遇トナラザル範圍内ニ於テ之ヲ阻止セントノ政策ヲ採用シ、貿易ヲ始メ企業的活動竝ニ入國ニ關シ諸種ノ制限的措置ヲ設ケ、之ガ實施ニ當リテハ本邦人ニ不利ナル如ク運用シ來レリ。

帝國トシテハ斯クノ如キ制限ヲ撤廢又ハ緩和セシムル爲、過去數年ニ亘リ和蘭側ト交渉ヲ繼續シ來リシモ、容易ニ局面ヲ打開シ得ザリシ處、歐州情勢ノ變化ハ本件交渉ヲ有利ニ促進セシムルノ事態ヲ招來セリ。依ツテ此際世界ノ平和、人類福祉ノ増進、共存共榮ノ大局の理由ニ基キ通商・企業及入國ニ關スル事態ノ根本的改善ニ付、左記方針ニ依リ和蘭政府(必要ニ應シ蘭印總督)ニ對シ商議ヲ開始スルコトト致度シ。

甲、通商問題

一、重要物資ノ確保

最近歐州情勢ノ激變特ニ獨逸ノ和蘭侵入直後英佛竝ニ倫敦ニ遁逃セル和蘭政府ハ、相計リ蘭印物資ノ連合軍側ヘノ輸入ヲ確保センガ爲、種々ノ措置ニ出ヅル氣配アリタルヲ以テ、差當リ我方ハ先ヅ重要物資確保ノ見地ヨリ、五月二十日十三品目(生ゴム、錫及錫鑛石、鑛油、ボーキサイト、ニツケル鑛、滿俺鑛、ウォルフラム鑛、クローム鉄鑛、モリブデン、屑鐵、工業鹽、ヒマシ、規那皮)ノ一定量以上輸出保障方申入ヲナセル處、客月六日和蘭公使ヨリ、和蘭國政府及蘭印總督ニ於テハ日本國政府ノ要求セル十三品目ニ對シ、之カ輸出ヲ阻害スルカ如キ措置ヲ執ラス、我方希望ニ添フ旨回答越セルモ、其文意中ニ明瞭ヲ缺ク所アリタルヲ以テ之ヲ明確ニスル爲、客月二十八日重ネテ申入レ置タリ。本件重要物資確保ニツキテハ必要ニ應シ其數量ノ増加等ニツキ交渉セムトス。

一、一般通商ノ促進及通商障害ノ除去

前項重要物資確保問題ニ引續キ、一般通商促進ノ目的ヲ以テ從來ノ通商障害除去ノ爲左ノ通り措置セントス。

(イ) 日本商品ノ輸入ヲ最大限ニ確保スル爲、最大限ノ割當ヲ要求スルコト。

(ロ) 蘭印在留日本商ノ輸入割當比率ヲ根本的ニ是正セシムルコト。

(ハ) 蘭印在留日本人輸入商ニ對シ、第三國品ノ輸入義務ヲ免除セシムルコト。

(ニ) 貿易ノ増進ヲ圖ル爲、必要ニ應シ前記十三品目ノ外ニ不要不急品ノ買付ヲモ考慮スルコト。

(ホ) 日本ニ不利ナル關稅政策ヲ執ラシメザルコト。

乙、企業問題

近來蘭印ニ於テハ種々法規ノ改正等ニヨリ、我方ノ最モ重要視スル石油其他重要礦物ノ鑛區ハ、殆ンド政府ニ於テ保留シ、又既存利權ノ讓渡ヲモ不可能ナラシムルニ至レリ。然ルニ英米等ハ法規改正前既ニ多數ノ有望利權ヲ獲得シ、大規模ニ之ヲ開發經營シ居レルニ付、我方トシテハ此ノ際現行法規ニ拘泥スルコトナク機會均等ノ見地ヨリ、石油其他重要礦物ノ採掘ニ關スル日本人ノ申請ニ對シテハ之ヲ許可スルト共ニ、既存利權ノ日本人ニ對スル讓渡ヲ認メシムル様要求シ、更ニ鑛業以外ノ農業、林業、工業ヲ初メ各種新規企業ニ對シテモ、同様日本人ノ申請ニ對シテハ之ヲ許可スルト共ニ、既存ノ各種企業ニ對シテモ其擴張等ノ申請ヲナスモノニ對シテハ、之ヲ許可スル様要求セントス。

而シテ我方トシテハ、差當リ蘭印ニ於ケル石油鑛區(政府ノ保留地ヲ含ム)ノ全部ニ對スル探鑛及採鑛竝ニ蘭印各地ニ於ケル(政府保留地ヲ含ム)石油以外ノ各種礦物ノ探鑛及採鑛ヲ日本人ニ對シ許可スル様要求スル方針ナリ。

丙、入國問題

蘭印ノ現行入國令ニ依レハ、日本人ハ一ケ年最大限約一千六百人迄ハ入國シ得ルコトナリ居レル處、右入國令ノ外ニ外國人從業員ノ入國制限ヲ目的トスル外國人勤勞條令ナルモノノ適用ヲ受クル爲、實際ニ於テハ日本人ノ每年入國數ハ

約二百人ニ過ギサル現状ニシテ、是ニテハ邦人が經濟的發展ヲナス爲ニハ不充分ナルガ故ニ、日本人ニ對シテハ右勤勞條令ノ適用ヲ事實上停止セシメ、一ケ年一千六百人迄ハ自由ニ蘭印ニ入國シ且從業シ得ル様之ヲ許可セシムルコト、及今後日本人ガ新規企業ヲナス上ニ必要ナル人員ハ、右トハ別ニ其ノ入國ヲ自由ニ許可セシムル様要求スルコト。

第二部

自昭和十五年（一九四〇年）八月
至昭和十六年（一九四一年）六月

日、蘭印經濟交渉經緯

本文目次

- 一、蘭印ニ關スル我方ノ根本的要請
- 二、會商開始ニ關スル小林使節、「ス」總督會談
- 三、蘭側代表
- 四、買油交渉
- 五、石油鑛區關係
- 六、蘭印ノ對日感情ト會商促進申出ト芳澤代表ノ派遣
- 七、芳澤代表交渉開始
- 八、日、蘭印銀行金融協定ノ締結
- 九、「ホ」通商局長ノ内話
- 一〇、松岡大臣ノ議會演說ニ對スル反響
- 一一、大橋次官ノ言說ニ對スル反響
- 一二、松岡大臣ノ石油ニ關スル議會答弁
- 一三、我方提案內容新聞發表問題
- 一四、蘭側對案提出、會議進行澁滯

四 「日、蘭印經濟交渉ノ部」

二五、在倫敦和蘭政府承認問題

二六、予備會談及蘭側態度

(一) 入國問題

(1) 根本方針

(2) 日本人卜入國制限令

(3) 日本人卜外領

(4) 一時的入國者ノ除外

(5) 外國人勤勞條例卜ノ關係

(二) 調査上ノ支障除去問題

(三) 日本人醫師開業問題

(四) 企業問題

(1) 經營上ノ合理化促進

(2) 鑛業

(3) 水產業

(五) 交通通信問題

(1) 航空

(2) 海底電線

(六) 營業制限問題

(七) 海運問題

四 「日、蘭印經濟交渉ノ部」

- 一七、共同聲明發表
- 一八、在本邦蘭人生活上ノ苦情及要望
- 一九、蘭側ノ根本的態度
- 二〇、通商問題
 - (一)對日輸出制限問題
 - (二)我方買付要求品目及數量表提示
 - (三)石澤「ホ」會談要旨
- 二一、我方交渉方針
- 二二、我方第二次案提出
- 二三、物資買付問題
- 二四、物資買付案提出
- 二五、蘭側要人ノ談話
- 二六、東京ニ於ケル工作
 - (一)大橋次官「パプスト」公使會談
 - (二)松岡大臣「クレイギー」大使會談
 - (三)大橋次官「クレイギー」大使會談
- 二七、同盟通信ニ關スル蘭側抗議
- 二八、彼我新聞論爭
- 二九、蘭側回答提出

三、會商打切

附錄目次

第一號 對蘭印交涉方針案

第二號 對蘭印要求案

第三號 對蘭印經濟發展ノ爲ノ施策(昭和十五年十月二十五日閣議決定)

第四號 石油買付數量ニ關スル民間協定(昭和十五年十一月十二日)

第五號 我方第一次要求(昭和十六年一月十六日)トソノ邦譯文

第六號 蘭側對案(昭和十六年二月三日)トソノ假譯文

第七號 我方第二次要求(昭和十六年五月十四日)トソノ邦譯文

第八號 我方第二次要求附屬ノ蘭印物資買付案(昭和十六年五月二十日)トソノ邦譯文

第九號 石油鑛區ニ關スル我方最後的要求(昭和十六年五月二十二日)

第十號 蘭側回答(昭和十六年六月六日)トソノ假譯文

第十一號 會商打切ニ關スル日、蘭印共同聲明

自昭和十五年（一九四〇年）八月
至昭和十六年（一九四一年）六月
日、蘭印經濟交渉經緯

本稿ハ昭和十五年（一九四〇年）八月ヨリ翌年六月ニ至ル日、蘭印經濟交渉自体ノ經過ヲ詳細ニ記述スル
コトヲ目的トシ、右交渉以前ニオケル我國ト蘭印トノ經濟關係及ビ本件交渉開始ニ至ル一般の背景ニ付
テハ第一部「日蘭印經濟關係ノ推移概觀」ヲ參照セラレ度シ。

一、蘭印ニ關スル我方ノ根本的要請

小林使節ニ對シテハ別ニ訓令ハ用ヒズ「對蘭印交渉方針案」（附錄第一號）及ビ「對蘭印要求案」（附錄第二號）ヲ參考トシ
テ同代表ニ携行セシメ、其ノ裁量ニ依リ之ヲ充分利用セシムルコトニ昭和十五年（一九四〇年）八月二十七日閣議決定ヲ見
タリ。尙政府ハ同年十月二十五日ノ閣議ニ於テ「對蘭印經濟發展ノ爲ノ施策」ヲ決定セリ（附錄第三號）。是等ノ文書ハ、
本件交渉ニ關スル訓令ニハ非ザルモ、當時ノ政府及ビ軍當局ガ蘭印ニ關シテ如何ナル根本的要請ヲ有シ居タルヤヲ示スモ
ノナルベシ

二、會商開始ニ關スル小林使節「ス」總督會談

小林使節昭和十五年（一九四〇年）九月十二日「バタヴィヤ」着同日「スタルケンブルグ」總督ト會見先ツ日、蘭印間經濟
關係ヲ共榮ノ精神ニ依リ更ニ緊密強化セシメンカ爲今次會商ヲ行ハントスルモノナルニ付總督ニ於テモ本交渉ノ圓滿妥結
ニ努力アリ度キ旨述ヘタルニ總督ハ之ヲ諒トセルモ事政治問題ニ觸ルレバ兎角外交的辭令ニ終始シ之カ討議ヲ回避スル風
アリタリ

同代表ハ右會談ノ最後ニ目下向井（三井物產會社會長ニシテ八月末以來燃料局ノ命令ニヨリ買油及石油鑛區獲得ニ盡力中）

カ努力シ居ル石油買付等ニ關シテモ助力アリ度自分トシテハ各種ノ問題ヲ一括討議スルコトハ能率のナラサルニ付先ス石油問題ヲ片附ケ度希望ナリト述ベタルニ總督モ之ヲ首肯セリ

三、蘭側代表

蘭側代表者問題ニ關シ面倒アリタルモ結局蘭側ハ經濟長官「ファン、モーク」ヲ首席代表ニ任命シ總督ハ其法律上ノ地位ヨリ外國トノ交渉ニ當リ代表タリ得サルモ重要案件ニ付隨時小林代表ト話合ヲ行フヘキ旨自發のニ發表セリ

四、買油交渉

(イ)、爾來小林代表ハ「モ」ヲ相手ニ石油問題ヲ中心トシテ交渉ヲ續ケ我方ハ石油供給確保上向フ五ケ年間毎年三百余萬屯輸入シ度ニ付蘭印政府保障ヲ得度キ旨力説シタルモ「モ」ハ從來日本八年六十萬乃至九十萬屯輸入シタルニ今俄カニ多量買付ケラル、時ハ隣接諸國ヘノ輸出ヲ犠牲トスルコト、ナリ各國均等待遇ノ原則ニ反シ且ツ技術的困難モアリトテ難色ヲ示シ結局石油會社ト向井トノ折衝ニ俟チ度旨述ヘタリ

(ロ)、仍テ向井ハ「ローヤル、ダッチ」及「スタンダード」兩社代表者ト交渉シ十月初旬兩社ヨリ向井ニ對シ石油七十二萬六千五百屯(七月以來東京ニテ契約セルモノ五十八萬屯及東京ニテ現物買付ヲ爲シタル四萬九千屯ヲ除ク)ヲ「オフア」シ來レルモ向井ハ其品質及數量共ニ不満足トスル所ナル旨ヲ強調セリ

(ハ)、其後齋藤、太田兩代表ハ蘭側代表ニ對シ重ネテ我方ノ必要トスル品種及數量ヲ要求セルモ先方ニ於テハ事實上最大限度ノ對日供給量ハ前項(ロ)ノ通ナリト主張セルヲ以テ向井ヨリモ一先ツ此數量ニ付賣買覺書ニ調印スル方可然トノ意見進達アリタルヲ以テ燃料局ニ於テモ之ヲ容レ向井ハ「ローヤル、ダッチ」及「スタンダード」代表者トノ間二十一月十二

日覺書ニ調印ヲ了セリ(附錄第一號參照)
(四カ)

(二)、向井ノ調印セル覺書ノ數量ハ前項(ロ)ノ七十二萬六千五百屯、東京ニテ契約セル五十八萬屯ニシテ現物買付ノ四萬九千屯ハ之ヲ除外シ又「ローヤル、ダッチ」ノ販賣機關タル「ライジング、サン」及「スタンダード」社ノ日本支店カ日本内地ニ於テ販賣シ得ル割當量六十五萬屯ニ付テハ燃料局ト右「ラ」及「ス」社ト別ニ契約スルコト、セリ故ニ我方ノ獲得シ得ヘキ石油數量ハ合計二百萬五千五百屯ナリ

(ホ)、前項(ロ)ノ東京ニ於テ交渉済ナル五十八萬屯ハ一ケ年ノ通シ契約トシ七十二萬六千五百屯ハ一ケ年ノ契約基準ニシテ事實上ノ契約ハ「ラ」及「ス」社ノ販賣規程ヲ楯トシテ之ヲ六ケ月宛ニ區切ルコトヲ強調シテ讓ラサル爲我方ニ於テモ之ヲ承認スルコトトセリ

(ハ)、尙前項(ハ)ニ記載セル覺書ニ基キ昭和十六年一月十五日東京ニ於テ帝國政府ノ指定セル三井物產會社ト「ライジング、サン」及「スタンダード」社代表トノ間ニ買油契約ノ正式調印ヲ了シ之ニ對シ同日燃料局長官ノ名ヲ以テ右契約ヲ承認セリ

(ト)、向井ハ病氣ノ爲昭和十五年十一月二十三日「バタヴィヤ」出發歸朝ノ途ニ就キ其交代トシテ昭和十五年十二月末三井物產會社常務取締役伊藤與三郎ヲ派遣セリ

(チ)、其後昭和十六年四月十九日代表部ヨリノ報告ニ依レバ石油ノ對日輸出ハ日本ニ於ケル「ラ」及「ス」社賣却ノ約五十萬屯ヲ含メテ百八十萬屯ヲ認ムヘシト云フニアルガ如シ右ニ對シ我方ハ買油交渉ニ付テハ蘭印當局ノ斡旋ヲ要求シテ「ラ」及「ス」社ト總量三百八十萬屯(新規買付二百萬屯、其内譯原油百萬、重油八十萬、航空揮發油二十萬)ノ確保方ヲ交渉スル方針ヲ以テ進ム様訓令セリ之ニ對シ現地ヨリハ右「ライン」ニ依ル交渉ノ成功ハ極メテ困難ナル旨上申シ來レリ

五、石油鑛區關係

(イ)、蘭側代表ハ昭和十五年十月初旬我代表ニ對シ「ニウギニア」、「セレベス」及「ボルネオ」ニ於テ日本側ニ約六十萬「ハ

クター」ノ石油鑛區提供ノ意アルコトヲ申出タルカ十月末向井ニ對シ改メテ

「ニューギニア」ニ於テ 一千四百九十萬「ヘクター」

「セレベス」ニ於テ 十六萬三千「ヘクター」

「ボルネオ」ニ於テ 一百三十萬「ヘクター」

ノ鑛區ヲ日本石油業者ニ於テ開發方提議シ來レリ

(ロ)、右各鑛區ハ其價值未知數ノモノナレトモ不取敢全部之ヲ獲得シ度キコト及更ニ「ボルネオ」、「スマトラ」ニ於ケル有望鑛區獲得方及「スマトラ」ノ「ジャムビー」ニテ探掘ニ從事シ居ル蘭印政府及「ローヤル、ダッチ」ノ半官半民會社 N・I・A・Mニ資本參加方書面ヲ以テ申入レタリ

(ハ)、其ノ後伊藤ニ於テ「ファンモーク」代表ト會談、次テ鑛山局長ト會見討議ノ結果到達セル了解事項左ノ通

(一)「サンクリラン」第一區ニ對シテハ BOM 社ノ都合ヲ考慮シ特別トシテ探鑛權出願ヲ探鑛權出願ト同時ニ爲スヘキコト及出願後ハ許可前ト雖現有鑛區外ノ隣接地ノ試掘ヲ認ム

(二)「ニューギニア」及「サンクリラン」ニ對シテハ至急出願手續スルコト必要書類ハ鑛山局ニテ用意ス

(三)「セレベス」ニ對シテハ探鑛權出願ハ兎ニ角認ム(但シ許可ニハ難色アルカ如シ國防上ノ理由ナラン)

(ニ)、昭和十六年二月十八日伊藤ヨリ「モ」ヲ通シ「ボルネオ」「サンクリラン」第一區(二萬九千八百ヘクター)「ニューギニア」(百三十萬ヘクター)「セレベス」(十二萬一千四百ヘクター)ニ對スル夫々ノ探鑛權出願書ヲ提出同時ニ又ソノ後モ右至急審議方強ク要望シタルニ對シ蘭側ハ石油問題ハ一般會商ノ一部ナリトノ建前ヲ以テ今迄ノ交渉ハ下相談ニ過キス全般の審議ノ終了ヲ俟チ初メテ確定的取極ニカカルヘキモノニテ前記三區域ハ可能性ヲ有スル最大限度ニシテ他ノ地域ニ付テハ考慮ノ余地ナシ尤モ「サンクリラン」ハ他ト切離シ審議スヘシトノ態度ヲ固持ス右蘭側態度ハ石油問題ヲ器獨^(マ)ニ一氣ニ解決セントスル我方方針ト一致セス仍テ伊藤ハ此ノ上ハ手ノ盡シ様モナシトテ最後ノ決定ハ代表部ニ引繼キ歸

朝方稟請シ來レリ右ニ對シ關係當局ハ一般交渉行ハレ居ル際石油代表一行ノ引揚ハ思ハシカラストシ伊藤ノ現地滞留ヲ要請シタル結果伊藤ハ石油資源問題ハ一般會商ノ一部トシテ引續キ交渉ニ當ルコト、ナレリ

(ホ)、石油問題ニ關シ其ノ後(昭和十六年四月十九日)代表部ヨリノ報告ニ依レハ鑛區問題ノ運命ハ一般會商ノ成行ニ左右セラレ居ル模様ニテ「サンクリラン」ハ有望「セレベス」及「ニューギニア」ハ軍事上ノ理由等ニ依リ相當困難アリ伊藤ハ向井ニ對スル口約ヲ楯ニ交渉シタルモ先方ハ口約ナシト應酬シタル趣。尙「サンクリラン」ニ對スル申請ハ多分六、七月頃國民參議會ニ付議サルベシトノコトナリキ。要スルニ本件ニ對スル蘭側態度ハ一般會商ノ結果如何ニ依リテハ「サンクリラン」ヲ許可シ更ニ「セ」「ニ」ニ付テハ「サ」方面ニ於ケル我方事業ノ成績ヲ見タル上考慮ノ余地アリ得ヘシト云フニアリタルカ如シ右ニ對シ我方ハ三區域全部ノ主張ヲ棄テサル方針ニ進ム傍ラ「サ」鑛區ノ許可ヲ急カシムル方針ヲ以テ進ム様訓令セリ之ニ對シ現地ヨリハ右「ライン」ニ依ル交渉ノ成功ハ極メテ困難ナル旨上申シ來レルモ次テ五月二十二日石油鑛區ニ關スル我方提案ヲ蘭側ヘ手交濟ノ旨報告越セリ(附錄第六號參照)

(英文提案要譯左ノ通)

帝國代表部ハ蘭國政府ニ對シ既ニ申請濟ノ下記三鑛區ニ於ケル鑛油試掘權ヲ更ニ油ノ發見セラレタル場合ハ其ノ採掘地權ヲB・O・M社ニ附與セラレンコトヲ要請ス

「サンクリラン」鑛區 二七九、〇〇〇「ヘクタール」

蘭國政府ハ「マンカリアト」半島ニ於ケル(百三十萬「ヘクタール」ヨリ前記數字ヲ差引タル殘余)部分ヲ將來ノ地權擴大ノ爲B・O・M社ノ利益範圍トシテ保留スヘシ

「セレベス」ニ於ケル「バンガイブロック」鑛區一二、四〇〇「ヘクタール」

「ニューギニア」北東ニ於ケル一、三〇〇、〇〇〇「ヘクタール」中ヨリ選定セラルベキ 六〇〇、〇〇〇「ヘクタール」

六、蘭印ノ對日感情會商促進申出ト芳澤代表ノ派遣

(イ)、蘭側ハ歐州大戰ハ結局長期戰トナリ其結果英ノ勝利ニ歸スヘシトノ觀測ヲ下シ居タルモノノ如ク英、米、特ニ米國依存ノ念強ク米ヲ利用シテ日本ヲ牽制セントスル策ニ出テ米、英、濠ノ共同防衛ニモ極秘裡ニ或程度參加シ居タルモノノ如ク從テ英國ノ敗戰確實トナリ且米ノ對蘭印積極援助絶望トナラサル限り蘭印力眞ニ日本ト提携スル意ナク會商ニ對スル熱意モ乏シキ狀態ナリキ

殊ニ日、獨、伊三國同盟成立以來深甚ナル失望ヲ抱キ昭和十五年十月中旬蘭側代表ハ小林代表ニ對シ日本ノ大東亞共榮圈ニ於ケル指導ノ地位ヲ承認シ難シトナシ且日本カ歐州ニ於ケル獨逸ノ指導ノ地位ヲ認メ居ルモ蘭印トシテハ和蘭本國ノ再興ヲ念願シ居ルモノニシテ和蘭ノ敵タル獨逸ト同盟セル日本トノ貿易問題ノ如キハ輕々ニ看過シ得スト述ベタリ之ニ對シ小林代表ハ元來三國同盟ハ日本ガ今次歐州戰ニ捲込マレサル爲ナルモ若シ米國ガ參戰スル場合日本モ獨ニ味方スル惧アリ故ニ之ヲ避ケル爲ニハ寧ロ日本、蘭印間ノ緊密提携ニヨリ米國ヲシテ參戰ヲ思止マラシメ得ヘシト説明セルモ蘭側代表ハ獨ノ敗戰ヲ希望シ居ル蘭印トシテハ日本側ト見解ヲ異ニストテ容易ニ讓ラズ相當強硬ナル態度ヲ示シタリ

仍テ十月十六日兩國代表ノ共同「コンミュニケ」ヲ以テ「三國同盟ハ日本、蘭印間ノ友好關係ヲ阻害スルモノニ非ラサル」旨公表セリ

(ロ)、以上ノ如キ事情ニテ會商モ具體的問題トシテ差當リ石油ヲ中心トシテ討議セラレタルノミナルカ小林代表ハ政務上ノ都合モアリ十月二十二日「スラバヤ」發歸朝セルヲ以テ齋藤總領事及太田勅任事務官ニ於テ會商ヲ繼續セリ

(ハ)、十一月八日在京和蘭公使阪本歐亞局長ヲ來訪シ日本新聞ノ對蘭印論調ノ不穩當ナルコトニ付申出タルニ付同局長ヨリ蘭印ニ於ケル新聞ノ對日論調モ是正スル必要ヲ說キ且「バタヴィヤ」ニ於ケル買油交渉力英、米ニ内報サレ居ル形跡アリトテ之ニ抗議セリ

(二)、越ヘテ同月十五日同公使再ビ阪本局長ヲ來訪ノ上日本代表部ハ蘭印滞在既ニ二ヶ月トナルニ未タ石油以外ノ一般の提案ヲ示サザルカ蘭側トシテハ日本側要求ヲ慎重検討ノ必要アルニ付至急提出方希望ス若シ右不可能ナルニ於テハ蘭側ハ代表部間ノ交渉ヨリモ寧ロ在「バタヴィヤ」日本總領事トノ交渉ニ移スコトヲ望ム旨ノ口上書ヲ手交セリ

(ホ)、外務省ハ十一月二十日附口上書ヲ以テ同公使ニ對シ「帝國政府ハ小林使節ノ後任トシテ近日中ニ新ニ特派使節ヲ任命シ蘭領印度政府ニ對スル帝國政府ノ提案ハ右特派使節カ蘭領印度到着ノ上提出スル」旨ヲ通告セリ

(ヘ)、帝國政府ハ元外務大臣芳澤謙吉氏ヲ小林使節ノ後任トシテ蘭印ヘ派遣スルコト、シ十一月二十八日附口上書ヲ以テ此旨在京和蘭公使ニ通報セリ

(ト)、右ノ如ク芳澤氏派遣ノ件ヲ蘭側ニ通報セルニ拘ラス「バタヴィヤ」ニ於テ蘭側代表ヨリ芳澤氏到着ノ遅カルヘキコトヲ理由ニ重ネテ一應會商中止方申入レ來レリ

(チ)、仍テ十二月三日水野通商局長在京和蘭公使ヲ招キ一般の提案ナルモノハ全權ヲ有スル使節ノ考慮ヲ内容トスヘキ點多ク然モ芳澤氏「バタヴィヤ」着モ近キコトナレバソレマテ待タレ度、又會商一時中止ヲ公表スルトキハ本會商ニ多大ノ關心ヲ有スル日本ノ輿論ニ極メテ惡影響ヲ及ホシ延イテ兩國民ノ感情ヲ刺戟スル惧レアルニ付蘭側ノ自重ヲ希望スト説キタルトコロ同公使モ之ヲ諒解シ早速可然取計フヘシト答ヘタリ

(リ)、芳澤代表ハ十二月二十八日「バタヴィヤ」着一月二日蘭印總督ト會見セリ

會談要領左ノ通

一、芳澤代表ヨリ日蘭印間ノ經濟協定締結ニ依リ相互ノ親善關係ヲ促進セントス之カ爲ニハ虚心坦懷ニ意見ノ交換ヲ行ヒ度考ヘ居ル次第ナリト前置シ(一)蘭印政府ハ日本ニ對シ全然差別待遇ヲ爲シ居ラスト稱スルモ是レ法律的二然リト言フニ過ギスシテ事實ハ之ニ反ストテ一例トシテ「スマトラ」方面ニ開港場多キニ拘ラス日本ト關係緊密ナル東部地方ニテハ多數ノ開港場ヲ閉鎖セル事實ヲ指摘シ又日本人ノ入國、營業、企業上ノ許可甚困難ナルコト(二)蘭印側モ對日不

滿アルヤモ知レサルカ日本亦在蘭印邦人ノ經濟活動ニ對スル蘭側態度ニ不滿アルヲ以テ此等ノ不滿ハ速ニ除去スル必要アルコト(三)蘭印ニハ未開發ノ儘放置サレ居ル部分大ナルニ付持タサル國日本カ蘭印ノ豐富ナル天然資源ノ開發ニ對シ參加ヲ欲スルコトハ當然ノコトナリ而シテ日本ハ資源開發ニ對スル參加ト通商ノ促進ヲ企圖スルモノニシテ何等領土の野心ヲ藏スルモノニ非ルコト(四)然ルニ蘭印ノ防備狀態ハ全然戰爭のニシテ其色彩濃厚ナルコトニハ驚キタル次第ナルカスル狀態ハ日本ニ惡影響ヲ與ヘ面白カラサルコトヲ率直ニ述ヘタリ

二、右ニ對シ總督ハ(一)蘭印政府ハ長キ間蘭印ノ開發ニ努力シ來リタルモ開發ノ容易ニシテ且有利ナル地域ヲ手始めトシテ今日ニ至リタル次第ニシテ既ニ相當ノ成績ヲ舉ケ居レリ又將來ニ付テハ蘭印政府カ何時如何ナル地域ヲ開發スヘキカラ最モ良ク知リ居ルヲ以テ適當ノ時期ニ開發ニ着手スル考ニシテ未開發ニ放置シ居ルニ非ス尙外國ノ投資モ誘致スル政策ヲ執リタルコトハ御承知ノ通ナルカ之ニ對シ投資セサル國アリテモ是レ蘭印ノ責ニ非ス(二)蘭印トシテハ日本ニ對シ差別的待遇ヲ爲シ居ラス要スルニ開港場ノ如キモ蘭印自身ノ貿易及海運保護ノ爲措置シ居ルモノニテ又日本人ノ入國ニ關シテモ決シテ差別的取扱ヲ爲サス要ハ蘭印ニ於ケル最近ノ教育普及ニ伴フ就職者増加ノ爲外國人従業員ノ入國ヲ制限シ居ル次第ナリ(三)現在世界情勢ノ推移就中東亞ノ一部ニ事態ノ成行極メテ不安ナルモノアル今日蘭印トシテハ之ニ對處シ充分蘭印ノ安全ヲ確保スル爲防備ヲ爲ササルヘカラス然シ好マシカラサル空氣ヲ除去シ經濟問題ニ關シ双方ニ満足ナル協定成立スル爲努力シ度コトハ貴代表ト同様ナリト述ヘ最後ニ蘭印自身ノ國內事情及蘭印政府ノ立場ニ付テハ充分御理解ヲ得度ト附言セリ

三、右ニ對シ芳澤代表ヨリ具體的問題ニ付テハ會議ニ於テ蘭側代表ト討議スル所存ナルヲ以テ本日ハ日、蘭印間ニ横ハル惡空氣ヲ解消スルコトノ必要ヲ説明セルノミナリト述ヘタリ(五)ニ總督ハ友好的態度ヲ以テ交渉ノ妥結ヲ援助スヘキ旨ヲ答タリ

七、芳澤代表交渉開始

(イ)、昭和十六年一月十五日芳澤代表ハ石澤、太田、同伴、蘭側代表「ファン、モーク」ヲ往訪ノ上十六日日本側提案ヲ一括提出スヘキカ蘭側ニ於テ希望アラバ我方提案ヲ口頭ニテ説明スヘキ旨申入レタル處「モーク」ハ蘭側ニ於テモ日本提案ヲ檢討シ其上數日中ニ蘭側提案ヲ差出し意見交換ノ上双方ノ提案ヲ照合シテ「アゼンダ」ヲ作成シ以テ正式交渉ヲ開始スルコトトシタシト述ヘタリ

仍テ芳澤代表ハ日本側ハ石油問題ヲ特ニ重大視シ此問題ニ關シテハ向井ノ後任者トシテ來爪セル伊藤ヲシテ向井ト同一資格ニテ向井同様實官ト交渉セシメタシ尙右ノ趣旨ニヨリ日本側提案中ノ鑛業問題ヨリ石油關係ノ分ヲ除外シタリ又通商問題ニ關スル附屬書類ニ於テモ石油ノ買付ニ關スルコトヲ包括セシメ居ラスト述ヘタル處「モーク」ハ蘭側トシテハ石油問題ト雖モ之ヲ兩國代表間ニ於テ一般的ニ交渉スヘキモノト思考スト答ヘタルヲ以テ芳澤代表ハ代表間ノ一般的交渉トスルコト勿論ナルモ具体的細目ニ關スル交渉ハ伊藤ニ於テ當ルコト向井ノ場合ト同様ナリト返セルニ「モーク」モ其儀ナラハ何等異議ナシト答ヘタリ

(ロ)、伊藤カ「モーク」ニ對スル挨拶ノ爲往訪セル際「モーク」ハ伊藤ノ資格ヲ尋ネタルニ付向井ノ後任タルコトヲ答ヘタル處「モーク」ハ買油問題既ニ解決シ小林氏モ之ヲ承認セルモノナルニ付既ニ問題ハ完了セル次第ニシテ又石油鑛區ノ問題ハ兩國代表間ニ一般的ニ交渉セラル、モノナレバ之ト切離シテ別ニ交渉スルコトニハ應ジ難シト洩セル由ナレハ先方ハ石油問題ヲ一般問題交渉上ノ駈引ニ利用スル肚カトモ思考セラレタリ

(ハ)、十六日石澤總領事蘭側代表「ファン、ホーフストラーテン」ニ我方提案(附錄第二號參照)^(五カ)ヲ手交シタルカ其際兩者間ノ會談左ノ通

(一)「ホ」ハ入國問題ニ關シ日本人ノ入國ニ關スル過去ノ實績ヲ見ルニ從業員入國申請數ハ一ケ年三百人位ニテ之ニ對スル不許可ノ割合ハ極メテ少シ然ルニ今千五百人以上ノ入國ヲ要求スルコトハ了解シ難シト述ヘタルニ付石澤ハ過去ニ

於テモ日本人ノ入國要望ハ決シテ一ケ年三百人ニ止マラス實際上千六百三十三人ヨリモ多キ程ナリ然シ許可數カ極度ニ制限セラレ如何ニ申請スルモ到底許可ノ見込ナキ故不滿ヲ忍ビテ最小限度ノ數ニ止ムルノ已ムナキニ至レルモノナリト説明セリ

(二)「ホ」ハ入國稅ナルモノハ元來支那人入國制限ノ一手段トシテ設ケタルモノニシテ日本人目標ニ非スト述ヘタルニ付石澤ハ支那人入國制限措置ノ結果日本人ニ不滿ヲ與フルコトハ不合理ナリ故ニ支那人ニ對シテハ別ニ方法ヲ講ズレハ足ルヘシト答ヘタリ

(三)「ホ」ハ日本人醫師カ日本人以外ノ者ニ對シ診療スルコトヲ要求スルヤト尋ネタルニ付石澤ハ日本人ニ對スル診療ヲ許可セラレタシトノ趣旨ナルモ若シ希望者アレハ之ヲ診療スルコトモ考居ル次第ナリト答ヘタル處「ホ」ハ此ノ如キ方面マデ日本人醫師ヲシテ診療ヲナサシムルコトハ問題トナラストノ口吻ヲ洩セリ

(四)「ホ」ハ日本人漁夫力從來蘭印沿岸ニ於テ不法ナル行爲ヲ爲セルコトハ蘭印政府ノミナラス一般人ニ大ナル反感ヲ與ヘ居レリ殊ニ今日對獨宣戰ヲ布告シ蘭印全土戒嚴令下ニ在ル際新ニ日本人漁夫ノ進出ヲ認ムルコトハ困難ナリ蘭印政府ハ土人漁業ヲ獎勵シテ彼等ニ職ヲ與ヘ度考居ルヲ以テ良好漁場ハ土人ノ爲ニ留保シ置キ度ト述ヘタリ

右ニ對シ石澤ハ兩國間ノ經濟關係ヲ助長セシメントスルニハ過去ノ事柄ヲ云々シテハ之ヲ遂行シ得ス若シ我方要求ニシテ容レラル、場合ハ日本政府ニ於テモ漁夫ノ素質ヲ根本的ニ改善シ從來ノ如キ問題ヲ根絶スベシ又土人漁業ニ對シテハ決シテ競争トナサル様ニスヘシト答ヘタリ

(五)「ホ」ハ日蘭印間ニハ既ニ無線電信及電話アリ然ルニ海底電線ヲ敷設セントスル理由ヲ了解シ兼ヌト述ベタルヲ以テ石澤ハ日本ノ敷設セントスルモノハ最新式ノモノニシテ電話、電信及寫眞電送ヲ爲シ得ルモノナリ故ニ「ラヂオ」ノ缺點ヲ除キ得ルモノニシテ兩國親善、經濟關係ノ助長ニ資スルモノナレハ是非共敷設シ度ト答ヘタリ

(六)「ホ」ハ何故ニ通商問題ニ關スル別表ヲ添附セサルヤ(注英文ニ別表云々トアルモ芳澤代表ハ特ニ之力提出方差控タル

モノト思考セラル）ト尋ネタルニ付石澤ハ蘭側ノ我提案ニ對スル態度カ判明セサル限り之ヲ提示スルモ無意味ナリト思考スルカ故ナリト答ヘタリ

(七) 最後ニ「ホ」ハ日本ノ提案ハ原則的要求ニシテ然モ極メテ廣汎ニ亘リ居リ此ノ如キ要求ヲ容ル、コトハ蘭印ノ主權ヲ制限スル問題ニシテ同意シ難キモノト思考ス日本カ具體的ニ如何ナルモノヲ要求セントスルカヲ明カニセラレサル限り諾否ヲ決定シ難シト述ヘタリ

八、日、蘭印銀行金融協定ノ締結

(イ)、大東亞共榮圈內ニ於ケル經濟問題ノ根幹タル通貨ノ圓滑ナル運用方ヲ先ツ日、蘭印間ニ設定シ以テ漸増スル相互ノ貿易決濟ヲ容易ニセンカ爲本協定ヲ締結セリ

(ロ)、本協定ノ當事者ヲ橫濱正金銀行及蘭印ノ中央銀行タル爪哇銀行トシ兩行間ニ於テ昭和十五年十一月初旬ヨリ折衝ヲ開始シ十二月二十一日最終案ニ到達シ二十四日調印ヲ了セリ

(ハ)、本協定ノ主要點左ノ如シ

(一) 橫濱正金銀行ハ爪哇銀行ニ「蘭印貨二百萬盾」ヲ以テ、爪哇銀行ハ橫濱正金銀行ニ「邦貨四百五十萬圓」ヲ以テ、當座勘定ヲ設定ス

(二) 橫濱正金銀行カ蘭印貨ヲ必要トスル場合ハ爪哇銀行ハ何時ニテモ之ヲ供給シ、爪哇銀行カ圓貨ヲ必要トスル場合ハ橫濱正金銀行ハ何時デモ之ヲ供給ス

(三) 本協定ハ昭和十六年一月一日ヨリ一ケ年間有效トス

本協定ハ滿期三ヶ月前ニ解約ノ予告ナキ時ハ引續キ有效トス

九、「ホ」通商局長ノ内話

昭和十六年一月十六日ノ會談ニ於テ石澤ハ蘭側ノ對日認識ヲ深メ置クコトノ必要ヲ認メ今次會商ノ重要性及日蘭印經濟提携ノ必要性ヲ強調シ「ホ」ノ大乗の見地ヨリスル善處方希望セル處「ホ」モ打解ケタル態度ニテ之ヲ諾シ日本側ニテモ蘭側ノ立場ト心境ヲ深く認識アリタシトテ左記要項ノ通り内話セリ

(一) 在蘭獨逸人有力者カ和蘭本國官民ノ期待ヲ裏切り獨軍侵入直前態度ヲ豹變シ第五部隊ニ加ハリ蘭人殺戮ヲ敢テシタルノミナラズ占領後獨側ノ蘭本國人壓迫ノ近狀判明スルニ連レ蘭印一般ノ獨逸ニ對スル憤激ハ極度ニ達セリ

(二) 之ニ反シ英國ノ和蘭人及和蘭政府ニ對スル態度ハ蘭印一般ノ感謝ニ値シ英ト一連托生スルモ悔ナシトノ氣分強ク一方英ヲ助クル米ニ對スル感謝ノ念モ高マリツ、アリ要スルニ蘭人ノ感情ハ英米ト結ンデ運命ヲ共ニシ國難突破ニ邁進スヘシトノ方向ニ傾キツ、アリ

(三) 然シ乍ラ蘭印政府要路者ハ本國ハ已ムヲ得ス中立政策ヲ放棄セルモ蘭印ハ今尙感情ニ走ラス中立態度ヲ堅持スルヲ賢明ナリト考ヘ日本カ積極的又實際的ニ獨逸ヲ援助セサル限り對日關係ヲ友好裡ニ持續シ行カントスル氣分ヲ以テ進ミツ、アリ日本ハ英米ノ對蘭壓迫ヲ危惧スルモ英ハ蘭ノ立場ヲ承知シ居リ對獨戰爭ニ於ケル蘭ノ援助振ニモ満足シ他國ノ干涉壓迫ヲ好マサル蘭ノ國民性モヨク承知シ居ルヲ以テソノ對日政策ニ關連シ蘭印ヲ壓迫スルカ如キ態度ニハ出ヅヘシトモ覺エス米國亦英ト同様ナリト

一〇、松岡大臣ノ議會演說ニ對スル反響

昭和十六年一月二十三日「ホ」石澤ヲ來訪、蘭側回答ハ提出準備成レルモ松岡大臣ノ議會演說中蘭側輿論ヲ刺戟セル部分アリタルニ付暫ク提出ヲ差控フルコトトセリトテ演說中(一)日本カ一方的ニ蘭印ヲ大東亞共榮圈內ニ含メソノ指導權ヲ有スル旨強調セルコト(二)日蘭印關係ノ根本的建直ノ要ヲ說ケルコトヲ指摘シタル上日本ノ大東亞指導問題ニ付テハ小林全權當

時既二問題トナリ當時日本側釋明及共同「コンミュニケ」發表ニヨリ一段落トナリタルカ今回再ヒ本問題ヲ持出シ剩ヘ蘭印ヲ佛印「タイ」ト同列ニ置キ日本カ總括的ニ蘭印ノ指導權モ有スルカ如ク說ケルハ承服シ得ス仍テ此ノ際日本側ニ於テ日本ハ佛印ヲ蘭印ト同列ニ置クモノニ非ス又蘭印ニ對スル指導權モ要求セザル旨何等カノ形式ニテ表明シ蘭側輿論ヲ緩和サレタシト述ベタリ蘭側提案ノ點ニ關シ石澤ヨリ蘭側ハ會商ニ關スル提案ヲ提示セストノ意ナリヤト念ヲ押シタルニ對シ右ハ松岡大臣演說ノ爲再檢討ヲ余義ナクサレタルヲ以テ提出ハ來週中トナルヘシト答ヘタリ

尙同日夜海軍長官モ石澤ニ對シ日本ハ何所迄モ蘭印ノ主權ヲ尊重シ之ニ指導權ヲ及ホス意思ナキ點ヲ明カニシソノ趣旨ニテ政策ヲ實施スルモノナルコトヲ蘭側ヲシテ信セシムルコトカ今次會商成功ノ基礎ナリト述ヘタリ

芳澤代表ハ會商ヲ進行セシムル爲大乘の見地ヨリ右蘭側ノ希望ヲ容レ芳澤全權ノ名ヲ以テ「ステートメント」ヲ發スルコトヲ得策トシ左記要旨ノ案文ヲ作成、二十五日石澤ヨリ「ホ」ニ内示シタリ

兩國關係ニ付日本ノ欲スル所ハ曩ニ「スラビンタナ」會談後發セラレタル共同「コンミュニケ」ニ述ブル所ト全然同一ニシテ變化ナシ

兩國經濟關係ノ伸暢強化ハ日本ノ欲スル兩國共存共榮確保ノ爲極メテ重要ナリトスル考ヨリ今次會商ハ發出シ居レリ余ハ今次會商カ満足ナル妥結ニ到達センコトヲ望ムト共ニ松岡大臣演說中蘭印ニ關スル部分ハ上記ト全然同一ノ見地ヨリ述ヘラレタルモノナルコトヲ言明センコトヲ欲ス

「ホ」ハ一讀ノ上右ハ余リ漠然タルモノナリトテ改メテ松岡大臣ノ名ニ於テ(一)大東亞共榮圈內ニハ蘭印ヲ含マサルコト(二)日本ハ蘭印ニ對シ指導ヲ強要セサルコトヲ聲明方要請シ之ニ對シ石澤ハ(一)ノ點ハ兎ニ角(一)ノ點ハ日本民族ノ一大理想ナレバ蘭側ヨリ言懸リヲ受クヘキ筋合ニ非ス但シ希望アルニ於テハ會商ニ此ノ問題ヲ取上ゲ政治經濟協定締結ノ爲討議スルコトトシテハ如何ト述ベタルニ「ホ」ハ當惑シ結局大臣聲明ノ希望ヲ撤回シ何レ「モ」ト協議回答スヘシト答ヘタリ

二十八日「ホ」ハ「ステートメント」問題ニ關シ石澤ニ對シ其ノ後日本ニ於ケル議會、「ラデオ」、新聞等ニヨリ日本ハ蘭

印ヲ佛印同様東亞共榮圈內ニ含メントスルモノナルコト益々明カトナレルヲ以テ右「ステートメント」發表ハ意義ナキモ日本側希望ナラバ發表差支ナク其ノ際ハ「共存共榮」ノ言葉ヲ用ヒラレサル様致度ト述ベタルニ付石澤ハ先方カソノ考ナラバ發表ハ無意味トナシ結局我方ハ發表ヲ見合ハスヘキコトヲ先方ニ申入レタリ

一一、大橋次官ノ言說ニ對スル反響

昭和十六年一月三十一日在京「パ」和蘭公使大橋次官ヲ來訪「和蘭政府ハ蘭印ヲ如何ナル國ノ指導權ノ下ニ於ケル如何ナル東亞新秩序ニ編入セントスル思想モ拒否スルモノナリ」トノ意味ノ口上書ヲ手交シタルヲ以テ次官ハ大臣ノ演說ハ我方ノ主張ニシテ蘭側之ヲ受容レストスルモ仕方ナキコト、「バタビヤ」ノ經濟交渉ハ全然別個ノ問題ナルコトノ趣旨ヲ以テ應酬シタルカ右次官ノ言說ハ蘭公使ノ申入ヲ拒絕セルモノ、如ク蘭印ニ誤傳セラレタル爲蘭印側ヲ痛ク刺戟シ「リットマン」情報部長ハ二月三日日本新聞記者ニ對シ右カ事實トセハ會商續行不可能ナル旨語レル趣ナルカ我方カ眞相ヲ傳ヘ芳澤代表ヨリ右報道ハ事實ト相違セル旨ノ「ステートメント」ヲ發シタル結果一時小康ヲ得タルガ如シ(斯ノ如キ經緯ニテ蘭側對案提出遲レ漸ク二月三日ニ至リ提出セラレタリ)

然ルニ大橋次官ノ言說ニ關シ次テ行ハレタル石井情報部長ノ對記者談又蘭印ニ喧傳セラレ蘭印ニテハ右ヲ以テ恰モ倫敦ニ逃避中ノ和蘭政府ヲ否認セルカ如クトリ二月五日「ホ」ハ石澤・太田ニ對シ帝國政府ヨリ倫敦ニ於ケル和蘭政府ヲ法律上竝ニ事實上認ムル旨正式ニ發表方ヲ東京ニ於テ「パ」公使ヲ通シ折衝セシメ度トノ意向ヲ洩シタリ之ニ對シ我方ハ石井情報部長ノ談モ亦誤報サレタルモノナルベシトテ種々說示ニ努メ東京ニ於ケル交渉ノ不必要ヲ主張シ「ホ」ハ兎ニ角總督ニ取次クヘシトテ引取リタリ

二月八日大橋次官ハ「パ」公使ヲ招致、蘭印政府ハ石井部長ノ談話ヲ楯ニトリ會商ヲ濫リ居ル趣ナルカ御承知ナリヤト問ヒタルニ對シ公使ハ石井部長カ和蘭公使ヲ認ムル能ハスト述ヘタル旨承知シ居レリト答ヘタルヲ以テ次官ハ從來我方ハ貴

使ト交渉シ居ルニ不拘貴使ヲ認メズト云フハ「ナンセンス」ニテ石井ノ談モ記者カ誤報シタルモノナラントテ帝國政府ノ正式「コンメント」ハ一月三十一日次官カ述ヘタル所ト同一ナルコト、右「ナンセンス」ヲ楯ニ會商ヲ停屯セシムルコトナク交渉ヲ進ムル様進言セラレタキコト然ラザレバ我方一部強硬手段主張論者ノ聲ヲ大ナラシメ制壓困難ナルベキコトヲ説示セルニ公使ハ自分モ「ナンセンス」ト思ヒ居タルカ貴官ヨリ自分ノ考ヲ「コンファーム」サレ満足ナリトテ辭去セリ（尙蘭印新聞カ松岡大臣、大橋次官、石井部長ノ本件言説ヲ取上ケ其ノ都度喧シク論議セルハ言フ迄モナキ所ナルカ就中和蘭政府ノ地位ニ關スル點ハ蘭側ノ最モ弱點トスル所ニ觸レタリト見エ二、三新聞ハ會商ノ前途ニモ引掛ケテ騒立テタリ）二月十一日石澤總領事ハ「ホ」ニ對シ前記次官「パ」公使會談ノ趣旨ヲ説明強調セル處「ホ」ハ次官ノ話ノミニテハ満足セス日本政府ノ正式打消ヲ希望シ石澤カ本件ハ係官ノ言ヲ誤報セル迄ニテ日本政府ノ正式聲明ニ非ラサルモノヲ政府カ打消ス謂レナク又次官ノ言ニ依リ日本政府ノ意志ハ明瞭トナリタル筈ナリト説キタルモ聽カス石澤ヨリ更ニ政治問題ハ外交機關ニ讓リ會商ヲ進捗スルコトノ急務ヲ説キタルニ對シ「ホ」ハ本件ハ蘭側ニトリ根本問題ニテ日本政府カ疑惑一掃ノ措置ヲ執ラサルニ於テハ貴説ニ從ヒ得ス何レ「パ」公使ノ報告到着次第「モ」代表トモ協議ノ上蘭側意見ヲ述フヘシト答ヘタリ（十三日「スラバヤ」諸新聞ハ日本政府カ和蘭ノ立場ヲ了解セル旨回答セリトテ満足ノ意ヲ表スルト共ニ會商今後ノ成功ヲ信スル旨論セリ）

一二、松岡大臣ノ石油ニ關スル議會答弁

衆議院予算總會ニ於ケル松岡大臣ノ我方ハ予期以上多量ノ石油ヲ獲得セリトノ旨ノ答弁ハ一月三十日蘭印各新聞ニ大々的ニ掲載セラレ各方面ノ注意ヲ惹キタリ

一三、我方提案内容新聞發表問題

一月二十九日蘭印各新聞ハ莫斯科「ラジオ」カ馬尼刺AP電トシテ日本ノ對蘭印要求ハ(一)外領ノ自由開拓(二)定期航空路ノ對蘭印延長(三)漁業及鑛業利權(四)未開發地域ノ日本人ニ依ル開發(五)日本人醫師ノ開業許可(六)現行輸入制限ノ變更等ニアル旨竝ニ前記APハ蘭印ハ何レノ國人ニ對シテモ特別ノ待遇ヲ認メサル立場ニアルコトヲ屢々發表シ居ルヲ以テ蘭印ハ右要求ヲ好意的ニ受容レザルヘシト評シタル旨放送セリトノ「ロイター」電ヲ掲ケ更ニ三十日朝刊ハ「アネタ」所報トシテ本件情報ハ日本側ヨリ出タルコト判明セリトノ旨ヲ報シタリ

之ヨリ約一週間前「ホ」通商局長ヨリ石澤總領事ニ對シ日本側隨員カ我方提案ヲAP記者ニ洩シタルハ遺憾ナリト申出タル事實アリ取調ノ結果其ノ事實無カリシヲ以テ當時其ノ旨回答セルカ更ニ三十日ノ朝刊記事モ「アネタ」ヲシテタ刊ニテ取消サシメタリ本件ハ蘭側ノ術策ナリシ疑濃厚ナリ

一四、蘭側對案提出、會議進行澁滯

蘭側ハ我方提案ニ對スル對案ヲ「東亞共榮圈」問題ヲ理由ニ提出ヲ遲延セシメ居タル處漸ク二月三日ニ至リ「ホ」ヨリ石澤ニ手交セリ(附錄第參號參照^(ハカ))其要譯左ノ通

今次經濟交渉ニ關スル蘭印政府ノ地位ヲ明カニシ且起リ得ヘキ誤解ヲ避クル爲蘭側代表ハ蘭印ノ經濟政策ヲ決定スヘキ考慮ヲ茲ニ再ヒ簡單ニ聲明ス

中立國又ハ非交戰國ト相互ノ通商ヲ促進スル爲經濟關係ヲ改善シ且調整セントセバ、友好的的精神ヲ以テ實行セラルヘキ不斷ノ關心ヲ要スル次第ナルモ之ニ關シテ採ラルヘキ措置ハ左ノ如キ原則ニ從ハザル可カラス

第一ニ蘭印住民ノ福祉、進歩及解放ハ蘭印政府ノ政策ノ主要目的ナルカ故ニ住民ノ利益ト相容レサルカ或ハ彼等將來ノ發展限界ヲ不當ニ狹少ナラシムルカ如キ措置ハ之ヲ避クコトヲ考慮セサルヘカラス

第二ニ蘭印ノ利益ハ外國トノ經濟關係カ嚴正ナル無差別主義ノ上ニ維持セラルヘキコトヲ必要トス、而シテ經濟的開發

ニ對スル外國ノ參加ハ和蘭王國ノ大ナル領域内ニ於ケル自給的經濟單位トシテ蘭印カ漸次形成セラル、コトヲ妨害セサルモノナルコトヲ要ス從テ如何ナル經濟的活動ノ分野ニ於テモ外國權益ノ優越的地位ノ發生ヲ許スヘカラス

第三ニ和蘭王國ノ捲込マレタル戰爭中ハ貿易其ノ他ノ經濟的活動カ直接又ハ間接ニ敵國ノ利益トナルコトノ防止及蘭印國防ノ安全ノ爲ニ制限ヲ受クルコトハ不可避ナルコトヲ認メサル可ラス

更ニ日本側代表ノ覺書ニ於テ第一ニ蘭印資源ノ開發ハ未タ不充分ナリ第二日、蘭印間ノ經濟的關係ハ「相互依存」ナル言辭ノ使用ヲ正當ナラシムル程重要性ヲ有スルモノナルコトヲ意味セルモノ、如クナルモ蘭側代表ハ斯カル主張ハ事實ニ依テ立證セラレタルモノニ非ル如ク思惟セラル、コトヲ指摘セント欲ス所謂外領ノ大部分カ人口稀薄ナリトノ事實ハ尤ナレドモ外領ノ開發セラレサルコトハ資金、勞力及企業心ノ乏シキコトニ因ルモノニ非スシテ主トシテ其包藏スル資源ノ不足ト散在的ナル性質ニ起因スルモノニシテ即チ外領ニ於ケル内國及外國資本ニ依ル若干ノ農、林、鑛業ノ成績不良ナルコトハ幾多ノ科學的開發ニ依リテ示サレタル經驗ニ徴シ右見解ヲ堅持スルモノナリ、概言スレバ蘭印ハ實際食料ノ自給ヲ爲セルノミナラズ熱帶農企業ノ殆ント凡ユル方面ニ於テ世界市場ニ於ケル供給過剩ヲ防止スヘキ生産制限ヲ爲スコトヲ必要トスル程生産ノ發達ヲ見タリ、又鑛產物ノ生産高ハ鑛產物埋藏量ニ比シ割合ニ多ク而シテ發見セラレタル鑛物カ鐵鑛ノ如ク其ノ品質劣等ナル場合ニ於テモ該鑛物ニ對スル需要ノ起ルコトヲ期待シ得ヘキ時ハ直チニ之カ開發ニ着手セリ、然シ是以上開發ノ余地ナキコトヲ意味スルモノニ非ス、然レドモ假令善意ノ外國民間資本ト知識トノ協力カ上述ノ限界内ニ於テ歡迎セラル、ト雖モ其ノ開發ハ合理的經濟ノ線ニ沿フテ行ハルヘク且主トシテ蘭印ノ他ノ地方ニ於ケル稠密ナル人口ト其ノ中ニ於テ急速ニ増加シツ、アル教育アリ且訓練アル者ノ援助ニ依リ且彼等ノ利益トナル如ク實現セラルヘキモノナリ政府ノ組織下ニ行ハル、爪哇ヨリノ農業移民ノ數カ一ケ年五萬人ノ水準ニ達シ然モ其數急速ニ増加シツ、アル事實ハ蘭印カ外國ヨリノ移民ヲ必要トスルモノニ非スシテ寧ろ經濟的ニ有望ナル外領ノ全地方ハ爪哇其ノ他ニ於ケル人口壓力ノ緩和ノ爲ニ必要ナリトノ確信ヲ與フルモノナリ

蘭印ト日本帝國トノ間ノ通商關係ノ重要性ニ關シテハ蘭印總輸出額ニ於ケル日本帝國ノ割合カ一九三〇—一九三二年ニ於ケル平均四・二一%ヨリ一九三七年—一九三九年ニ於ケル平均三・七四%ニ減少シタルコトヲ注意セサルヘカラス而シテ蘭印輸入ニ於テ日本ノ割合力増加シタルコトハ事實ナルカ右ハ蘭印ノ第三國向輸出ニ依ル購買力ノ起生ニ俟ツ所大ナルコトヲ看過スヘキニ非ス

蘭印輸出額ニ於テ支那(香港ヲ含ム)及滿州國ノ占ムル割合ハ一九三〇—一九三二年ノ八・一五%ヨリ一九三七—一九三九年ノ三・五五%ニ減退セルカ如ク更ニ逆調ヲ示セルコト及今次戰爭ニ依リ大部分ノ歐州市場ハ失ハレタリト雖モ前記ノ狀態ニ殆ント變化ナク一九四〇年一月ヨリ十一月ニ至ル間ノ對日本帝國輸出割合ハ五・一八%對滿支ハ三・九四%トナレルニ過キサルコト竝ニ斯ル輸出ノ狀態ハ蘭印ノ福利ハ對全世界貿易ニ依存スルモノニシテ單ナル地理的の近接ハ大量貿易ノ原因トナリ又ハ之ヲ維持スル上ニ於テ支配的要素ニ非ルコトヲ證明スルモノナルコトハ銘記スヘキ事實ナリ

事實上輸入國ノ繁榮及其結果生スル需要ハ距離ヨリモ遙カニ重要ナル要素ナリトス
數字ハ明カニ經濟關係改善ノ余地アルコト及能フ限り今後經濟的關係ノ更ニ平常ナル發達ヲ計ルヘキ凡ユル理由アルコトヲ示シ居レリ而シテ之ニ關シ蘭側代表ハ日本政府ノ「イニシヤチヴ」ヲ取リタル此ノ經濟交渉ノ機會ヲ利用シ左ノ如ク提案ス

一、日本ノ蘭印物產輸入

經濟的ニ蘭印ニトリ重要ナル蘭印物產ニシテ現在金融上其ノ他ノ措置ニヨリ日本ヘノ輸入力阻害ヲ受ケ居ルモノヲ日本國內消費ノ爲ニ購入セラレタク右ハ就中左記物產ニ關スルモノトス

A 砂糖

日本及滿、支ノ中從來日本ノ製糖業者ニ依リテ供給セラレタル地方ニ於テ著シク不足ス

B 珈琲

蘭印ニ對シ相當ナル輸入割合ヲ許與セラレ度

二、圓ノ自由使用

在日和蘭商社ニ屬スヘキ圓勘定殘高ハ日、蘭印間ノ經濟關係ニ於テハ合理的ナル如何ナル取引ニモ利用シ得ルコト、スルコト

三、營業ノ自由

在日和蘭國民及商社ハ支障ナク其ノ業務ヲ執行スル爲必要ナル自由ヲ與ヘラルヘキコト

其ノ際「ホ」ハ松岡大臣演說ニ對スル蘭側反對ヲ當初對案ニ織込ミタルモ對案ハ經濟問題ナルニ付之ヲ削除シ反對ハ東京ニ於テ申入ル、コト、セル爲提出遲延セリ尙蘭側對案ハ前文ニ於テ日本側提案ニ對スル蘭側見解ヲ續イテ蘭側提案ヲ記載シ居リ仍テ日蘭双方ノ案ヲ突合セ「アセンダ」ヲ作成會談ヲ始メ度ト述ヘタリ

二月五日石澤、太田「ホ」ト會見會商進行方法ニ付協議シタル處「ホ」ハ我方主張通り入國企業通商問題ノ順序ニテ具體的ニ討議シ其ノ間必要ニ應シ双方提案中ノ原則事項ヲ論議スルコトニ異議ナキモ一應「モ」代表等ト協議スヘシト述ヘ次テ本件ヲ取運フ前ニト前提シ前述ノ如ク次官及石井部長ノ言說ニ對スル不滿ヲ述ヘタリ

二月十一日「ホ」ハ石澤ニ對シ前述ノ通り日本政府ノ正式打消要求ヲ固執シ會商進行方ニ關スル石澤ノ申入ニ對シ耳ヲ藉サス

一五、在倫敦和蘭政府承認問題

前述松岡大臣ノ議會演說ニ端ヲ發シタル東亞共榮圈問題モ梟カツキ次テ大橋次官ノ言說カ誤傳セラレタル爲意外ノ波紋ヲ捲起シタル在倫敦和蘭政府承認問題モ我方ノ努力ニ依リ先方ノ納得スル所トナリタル結果二月十五日「ホ」通商局長ハ石澤總領事ニ對シ「パ」公使トノ電報往復ニヨリ日本政府ノ在倫敦和蘭政府ヲ承認シ居ル態度カ略判明シタルヲ以テ會商ヲ

進ムル用意アリト申出テ茲ニ澁帶ヲ重ネ來レル會商モ再ヒ軌道ニ乗ルコト、ナレリ

一六、予備會談及蘭側態度

斯デ昭和十六年二月十七日ヨリ會商ノ基礎工作タル予備會談ハ開始セラレ專ラ石澤「ホ」其ノ衝ニ當ルコト、ナリタルカ前後十數回ノ會談ニ亘リ、蘭側ハ別ニ會商ヲ澁ル態度ヲ示サ、リシ様子ナリ右會談ニ於テ蘭側カ我方一般提案ニ對シ表明セル見解乃至態度ヲ要約列舉セバ次ノ通り

(一) 入國問題

- (1) 根本方針―蘭印人ノ職業保護、就職口保留ノ必要上多數外國人ノ入國及外人従業員ノ増加ヲ欲セス
- (2) 日本人ト入國制限令―日本人ニ對シ特惠待遇ヲ與フル様ナ措置ハ絕對ニ出來ス八百名迄ノ入國許可ハ理論上可能ナルカ約束ハ出來ス小賣店ノ新設増加ハ好マス
- (3) 日本人ト外領―日本人集團移民ノ結成及入國ニ關スル特例ヲ設クルコトヲ好マス企業進出ハ鐵等小數ノ礦物探掘方面ニ可能カモ知レス其ノ際ノ従業員入國ハ個々ノ場合ニ檢討スヘシ
- (4) 一時の入國者ノ除外―原則トシテ異議ナシ但シ滞在數ヶ月以上ニ亘ルヘカラス
- (5) 外國人勤勞條令トノ關係
 - (イ)、入國令ニ依ル限度迄日本人ノ入國ヲ無條件許可スル時ハ外國人勤勞條令ヲ無意味ナラシメ且日本人ノミニ對シ特惠待遇トナルニ付絕對ニ同意スルコトヲ得ス
 - (ロ)、蘭印ニ於テ合理的ナリト認ムル場合八百人ノ限度迄入國許可ヲ爲スコトハ理論的ニハ可能ナルモ必ス八百人迄許可スルコトヲ約束スルコトハ困難ナリ
 - (ハ)、既存ノ日本人小賣商ノ合理的發展ニ伴フ店員ノ増加ハ或程度迄承認スヘキモ新ニ小賣店ノ増加スルコトハ歡迎セ

ズ

(二)、外領方面ニ對スル日本人ノ入國問題ニ就テハ、

(a)、「ダバオ」、南、北米ニ於ケルカ如ク日本人ノ集團の移民ノ結成セラルルコトヲ欲セズ

(b)、爪哇ト外領トヲ分離シテ取扱フコトヲ好マス

(c)、外領行日本人ハ過去三年ノ數字ヨリ見テモ一ケ年一百人以下ナルニ付日本側ノ希望ハ一ケ年八百人ノ限度内ニ於テ充分達成セラレ得ヘシト思考ス

(d)、日本人ノ企業進出ハ鐵鑛其ノ他若干ノ鑛物ニ就テ可能ナルカトモ思考スルカ之ニ必要ナル従業員ノ入國ニ就テハ其ノ都度自主のニ檢討シ度

(e)、土人ト競争ノ惧アル貧窮外國人ノ渡來ヲ防止スル爲入國稅ノ撒廢ヲ爲スコト及其ノ引下ヲ爲スコトハ不可能ナリ

(二)調査上ノ支障除去問題

蘭側ノ認ムル企業計畫(三菱ノ「プルラウト」鐵鑛開發計畫ヲ例示)ニ必要ナル實地調査ニ對シテハ便宜供與ノ用意アルモ廣汎ニシテ漫然タル一般調査ハ戰時下ノ今日許容シ難シ(王子製紙調査員、昭和十五年ノ「ニューギニア」調査團ヲ例示、特ニ後者ニ付テハ蘭側ニ通知セル以外ノ目的アリシコト南興ヨリ押收セル書類ニテ判明セリト附言ス)

(三)日本人醫師開業問題

日本人ノミノ治療ニ從事スル意ナラバ日本人ノ多數在留スル地方別ニ一定數ヲ限り承認スベキヤ否ヤ考究シテ可ナリ

(四)企業問題

(1)經營上ノ合理化促進

(イ)、日本側ノ要求スル企業力經濟のモノナラバ内容ヲ檢討シタル上考慮ノ余地アルモ最近ノ檢閲セル書類ニ依レバ

日本人企業ノ背後ニハ日本軍部アリトノ感アリ

(ロ)、日本人企業家中ニハ蘭側専門家ノ言ヲ用ヒス而モ失敗ノ罪ヲ蘭印政府ニ歸セシメントスルモノアリ(例。南興ノ棉花栽培)

(ハ)、企業着手ヲ許シタル者ニ對シテハ後日妨害スル等ノコトナシ企業家ハ予メ計画ノ全部ヲ提示スヘシ

(ニ)、信用アル一流企業ナラバ協力ヲ咨マス從來雜貨、小農園、宿屋等ノ日本人出願者ニハ能力及目的ノ疑ハシキモノアリタル爲多クノ場合不許可トセリ

(2) 鑛業

(イ)、保留地ハ政府ノ增收、企業家撰擇ノ自由確保ヲ目的トシ排日意圖ナキニ付鑛業法第五條A契約ニ依ル日本人ノ進出可能ナルモ大企業ニ就テハ資本及重役ノ過半ハ蘭側カ占ムルコトヲ條件トス

(ロ)、專ラ日本ヲ市場トスル鑛物開發ニハ好意的考慮ヲ加フヘシ(三菱ニ對スル「プルラウト」鐵鑛ノ如シ)

(ハ)、石油ヲ掘當テタルBOMノ如キニ對シテハ隣接地域ヲ其ノ勢力範圍トシテ指定留保スル用意アリ

(3) 水産業

(イ)、日本人漁夫ハ法規違反竊盜行爲多ク評判惡シ

(ロ)、外國人漁夫ヲ欲セザル理由ハ凡テノ漁業ヲ土人ノ爲留保シ毎年百萬盾以上ヲ支出シテ之ヲ獎勵スル方針ナルカ爲ナリ

(ハ)、時局柄外國漁船ノ活動ヲ好マス

(五) 交通通信問題

(1) 航空——戰時下ノ今日外國機ノ乗入ヲ欲セス日蘭印連絡ハ盤谷、西貢ニ於テ改善ノ余地アリ旁直接相互乗入ハ經濟上ヨリ云フモ希望ナシ

(2) 海底電線—現在「マラバル」經由ニテ充分ナリ「バタビヤ」長崎直通線敷設ハ必要カモ知レザルモ經費倒レトナルヘ

ク實現ノ希望ナシ

(六) 營業制限問題

(1) 元來營業制限ノ目的ハ「パイオニア」保護ノ爲メ内外ノ競争ヲ防止スルニ在ルカ倉庫、印刷、製氷業等ハ現狀ニ於テ既ニ能力過大又ハ生産過剩ニテ發展ノ余地少シ

護謨「スモーク」等ノ營業ハ當該地方土人護謨ヲ獨占スルニ至ルヘキニ付慎重ナル取扱ヲ爲ス必要アリ

織布業ハ佐藤氏ノ絹工場ノ如キ日本獨特ノモノハ若干進出ノ余地アルヘシ、然シ一般織布業ハ蘭人又ハ土人ヲシテ行ハシムル方針ナリ

(2) 企業及營業ヲ通シ蘭印トシテハ蘭印人ノ力ニ依ル自主經濟ノ確立ヲ念願トシ之力爲メニハ蘭本國ノ利益例ヘハ織物業ヲ或程度迄無視スルモ已ムナキコト、覺悟シ居ルニ付日本側力強テ企業、營業ノ自由ヲ要求セラル、モ之ニ對シ廣範圍ニ亘リ許容スルコト能ハス

(七) 海運問題

(1) 既存事業

(一) 蘭印政府トシテハ蘭印ノ經濟機構中沿岸航路ヲ重視シ居リ極力K P M 竝ニ土人ノ海運業ヲ擁護、獎勵スル方針ナルヲ以テ一般外國船ノ割込競争ヲ好マズ

(二) 虎丸ニ對シテハ過去ニ於テ既ニ充分ノ好意ヲ示シ居リ同船修理中ハ其代船ヲ認ムルモ増船ハ之ヲ許可シ難シ

(三) 「ヌシ」丸ノ「マノクワリ」「モミ」間就航ニ付現在其申請ヲ檢討中ナルニ付今日其ノ許否ヲ明言スルコト能ハス

(2) 新企業ト沿岸航海

企業ニ伴フ沿岸航海ヲ許可スヘキコトヲ予メ原則的ニ承認スルコト不可能ニシテ若シ事業ノ進行ニ伴レ必然的ニ或程

度ノ沿岸航海ノ必要カ予想シ得ルモノナラバ最初ヨリ企業計画ノ一部トシテ蘭印政府ニ申出ツルコトヲ希望ス

(3) 不開港地ノ寄港手續簡易化及開港地ノ増加

(一) 「ボーキサイト」、鹽、木材ノ如キ例ニ依リテ明カナル通り不開港地ノ寄港ハ充分迅速ニ便宜供與ヲ爲シツ、アリ

(二) 開港地ヲ増加スルコトハ輸出入數量増加スレバ之ヲ考慮シ得ル次第ニシテ木材輸出ノ爲「サンクリーラン」ヲ開港セルコトハ其ノ適例ナリ

一七、共同聲明發表

予備會議開始一兩日後二月十九日兩代表部打合ノ上左ノ共同聲明ヲ發表セリ
日蘭印双方提案ニ關スル意見交換ハ今週初ヨリ石澤「ホ」間ニ友好裡ニ取行ハレ今後モ繼續ノ筈

一八、在本邦蘭人生活上ノ苦情及要望

二月十九日石澤「ホ」會談ニ於テ同席ノ神戸駐在「ペンニンク」總領事ハ左記蘭側苦情及要望ヲ陳述セリ

(1) 日本ノ排外的氣分ハ最近頗ル濃厚トナリ日本在留蘭人カ諸種ノ俱樂部ニ於テ日本人會員ト交際スルコトスラ不可能トナリ甚タシキハ和蘭婦人ニシテ日中電車内ニテ暴行ヲ受ケタルモノアル程ニテ生命財産ノ安全感モ今ヤ消滅シツ、アリ

(2) 又蘭人ノ日常生活不自由ニシテ衣服類、靴等ノ不足ハ忍ビ得ルモ「パン」、麥粉、砂糖、石鹼、醫藥等頗ル缺乏シ居リ加フルニ蘭人所有ノ在外資金ヲ以テスル輸入許可ノ申請ニ對シ之ヲ素氣ナク拒否セラル、實情ナリ

蘭人ハ米其ノ他日本人ニ必要ナル物ハ決シテ要求セサルガ故ニ蘭人ニ必要ナル生活必需品ダケハ是取得シ度モノナリ之ニ關シテハ蘭印政府カ先年大豆及其製品ノ輸入ヲ禁止シタルニ拘ラス在蘭印日本人ノ必需品タル味噌及醬油ノ輸入

ヲ許可シタル事實ヲ想起スル必要アルヘシ

(3) 日本ノ警察及憲兵ガ和蘭人容疑者監禁中和蘭總領事トノ面會ヲ許サバリシコトハ國際禮讓ニ反ス

(4) 諸輸出組合ハ實績アル蘭商ノ入會ヲ許サバル爲メ日本商ヨリモ高價ニ買付ケザルヲ得ザルコト、ナリ蘭商排撃ノ態度顯著ナリ

其他營業上頗雜ト苦痛増加ノ一方ナルカ故ニ蘭側トシテハ已ムヲ得ス最近日本品ヨリモ五割高ノ米國製色染、捺染及

糸染綿布四千萬米ヲ注文セリ

(5) 以上ノ次第ナルニ付在日蘭商等ノ生活ニ不安ナク且從來通り彼等ヲシテ喜ンテ日本製品ノ買付ヲ可能ナラシムルコトヲ切望ス

一九、蘭側ノ根本的態度

石澤「ホ」ノ予備會談中日、蘭印根本問題ニ付屢激論ヲ重ネタル結果判明セル蘭側態度左ノ通り

蘭側ハ日本側提案ヲ以テ余リ大規模ニシテ蘭側ヲ日本ノ「コントロール」下ニ置カントスルカ如キ感アリトナシ背後ニ潜ム日本側動機ナルモノニ對シ疑惑ト不快ヲ感シタルカ如シ之ニ對シ我方ヨリハ國土狹小、支那事變ノ二點ヲ擧ゲテ提案ノ理由ヲ說示ス

蘭側ハ自主的經濟機構確立ノ必要ヲ說キ之ヲ左右スルカ如キ外國ノ政治的勢力ノ進出ヲ絕對ニ許容出來スト爲シ然ラバ日本人ノ經濟活動ヲ現在以上認メサルヤト我方ノ問ニ對シ將來蘭印ノ主權ヲ拘束スルカ如キ約束ハ爲シ得ス從ツテ原則要求ハ承認不可能然シ日本人企業家カ具體的計畫ヲ立テ申請スル場合ニハ蘭印ノ經濟機構保全ト合致スルモノナラバ好意的考慮ヲ爲スヘシト答ヘ我方ヨリ地域廣大、人口稀薄ニシテ未開發ノ外領ニ日本人ガ相當發展シテモ經濟機構ニ脅威ヲ與フルガ如キコトナカルヘシ英米ノ石油業ガ其ノ例ナリト反駁セルニ英米ノ石油ハ過去ノコト、之トモ現在ハ鑛業法改正ニ

依り統制ヲ加ヘ居リ、今後ハ蘭印人ノ爲留保シアル方針ニテ外國人ノ進出ハ最少限度ニ止メ度ト答フ

我方ヨリ右方針ヲ以テ進ムモ面積資源廣大ナル外領ノ開發ニハ日本人進出ノ余地アルベシト主張セルニ蘭側ハ何世紀ヲ費スモ蘭印人ノ手ニテ開發セシメ度尤モ之ヲ補フコトニ役立ツ外國人企業、又ハ外國人ナラサレバ出來ザル企業、蘭印物產ヲ購入シ吳ル、外國ノ當該國人企業ハ法規ノ範圍内ニテ許容スル肚ナルモ現下ノ狀況ニ於テハ日本人ノ大規模進出ハ認メズト應酬セリ

次ニ我方ヨリ三國同盟成立以來ノ蘭側ノ排日態度ヲ詰リ英米追隨、對日猜疑警戒心ノ増大ヲ云爲シ將來ノ大衝突ヲ避クル爲ニ大政治家ノ襟度ヲ以テ協調の二出ツル様從憑セル處蘭側ハ對日關係ハ獨自ニ決定スルモノニテ對英米關係トハ無關係ナリ、尙英米人ニハ氣ヲ許シテ宜シキ理由アルモ日本ノ空氣ニハ警戒セサルヲ得スイサトナラバ對日一戰ヲ賭スル覺悟アリト大見得ヲ切り之ニ對シ我方ハ蘭側見解右ノ如キ以上要求貫徹モ期シ得サルニ付日本トシテハ日、蘭印關係再檢討ノ必要アルベシト應酬セルニ蘭側ハ具體的問題ハ考慮ノ余地アルモ將來ニ亘ル問題ハ世界平和到來ヲ俟ツ外ナシトノ態度ヲ示セリ

尙最近日米危機説ガ盛ニ蘭印新聞ニ喧傳セラレ居ル處蘭側ノ右ニ對スル見解ハ日本カ佛印ニ兵ヲ入レ泰ニモ働キ掛ケ居ル現狀ヲ以テスレバ新嘉坡延テハ蘭印トシテ脅威ヲ感セザルヲ得ス若シ事が起レバ英米ハ默視セス從テ日米戰ノ可能性アリ其節ハ英米共ニ全面的ニ對日物資供給ヲ絶ツヘク然ル時ハ蘭印トシテモ右ニ追隨ノ外ナク資源貧弱ナル日本ハ早晚崩壊スヘシト云フニアリ

二〇、通商問題

(一)對日輸出制限問題

蘭側ハ兎角蘭印物產ノ對日輸出ヲ濫ル態度ヲ示シ來レル處就中錫、「ヒマシ」、「コプラ」及「パーム」油ニ就テハ

日本ニ於ケル實需量ハ斯々ナリトテ我方ノ増量方要求ニ應セス右ハ蘭側カ對獨再輸出ヲ極度ニ警戒セル結果ナリ一方蘭側カ本件措置ニ關シテ英佛米等ト緊密ナル連絡ヲ執リタル事實ハ我方要求ニ對シ英佛ノ東亞植民地ヨリノ對日輸出量ヲ引合ニ出シ應酬シ來レルコト及米國ニ對スル蘭印物產輸送船腹ノ留保措置ニ觀ルモ凡ソ推察ニ難カラサリシ次第ナリ

(二) 我方買付要求品目及數量提示

本問題ハ我方ニトリ結局再輸出セサルヘキ保障ヲ爲スカ要求量ヲ削減スルカノ二途ヨリ外ナキニ至リタリ
三月十二日我方代表部ハ蘭側ニ對シ我方買付要求品目及數量表ヲ提示シ蘭側ノ考慮ヲ促スト共ニ右ハ代表部限リノ試案ナル旨附言シ置キタリ

(三) 石澤「ホ」會談要旨

通商問題ニ關スル石澤「ファン、ホーフストラーテン」會談要旨次ノ如シ

(1) 石澤

蘭印政府カ歐米諸國トノ間ニ締結セル各種協定ノ爲束縛ヲ受ケ日本トノ間ニ協定シ得ベキ範圍著シク制限セラレ居タルモ今次歐州戰ニ依リ蘭印ノ通商政策モ新情勢ニ對應セザルベカラザルコト、ナリタルガ故ニ今回ノ日本側提案ハ之ニ即應スル様日本ト蘭印トノ通商關係ヲ調整スル要アリト認メテ提出セルモノニシテ之カ具体的方法トシテ

(一) 日本品ニ對スル割當増加

(二) 在蘭印日本商ノ日本品取扱比率ノ増加

(三) 蘭印重要物資ノ對日輸出數量ノ増加ト其ノ確保

(四) 關稅等ニ關スル友好的措置

ノ四項目ヲ要求スル次第ナリト説キ此合理的の希望ニ對スル蘭側ノ協力ヲ期待スト述ブ

(2) 「ファン、ホーフストラーテン」

日本側要求ノ奈邊ニ在ルカ今ノ説明ニ係リ理解シ得ルモ從來ノ日本側遺口ニハ大ナル不満アリ。抑々一九三七年石澤、「ハルト」協定ニ依リ兩國ハ相互間ノ貿易ヲ助長スル爲出來得ル限り相手國ノ物資ヲ輸入スルコトヲ協定シタルヲ以テ蘭側ハ或商品ニ付テハ一九三三年ノ實績以上ニ日本品ノ輸入割當ヲ認メ又日本人商社ニ對シテハ比率ヲ増加セルモノモアリ加フルニ協定外ノ特別割當ヲ與ヘ凡ユル好意ヲ示シ以テ忠實ニ協定ヲ實行セリ

然ルニ日本側ハ(一)蘭印物產中砂糖、珈琲、「コブラ」、「バーム」油、「ココア」、玉蜀黍、「カツサバ、ルート」等買付量ヲ可及的增加スヘシト稱シ(二)日本輸出組合ニ對スル蘭商ノ加入ニ付イテハ日本政府ハ合理的の公平解決方必要ニ應シテ努力スベキ旨確約セラレタルニ拘ハラス事實ハ之ニ反セリ即チ

(I)日本側ハ日支事變ノ爲ト稱シ蘭印物產ヲ購入セス殊ニ蘭印ノ最モ重要視シ居ル砂糖ノ如キハ一九三六年二十萬噸ノ對日輸出アリタルニ一九三七年ニハ皆無ニシテ又珈琲、「カツサバ、ルート」等ノ對日輸出激減セリ加之

(II)日本輸出組合ノ蘭商壓迫ハ事毎ニ顯著ニシテ彼等ノ營業ヲ困難ニ陷ラシメ之カ救濟方ニ付日本政府ニ申出ツルモノ向之ヲ取上ケサル爲メ蘭印トシテハ甚大ナル失望ヲ感ジ居ル實情ナリ

然ルニ今回ノ日本側要求ハ蘭側ノ極メテ意外トスル所ニシテ實ハ蘭側ハ今回ノ會商ニ於テ日本カ砂糖、珈琲其ノ他ノ物產ヲ何程買付ケントスル意向アルヤヲ第一ニ示サルヘキ筋合ナリト存シ居レリ

(3)石澤「ハルト」トノ協定成立當時ハ支那事變ノ勃發ヲ夢想タモセザリシガ日本ハ事變後モ蘭印物產ノ買付ニ凡ユル努力ヲ爲シタリ又砂糖ノ如キハ日支事變後北支方面ヘノ輸出モ出來ス從テ之カ輸入モ事實上不可能トナリタリ

(4)「ホ」

日本側ノ努力ハ多トスルモ實際ノ效果ハ不満足ナルニ付重テ砂糖及珈琲ノ買付並蘭商ノ待遇改善ヲ要望ス

(5)石澤

蘭印ト歐米諸國トノ通商關係カ不圓滑トナリタル今日、蘭兩國間ノ關係ヲ再檢討シテ之ヲ調整シ將來永キニ亘ル兩

國間通商發展ノ爲ノ基礎ヲ築クコトノ急務ナルコトヲ說キ右ニ對スル蘭側所見ヲ質シタリ

(6) 「ホ」

御趣旨ハ同感ナルモ歐洲及極東ノ情勢變轉極マリナキ狀態ナルヲ以テ日、蘭間ニ協定ヲ締結スルトシテモ實行出來ルヤ否ヤ甚ダ疑問ナリ之ニ付テハ日本側ニ於テモ同様ノ意見ナルベシ故ニ協定モ數年ニ亘ルコト、スルコトニハ不贊成ニシテ寧口情勢ニ對應シテ毎月適宜措置スル方實際のナルベシ

(7) 石澤

然ラバ精々一、二ヶ月位ノ協定以上ニ成立セシメ得ストノ意ナリヤ果シテ然リトセバ今次ノ如キ會商ヲ行フノ必要アリヤ

(8) 「ホ」

左様ニ窮屈ニ考フル次第ニ非ス唯長期ニ亘ル固定的協定ハ實行不可能ニシテ不得策ナリトノ蘭側見解ヲ表明セル迄ナリ又對日輸出モ獨逸向ケ再輸出セラル、コトヲ考フルトキハ迂闊ニ輸出ヲ許可シ難シ

(9) 石澤

歐洲戰爭中ハ勿論平和回復ノ後モ生産機構ノ復興困難ナルヘク從ツテ蘭印ハ此際日本品ノ割當ヲ増加シ之ニ伴フ日本商ノ取扱比率モ増大セシメ得ヘシト強調ス

(10) 「ホ」

實ハ歐洲諸國ニ對スル國別割當ハ既ニ協定ニ依リ義務ヲ負フモノニシテ唯戰爭ノ爲大部分自動的二他ニ振替ヘラレタルマデナルガ然シ之ヲ正式ニ對日割當トスルコトハ不可能ナリ、蘭印ハ歐洲戰爭ガ本年中ニ英國ノ勝利ニ依リテ終結スルモノト思考シ居リ戰後ハ蘭本國、英、佛、瑞西等ニ對スル協定ニ基ク義務ヲ履行スル必要アリ又最近蘭印物產資材ノ買付ヲ爲スコト、ナリタル米國ノ好意ヲ保持スル爲米國品ノ輸入ニ對シ直接間接ニ惡影響ヲ及

ボスカ如キ新規ノ協定ヲ締結スルコトハ差控へ度尙蘭印トシテハ眞劍ニ工業振興ニ努力中ナルガ織物ノ外諸種ノ工業ノ有望ナルコトヲ實證セラレタルニ付將來蘭印ガ日本ヨリ買付クルモノハ飛行機、船舶、機械類ノ如キ重工業製品ナリ

從テ織物、雜貨一點張りノ長期協定締結ハ此關係ヨリ見テモ困難ナリ

尙又日本側ハ輸出日本品ト仕向先國內ニ於ケル日本商トノ問題ヲ不可分視シ居ルガ如キモ蘭側ハ之ヲ別個ニ考フルモノニシテ日、蘭兩國商人ノ地位ヲ公平ニ判斷スル爲在蘭印日本人輸出業者ト在日本蘭人輸出業者並ニ在蘭印日本人輸入業者ト在日本蘭印輸入業者トヲ比較スルニ左ノ如キ狀態ナリ

在日本蘭商カ日本品ノ對蘭印輸出量中其數割ヲ取扱フニ反シ在蘭印日本商ハ蘭印物產ノ對日輸出量ノ殆ント全部ヲ扱ヒ居レリ又在日本蘭商ハ蘭印物產ノ日本ニ於ケル輸入皆無ナルニ反シ在蘭印日本商ハ蘭印總輸入量ノ二割五分内外ヲ輸入シ居ル次第ニシテ輸出入共日本側ニ有利ナルガ世界中在留外國商ガ多數ノ商品ニ付其在留國總輸入量ノ二割五分ノ輸入權ヲ確保シ居ルコトハ他ノ何國ニ於テモ之ヲ見ルコトヲ得ス
故ニ比率増加ノ如キハ遺憾ナカラ考慮ノ余地ナシ

(11) 石澤

工業化ハ相當年月ヲ要スベク然モ歐洲品ヲ自動的二日本品ニ振替ヘシメ居ル位ナラバ之ヲ短期間ノ協定ニ於テ確約スルモ差支ナカルヘシ

(12) 「ホ」

貴見ノ次第ハ石澤「ハルト」覺書ノ自由割當其ノ他ニ關スル條項ニ依リ充分「カバー」セラレ居ルニ付今改メテ新規ノ協定締結ヲ必要トセズ尤右覺書ノ實行振ニ付御不滿ガアレバ承知致度

(13) 石澤

日本品割當及邦商取扱比率カ一九三三年度實績以下ニ壓縮セラレタル儘ニナリ居ルコト自体ニ大ナル不滿アリトシ詳細説明セリ

(14) 「ホ」

一九三三年ハ日本ノ圓爲替下落ニ依リ日本品ノ蘭印輸入カ急増セル不自然ナル時ナルニ付之ヲ標準トシテ論ゼラル、コトハ承服シ難シ尙實例ヲ見ルニ一九三三年前ニハ日本商品ノ對蘭印輸出ニ於テ數量ハ増加シ且ツ日本輸入商ノ取扱比率ハ現在ヨリ大ナリシカ何レモ自由競争ノ結果値下リヲ見商人ノ利益現在ヨリモ遙カニ少カリシナリ然ルニ現在ハ寧ロ日本商何レモ大ナル利益ヲ擧ケ居レリ

(15) 石澤

日本ハ昔ト異リ統制經濟實施ノ爲原料仕入レトノ關係モアリ輸出量ノ予定ノ要アリ蘭印トシテモ放任スレバ必要日本品ノ買付不能トナル事態ヲ惹起スベキニ付日本品割當ノ確約ハ兩國ノ利益ナルベシ

(16) 「ホ」

御趣旨ノ點尤モト存スルカ蘭印ハ現下ノ國際情勢ニ於テハ見透シ及予定頗ル困難ナルニ付蘭印ノ見積リ及之ニ對スル日本ノ生産予定等ハ經驗アル當業者ノ予想ニ委ネ度

(17) 石澤

兎角日本側ハ蘭印物產買付ニ付明確ナル數字ヲ提示セル以上蘭側ニ於テモ日本品買付増加及其數量確約方ヲ考慮セラルル様要望スル次第ナリ

(18) 「ホ」

一應考究スヘシ

二一、我方交渉方針

其ノ后我方ノ全般的交渉方針ノ決定及第二次案ノ作成ニ當リテハ松岡大臣訪歐留守中ノ事情モアリ且本省事務當局及軍側ノ意見ハ一般ニ強硬ニシテ、現地代表部ノ意見ト容易ニ一致セサリシ爲意外ニ手間取リタルガ、ソノ間松岡大臣モ歸朝シ、漸ク五月上旬方針モ決定シ第二次案ハ五月十四日我代表部ヨリ蘭印側ニ提出セラレタリ其ノ間ノ經過概要左ノ如シ

即チ、中央ハ入國企業等ニ關スル我方原案ヲ「ブツシユ」シツツ差當リ通商交渉ニ主力ヲ注クヘシトノ方針ナルニ對シ芳澤代表ハ右方針ノ根本動機ヲ承知シ度其ノ他打合ノ用アル爲一時歸朝方希望シ來レルカ、之ニ對シ、四月早々本省ハ、通商交渉ノ驅引上入國企業等ノ原案ヲ固執スルモノニ非スシテ、國際情勢ノ推移（日米交渉ノ先行ヲ樂觀シ居タリ）ト睨合セ時機ヲ見テ代表部ノ作成セル妥協案ヨリモ原案ニ近キ第二次案ヲ提出スルコトシ一方軍側機關ノ引揚ヲ成ルヘク延期スルノ方針ヲ以テ進ミ度旨及松岡大臣不在ヲ理由ニ芳澤代表歸朝延期方ヲ回訓シタリ然ルニ芳澤代表ヨリ折返シ國際情勢ノ轉回ヲ待ツトスルモ果シテ我方ニトリ好轉シ來ルヤ疑問ニ付此ノ際着實ニ取レル丈ケノモノハ取ルコトシ度、軍側機關ノ引揚延期策ノ眞意モ了解シ兼ストテ重テ歸朝方要請シ來レルカ本省ハ本件ハ松岡大臣歸朝ノ上裁斷ヲ俟ツヘキモノナリトシテ極力引留メタリ

松岡大臣ハ歐洲ノ旅ヲ終ヘ四月二十二日着京シタルカ其ノ直后芳澤代表ヨリ蘭側ハ我方要求物資中獨逸ニ再輸出セラレントスル數量ハ蘭側ノ認定ニ依リ拒否セントノ態度ヲ持シ殊ニ護謨、錫ニ關スル限り右ハ決定的ノ主張ニシテ其ノ爲ニハ會商打切モ辭セサル方向ニ向フヘキコト予想ニ難カラストテ本件二品目ハ佛印及泰ヨリ輸入スルコトニ主力ヲ置キ蘭印ヨリノ輸入ハ第二義的トシテ取レル丈ケ取ルコトシ又入國企業交通等ノ問題ハ前回ノ妥協案ニ修正ヲ加ヘ多少強化シタル第二次要求案ヲ提出シ物資問題ト併行シテ交渉ヲ進ムルコトトシ度旨稟請アリ續イテ近キ將來武力解決ヲ圖ラン爲ノ口實トシテ問題ヲ殘サントスルナラハ兎ニ角、武力解決ノ時機見當付カストセハ會商モ相當ノ所ニテ妥結セシメ以テ入國企業等ノ問題ハ勿論、焦眉ノ急ナル重要物資ノ買付ヲ確保スル方可然旨進言來レリ重要物資買付問題ハ一項目ヲ設ケテ后述スヘ

キカ此ノ問題ニ付テハ代表部ヨリ蘭側ノ態度意外ニ強硬ニシテ到底我方ノ満足ナル數量獲得ハ不可能ナル旨累次電報越セ
ル處我方トシテハ國內事情ニ依ル資材確保ノ急務ナルヲ理由トシテ極力數量増大方交渉スル様訓令スル所アリタリ其ノ后
(五月初旬)芳澤代表ヨリ蘭側ハ物資問題ヲ切離シテ會商ヲ纏ムルコトヲ欲セス是非入國企業交通通信モ含メタル日本側要
求ヲ明カニシ一方右ニ對スル蘭側態度モ明カニシ以テ日蘭關係ヲ明朗化シ度トノ態度ヲ堅持シ居ル趣ヲ以テ此ノ際入國等
ニ關スル我方要求ヲ一括提示シ兩者ヲ關連セシメテ出來得ル限り我方要求貫徹ニ努メ度旨建言シ來レリ尙次テ接到セル代
表來電ニ依レバ蘭側代表ハ五月五日我方代表ニ對シ「クレフエンス」外相及「ウエルター」植相(四月十二日蘭印着)カハ
日「バタヴィア」發倫敦ニ歸ル筈ニ付ソレ迄日本側一般要求内容ヲ示シテ兩大臣ノ了解ヲ取付置度日本側ニテ妥結ノ見込
ナシトセラルルナラハ速カニ會商打切ノコトトシ度トノ意向ヲ表明シ來レル趣ナリ

之ニ對シ本省ヨリハ五月六日入國企業等ニ關スル代表部作成第二次案ニ必要ナル修正ヲ加ヘタル案ヲ電報スルト共ニ修正
ノ要旨ハ蘭側ニ漠然タル逃口上ヲ與ヘス取極ヲ有名無實ニ終ラシメサラン爲ニセルモノナル處右カ通商問題ト分離不可能
ナラハ入國企業問題ニ關スル本格的交渉ヲ開始シ好機ヲ捉ヘテ之カ提出可然旨ノ訓令發セラレタリ

次テ芳澤代表ハ第二次案提出ノ時機ニ付國際情勢ノ好轉ヲ俟テ提出スルト云フモ好轉ノ時機カ何時來ルヤ計リ難ク然ルニ
一方蘭側ノ護謨、錫ニ對スル態度ハ何トシテモ決定のニシテ讓歩ノ色更ニ見エス仍テ護謨、錫ニ品目ノ爲ニ會商カ全般の
ニ決裂トナルヤモ知レス其ノ場合ハ第二次案モ出シ遲レトナルノミナラス決裂ノ責任ヲ蘭側ニ歸セシムル上ニモ面白カラ
サルニ付此ノ際提出スル方得策ナリトノ意向ヲ以テ近ク之ヲ提出スヘキ旨報告シ來レリ

二二、我方第二次案提出

斯テ五月十四日芳澤代表ヨリ「モ」代表ニ對シ(石澤「ホ」同席)英文ニ認メタル第二次案(附錄第四號^七參照)ヲ「メモラン
ダム」トシテ手交スルト共ニ右受諾アル場合ハ砂糖等特ニ蘭側希望ノ物產買増ヲ考慮スヘシト告ケタルニ「モ」ハ數日中

ニ蘭側態度ヲ決定シ回答スヘシト答ヘタリ

右我方提出「メモランダム」中ニハ通商貿易ニ關スル要求事項ヲモ記載シ更ニ附屬別表トシテ甲號、乙號(共ニ我方要求ノ對蘭印輸出本邦品ノ割當率ヲ記ス)及丙號 我方要求ノ蘭印物資買付量ヲ記ス)ヲ添附スルコトトナリ居ル處其ノ中丙號ノミハ后記二四、物資買付案提出ノ項ニ述ヘアル通り少シ遅レテ五月二十日提出セラレタリ

右通商貿易ニ關スル事項ニ於テハ我方ハ日蘭印貿易關係ノ相關性ニ顧ミ蘭印政府ヲシテ日本ノ蘭印外國貿易上占ムル地位ノ重要性ヲ認メシメ向後一箇年間(一)對蘭印輸出本邦品ニ對シ別表甲號及乙號ノ割當率ヲ又在蘭印本邦輸入商ニ對シ品物ニ依リ一割乃至三割ノ輸入割當ヲ許與スルコト(二)蘭印物資ノ對日輸出許可ヲ別表丙號ノ通り無條件且迅速ニ許與スルコト(三)關稅、附加稅及公定價格ニ付日本ニ對シ好意的待遇ヲ與フルコトノ諸點ニ關シ適當ノ措置ヲ採ルヘキコトヲ蘭側ヲシテ言明セシメ前記措置ハ前述一箇年ノ期間滿了三箇月前ニ廢棄通告ナキトキハ同様ノ通告アル迄存續セシメンコトヲ要求シタルモノナリ

二三、物資買付問題

三月三十一日石澤總領事五品目(護謄、錫、「コブラ」、「バーム」油、「ヒマシ」買付問題ニ關シ「ホ」ヲ說得セルモ「ホ」ハ蘭側トシテハ日獨關係緊密化ノ傾向ニ鑑ミ對獨再輸出阻止ノ爲對日供給量ヲ制限セサルヘカラス此ノ點ハ近ク來印ノ植相及外相ニ對シ申入レラルルモ蘭側態度ニ妥協ノ余地ナシト應酬セリ尙本件ニ關シ四月十七日蘭側ヨリ和蘭政府ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ通告シ來レル所ニ依レハ蘭側ハ其ノ物資ノ對日輸出ニ依リ第三國物資ノ對獨供給ヲ直接間接ニ助クルカ如キコトヲ防止スル要アリ此ノ爲對日輸出货量ハ戰前ノ數字ニ限定スル外ナク右割當量ハ對敵取引防止ノ見地ヨリ更ニ減少スルコトアルヘク右以外ノ軍需物資ニ付テモ割當制ヲ採ル權利ヲ留保スルモノナル處右ハ和蘭獨自ノ戰時措置ニシテ英米ノ對日經濟封鎖ニ參加ノ意味ナシト

右ニ關シ石澤總領事カ「ホ」ニ確メタル所ニ依レハ右蘭側態度決定ニ植相及外相ノ與リタルヤ否ヤハ先方ノ言明ナク我方ノ要求物資ハ第三國再輸出ノ爲ナラサルコトヲ我方カ保障スル場合ニモ蘭側ハ佛印、泰等ノ物資ノ對日輸出可能ナリトテ蘭印物資ニ付テノミ^(ルカ)ノ保證テハ満足セサリシ趣ナリ仍テ四月十九日芳澤代表カ「モ」ニ對シ本件我方保障ヲモ無視セントスル先方態度ヲ詰リタリニ「モ」ハ一九三七年ノ石澤「ハルト」協定實施振ニ付日本側ニ遺憾ノ態度アリ日本側ハ右ヲ以テ支那事變ノ爲已ムヲ得サル結果ナリト説明セラレタルニ依リ我慢シ居タルカ今次戰爭ニ對スル蘭側立場ハ支那事變ニ對スル日本ノソレト比較ニナラス和蘭トシテハ利敵行爲ハ絕對ニ許容シ難シト述ヘ芳澤代表ノ蘭側ハ五品目ノ各幾何噸カ獨逸ヘ再輸出セラルルヤ斷言出來サルヘク果シテ然ラハ幾分讓歩シテ我方要求量ニ歩ミ寄ルコト不可能ナラサルヘシトノ主張ニ對シ「モ」ハ日本カ佛印、泰品ヲ獨逸ヘ再輸出セラルル場合ハ同シ結果トナルヘシト言ヒタルヲ以テ芳澤代表ヨリ證據アリヤト反問セルニ戰爭中ハ如何ナル代價ヲ拂フトモ軍需品買取ニ狂奔スルハ當然ニテ商人ノ手ヲ經テ如何様ニモ買取リ得ヘシト答ヘ讓歩ノ色微塵モ見エサリシ由其ノ後「ホ」カ石澤總領事ニ內示セル所ニ依リ蘭側ノ態度ハ愈明瞭トナリタリ即チ蘭側ハ錫三千噸護謨一萬九千八百噸輸出ノ用意アルモ「タイ」、佛印ヨリ日本カ本品ヲ買付ケル場合ハ更ニ減量スヘク右兩國ヨリ日本ヘノ輸出ノ有無及數量ハ蘭側カ認定シ其ノ他ノ物品ニ付テハ軍需品トシテ現在及將來獨ヘ再輸出セラルル惧アルモノハ日本側要求量ヲ相當減額ノ要アルモ然ラサルモノハ成ルヘク日本側要求ヲ尊重スヘシトノ態度ナリ

五月ニ入り我中央ハ國防資材確保ノ見地ヨリ改メテ護謨三萬噸、錫八千噸ヲ主張シ度モ已ムヲ得サレハ前者二萬五千噸後者五千噸、「コブラ」三萬噸、「パーム」油二萬噸其ノ他石油ハ既契約量百八十萬噸ノ外更ニ二百萬噸ヲ要求スルコトナシタルカ芳澤代表ヨリ我方全般的要求ヲ一括提示シヤレハ蘭側提示ノ數量ヲ幾分増加セシメ得ヘシト察スルモ前記重要物資ノミヲ斯ク大量ニ要求シテモ徒ニ論議ヲ蒸返スコトナリ蘭側カ之ニ應セサルハ判リ切ツタコトナリトテ引受ケ困難ノ旨上申シ來レリ然ラハ我方ハ客年蘭側カ約束セル護謨二萬及錫三千噸丈ケハ是非獲得ノ確約ヲ得ル要アリ又蘭側ノ主張スル「右二品カ泰、佛印ヨリ對日輸出セラルル場合其ノ數量(幾何ナルヤハ蘭側確定ニ依ル)ヲ考慮シテ蘭印品ノ對日輸出货量

ヲ減少スヘシ」トノ條件ハ絶對ニ許容シ得ストノ「ライン」ニテ交渉方再ヒ訓令シタル處右訓令ハ五月七日執行セラレタルモ蘭側ハドコ迄モ蘭側ノ意思ヲ以テ輸出量ヲ決定スヘシトノ條件ヲ固執シテ譲ラサリシ趣ナリ

二四、物資買付案提出

蘭印產物資ニ對スル我方要求量ハ從來我方ノ説明ニ依リ蘭側ニ於テ既ニ承知ノ筈ナルカ先方ノ希望ニ依リ五月二十日之ヲ一括「リスト」ニ作成シ蘭側ニ提出セリ(附錄第五號參照^{八七})

二五、蘭側要人ノ談話

(一)官房長官「イデンブルグ」(四月上旬石澤總領事ニ對スル談話)

(イ)戰爭ハ英ノ勝利ニ終ルコト疑ナク蘭人ハ死ヲ賭シテモ獨立ヲ期ス

(ロ)英ヲ信賴スルモ英トテモ蘭ヲ裏切ラハ獨ニ對スルト同様戰フヘシ

(ハ)對日關係ハ本質的ニ困難ナル點ナキモ戰爭力障害トナリ居レリ

(ニ)日本ノ要求スル物資力直接獨逸ヘ行クコト及第三國品ノ獨逸行ヲ幫助スル結果トナルコトハ許容出來ス

(ホ)日本カ獨ト同盟セルハ返ス返スモ殘念松岡外相ノ獨逸行ニ依リ表明セラレタル對獨積極援助態度ハ日蘭關係ノ明朗化

ヲ一層困難ナラシメタリ

(二)外相「クレフエンス」(四月十八日芳澤代表トノ談話、「ウエルター」植相同席)

「ク」ヨリ日蘭間國交ノ改善ハ年來ノ希望ニシテ今次會商ノ圓滿妥結モ衷心ヨリ欲スル所ナリト口ヲ切りタルヲ切掛ニ芳澤代表ヨリ(予メ訓令アリ)訪日ヲ慫慂セルニ女王陛下モ待タレ居リ長キ旅行ハ不可能ノ事情アリトテ之ヲ辭セリ次テ芳澤代表ヨリ交渉ノ妥結方折角努力中ナルモ困難ニブツカリ苦慮シ居ル處兩大臣ノ助力ニ依リ難問解決セバ幸ナリト述ヘ

タルニ對シ「ク」大臣ハ勿論出來ル丈ケノコトハスヘシ客年三月頃石射公使ヨリ會商ニ付申出アリタルカ當時ト今日トハ國際情勢全ク一變シ和蘭トシテハ何トカシテ打開セサルヘカラサル立場ニアリト述懐セリ

二六、東京ニ於ケル工作

(一)大橋次官「バブスト」公使會談

五月二十二日大橋次官ハ「パ」公使ヲ招致シ妥協的ナル我方ノ態度ニモ拘ラス最近蘭側ノ出方カ硬化シ曾テ了解濟ミノ十三品目ニ付テモ異論ヲ唱ヘ護謨、錫等ニ付テハ佛印、馬來ノ分ト關連セシメントシ居レルカ事態如斯ナル以上我方トシテハ芳澤代表ノ召喚ヲ考慮シ更ニ或ハ眞ニ余儀ナク適切ナル措置ヲ採ラサルヲ得サルニ至ルヤモ知レスト述ヘタル處「パ」ハ蘭側態度ハ日本側ノ對獨再輸出ニ依ルモノナリト云ヒタルニ付次官ハ是等品物ハ最近膨脹セル我國軍需工業ノ爲必要ニシテ蘭側カ此ノ事實ヲ無視シテ戰前ノ數量ヲ超過スル分ハ總テ獨逸ヘ行クカ如ク速斷スル理不盡ナル態度ニ出ツル以上我方ハ從來ノ態度ヲ考直ササルヘカラスト答フ之ニ對シ「パ」公使ハ日本ノ需給狀況ヲ明示サルレハ難局打開ニ資スル所大ナルヘシト申出タルニ付次官ハ右ハ大臣ニ取次クヘキモ現地ニ於ケル經驗ニモ徴シ右ヲ以テ疑深キ蘭印當局ヲ納得セシムルコト能ハサルヘシト突撥ネタル處「パ」ハ再考慮ヲ要請シテ引取りタリ

(二)松岡大臣「クレーギー」大使會談

同日午后松岡大臣ハ「ク」英國大使ヲ招致シ日蘭印交渉ニ關シ我方ノ讓歩ニ依リ双方主張ハ接近シタルモ護謨、錫ニ關シテハ更ニ好轉セス即チ我方ハ右二品目ニ付テモ客年蘭印側カ如何ナル事態ニ於テモ供給スヘシト確約セル護謨一萬噸、錫三千噸ノ額迄讓歩セルニ拘ラス蘭側ハ佛印及泰品ノ對日輸出货量ヲ考慮シテ對日供給量ヲ決定スヘシト主張シ居ル處我方ノ需要増加ノ事實ヲ忘ルヘカラスト以上ノ要旨ヲ英文ニシタル書面ヲ手交シタル上更ニ護謨ノ對獨再輸出問題ニ關シテハ蘭印側カ予想スル佛印、泰等ヨリノ輸入高ヲ前記二萬噸ニ加フルモ日本ノ需要ニ滿タス世界何レノ國カ自分ノ肉

ヲ切取り他國ニ與フル國アリヤト極言シ次ニ對獨再輸出セサル旨ノ保障問題ニ關シ右ヲ要求スルカ如キハ弱小蘭印ノ大國日本ニ對スル「ヒュミリエーション」ニシテ斷シテ保障ヲ與ヘサルヘキ旨言明シ最后ニ萬一交渉決裂シ芳澤代表引揚トモナラハ内外共ニ憂慮スヘキ事態起キ排蘭延テハ排英米熱カ煽ラレ大臣ニ於テモ之ヲ阻止シ得サルニ至ルヤモ知ラス付テハ蘭側ヲ反省セシムル様貴國ノ壓力ヲ加ヘラレ度旨申入タルニ對シ「ク」ハ之ヲ了承シ本國政府ニ電報ノ上貴意ニ副フ様努力スヘシト約セリ

次テ六月七日「ク」大使松岡大臣ヲ來訪英國政府ヨリ蘭政府ニ對シ貴意ノ通り申入レタルモ蘭側ハ本件交渉ハ和蘭ノ見地ヨリ爲シ居ルモノナリトノ建前ヲ採リツツアル爲英側斡旋ノ無効ナリシ旨ヲ傳ヘ序ニ「ク」限りノ意見ナリトテ(イ)蘭人ハ「インデペンデント」ノ心理強キヲ以テ日本新聞カ壓力ヲ加ヘテモ只逆效果アルノミナリ(ロ)蘭側ノ危惧スルハ對獨再輸出問題ナル處現ニ印度支那ノ護謨ハ日本船ニテ日本中繼獨逸へ行キツツアリトノ點ニ觸レタルヲ以テ大臣ハ言論界ニ斯ノ如キ傾向アリトスルモ夫レヲ以テ代表部ヲ誣ヒ得サルヘク言論界ニ對シ本大臣カ注意ヲ拂ヒ最善ヲ盡シ居ルコトハ御承知ノ通りニシテ過般モ新聞カ會商ノ危機ヲ報セルヲ以テ直チニ將來ヲ戒メタリト述ヘ更ニ若シ内容カ知レレハ言論界カ政府攻撃ノ舉ニ出ツヘキコト必定ナル程度ノ讓歩ヲ爲シ會商妥結ニ努力シ居ルニモ拘ラス決裂トナラハ内外共收拾シ得サル紛糾ヲ來スヘシトノ旨ヲ告ケタリ

(三)大橋次官「クレーギー」大使會談

六月十三日「ク」英大使大橋次官ヲ來訪戰爭カ英側ノ勝利ニ終ルヘキヲ宣傳シタル上蘭印問題ニ關シ日本カ蘭印ニ實力ヲ行使セハ英國モ捲込マルコトナカルヘキカトテ蘭側回答ニ對スル處置振リヲ問ヒタルニ付次官ヨリ代表引揚ニ決定セリト答ヘ更ニ其ノ后ハ和蘭公使トデモ交渉ヲ續ケラルルヤトノ質問ニ對シ次官ハ其ノ考ナク成行ニ委ス外ナシト述ヘタル上我方熱意ト心盡シヲ蘭側カ無視シ事茲ニ至レル次第及輿論ノ動向ニ鑑ミ今后隱レタル政治的勢力如何ニ動キ出スカ心配ナル旨ヲ語レル處「ク」ハ之レヲ首肯シタル后蘭側ハ護謨錫等カ獨逸へ行カサル以上賣盡ル理ナシト考フルモ獨

逸へ遣ラストノ保障ヲ與へラレタル次第ナリヤト問ヒタルニ付次官ハ獨逸ニ行カサルコトハ我方カ^(續々)繼返シタル所ナリト答ヘタリ

二七、同盟通信ニ關スル蘭側抗議

五月二十九日石井部長ハ次官ト打合ノ上新聞記者ニ對シ交渉ハ目下繼續中ナルモ最近蘭側ハ曩ニ確約セル物資ノ供給サヘ拒ム態度ヲ示シ其ノ他ノ問題ニ付テモ誠意ノ疑ハルモノアリ會商ハ重大ナル難關ニ逢着セリトノ旨語リタルニ之カ誇張サレテ報道セラレタル爲蘭側ヲ刺戟シ「ホ」ハ石澤總領事ニ對シ蘭印朝野ハ石井部長ノ談及日本新聞ノ對蘭印論調ニ不快ヲ感シ居リ何レ「パ」公使ヲ通シ措置ヲ採ラシムヘシト述ヘタル趣ナリ

果セル哉在京「パ」公使ハ六月五日附公文ヲ以テ石井部長談話ニ關スル同盟通信文ヲ引用シタル上文中石井部長カ蘭側カ約束ヲ破リテ或種物資ノ對日供給ヲ拒絕セル不信ヲ詰リタリトアルハ明カニ同部長カ蘭印政府ヲ非難セルモノニシテ、訓令ニ依リ右理由ナキ非難ニ對シ抗議スルモノナル旨申出タリ

之ニ對シ六月十四日「パ」公使ヲ招致シ齋藤局長ヨリ石井部長ハ事實ヲ云ヒタル迄ナルヲ以テ之ニ對シ抗議ヲ受クヘキ筋合ニ非スト述ヘタル處「パ」公使ハ元來斯様ノ事ハ政府間ノ話合ニテ處理スヘキモノニシテ新聞等ニ發表セラルルハ蘭側ノ迷惑トスル所ナリト云ヒタリ

二八、彼我新聞論爭

我方第二次案提出後蘭側回答予想外ニ遲延シ且其ノ回答ノ到底我方要求ヲ満足セシムルニ足ラサルモノナルコト予想セラレタルヲ以テ本邦各紙ハ蘭側ノ不信ヲ論難スル態度ニ出テタルカ之ニ對シ蘭印新聞ハ當初反駁ヲ試ミタルモ其ノ后之ヲ默殺スルノ態度ヲ示シ只六月四日爪哇「ボーデ」ノミカ政府ノ意向ヲ汲ミタル如ク大体蘭側回答ハ一兩日中ニ提出セラルヘ

キカ蘭印物資ノ獨逸行ヲ拒絕セントノ蘭側態度ハ正當ニシテ右態度カ變更サルヘシト思ハレス會商ハ今ヤ最后ノ段階ニ達シ今週中ニハ終了スヘシ蘭側ヲ脅迫セントシテ行ハレタル「プレスキャンペーン」ハ無效ニ終リタリトノ論說ヲ掲ケタリ

二九、蘭側回答提出

我方第二次提案ニ對スル蘭側回答ハ評議會ノ審議ニモ懸ケラレタル上六月三、四日總督「モ」間ニ最后ノ檢討行ハレタル模様ニテ五日「ホ」ヨリ回答ノ用意出來タル旨通知アリ六日午前双方代表會見ノ打合せ成リ同日芳澤代表「モ」ト會見（石澤及「ホ」同席）其ノ際「モ」ハ回答手交ニ先立チ申上度コトアリトテ本邦新聞ノ論調ヲ遺憾トシ「クレীগー」大使ニ對シ護謄、錫買付ノ斡旋方申出ラレタルモ蘭側ハ之ハ蘭印獨自ノ問題ニシテ第三國ノ容喙ヲ許サス今回ノ回答モ獨立自主ノ方針ヨリ作成セルモノニシテ日本政治家ノ親獨的言動ニ不拘蘭側ノ誠意ヲ充分表現シ居レリトナシタル上會商ノ成否如何ヲ問ハス貴代表ノ忍耐ト友好的態度ヲ「アプレシエート」スル旨述ヘタルニ付芳澤代表ハ新聞カ書立テルハ國民ノ會商ニ關心ヲ有スル事實ヲ反映スルモノナルカ全文ヲ見レハ同盟電トハ異ナル印象ヲ受クヘク又多數國民ノ意向ヲ新聞カ代表シタル譯ニモ非ストノ趣旨ニテ應酬セリ

次テ我方代表ハ蘭側回答（附錄第七號參照）^{（十カ）}ヲ受取り一讀ノ上石油利權及護謄、「ボーキサイト」、「キニーネ」、石油等ノ買付數量ニ付質問シ之ニ對シ先方ノ應答アリタルカ最后ニ芳澤代表ヨリ決定的意見ニハ非サルモノ應ノ印象ニヨレハ蘭側回答ハ不満足ナルカ兎ニ角政府ニ報告スヘシト云ヘルニ「モ」ハ何分ノ回答ヲ得度旨申述ヘタリ

尙六月十日前記ノ四代表再ヒ會合我方ヨリ先方回答中ノ疑義ヲ質セルニ對シ蘭側ヨリ左記要旨ノ答弁アリタルカ右ニ依レハ文面ヨリ多少ユトリノアル點モアル模様ナリ

（一）入國關係

（イ）移民數カ限度（一九四一年ハ一萬）ニ達セサル限り理論的ニハ日本人ニ對シ「フル、クオート」（即チ千六百名）ヲ認メ

得ル次第ナリ許可數ヲ二百五十名ニ限定セントスルモノニ非ス要ハ法規上ノ手續ト調査完了ノ上蘭側ノ判斷ニ依リ決定セントス

(ロ)齒科醫ヲ除外セル理由ハ現在相當數ノ日本齒科醫開業シ居ル處表向ニ云ヘハ違法ナリ仍テ蘭側ハ總括的協定成立ノ曉

ニハ一定數ヲ限り正式ニ認可セントスル意向ノ爲ナリ

(二)企業及營業關係

(イ)水産業ニ付將來協議スルコトノ可能性ハ特別ノ場合ニ付テハ戦后考慮ノ用意アルモ根本方針トシテハ和蘭臣民ノ爲留保シヤルノ考ナリ

(ロ)小規模ノ營業ニ付テハ日本人其ノ他外國人ニ全然許可セスト云フ譯ニ非スシテ土人ヲ教育向上セシメ大部分ヲ彼等ニ經營セシメントス

(三)交通通信關係

(イ)直接航空連絡ニ關シ將來協議ノ用意アリヤニ關シテハ戦后一應考ヘ見ルヘキモ國防トモ關係アル難問ニ付約束シ難シ

(ロ)海底電線ニ付テハ蘭側ハ興味ナク夫レヨリモ無電ノ改善ヲ計リ度シ

(四)物資關係

(イ)護謨ノ供給量二萬噸ト内示セルモノヲ一萬五千トシタルハ心外ナリト云ハルモ現ニ本年三月中一萬噸カ西貢ヨリ神戸經由獨逸ヘ向ケラレ其ノ后佛印、泰ヨリノ日本向増大シツツアリ仍テ數量限定、附帶條件モ已ムヲ得ス

(ロ)「ボーキサイト」、「コプラ」、「タンニン」材料減額ニ付テハ一年分ヲ月割ニシタル爲セル端數ヲ切り捨テタル迄ニシテ「ボ」ハ年二五萬「コ」ハ二萬噸トスルコトニ異議ナシ只「タ」ハ過去ノ最高數字ヲ採ツタモノニ付變更出來スハ糖蜜、「サイザル」、「ヒッチコークス」ハ有耶無耶ニスル心ニ非ス數字ヲ檢討ノ上近ク回答スヘシ

(二)一九四一年曆年ヲ基礎トセル理由ハ戦時一箇年ノ約束ハ困難ナルニアリ半年后事態改善セハ更ニ半年以上ノ約束可能

ナルヘシ

(ホ)護謄、錫以外ノ物資ニ付テモ對獨供給阻止ノ條件ヲ附シ居ル處右ハ萬一ノ場合供給減ノ自由ヲ留保セルモノニシテ差當リ右條件適用ノ意ナシ

(五)「サンクリラン」鑛區二萬八千「ヘクター」ハ二萬九千「ヘクター」ノ誤ナリヤハ鑛山局長ニ照會ノ上回答スヘク千「ヘクター」ノ増減ハ問題ニ非ス

三〇、會商打切

蘭側回答ヲ受取リタル翌日(七日)芳澤代表ヨリ其ノ立場ノ困難ヲ訴ヘ、双方ノ主張ハ全ク相容レサルモノアリ會商ハ危機ニ瀕セルガ若シ決裂セシムルニ於テハ本邦言論界ハ聲ヲ大ニシテ蘭側ノ非ヲ鳴ラスヘク然ラハトテ蘭側カ凹ム筈ナク却テ本邦側權益ヲ無視シ壓迫シ來ルコトモ予想サレ決裂后ノ事態重大化ヲ覺悟セサルヘカラス然シ乍ラ今更代表部滞在遷延策ニ出テ先方ヨリ正式ニ引揚ヲ要求サルルガ如キコトトナラバ帝國ノ面目上耐エ得ストテ其ノ採ルヘキ態度ニ付請訓シ來レリ

右ニ對シ政府ハ蘭側回答力不當ニシテ應諾出來サルノミナラス右ヲ基礎トシテ交渉ヲ繼續スルモ無意味トナシ會商打切及代表部全員引揚方回訓スルト共(一)手續上慎重ヲ期スル爲總督ニ會見シ大局の見地ヨリ先方ノ猛省ヲ促シ先方カ再考ノ余地ナシト言明シタル場合會商打切及代表引揚ヲ通告スルコト(二)日蘭印一般關係ハ從來通り保持セラルヘキモノナル點ヲ明確ニスルコト(三)日蘭印關係ノ決裂シタルカ如キ形ヲ避クルト共ニ日蘭通常關係持續ノ見地ヨリ今后石澤總領事ヲシテ會商關係ノ事項モ交渉ニ當ラシムル用意アルコトヲ仄カスコト(四)東京ニ於テモ會商決裂セルカ如キ印象ヲ與ヘテ輿論ヲ刺戟セサル用意ノ下ニ情報局發表及石井部長談ヲ蘭側ニ會商打切通告后公表スル予定ニ付引揚ノ際ノ發表ハ之ニ步調ヲ合スヘキコト(五)石油關係者ノミハ關係官廳ノ要望モアリ、今后ノ交渉ノ爲居殘ラシメタキコトノ五點ニ配意アリタキ旨併セテ申送

レリ

六月十七日芳澤代表ハ右訓令ヲ執行シ總督ニ對シ「モ」「ホ」石澤同席、蘭側ノ讓歩方再考ヲ促シ若シ再考ノ余地ナシトノコトナラハ會商ヲ打切り代表部引揚ヲ通告スルモノナル旨ノ書物ヲ讀上タリ右ニ對シ總督ハ再考ノ余地ナシトテ蘭側回答ハ調印ヲ得ルモノト期待シ作成セルモノナルカ日本側ノ同意ヲ得サリシハ遺憾ナリ然シ會商ニ依リ蘭側見解カ日本側ニ明カトナレルハ有益ナリシト答ヘ次テ芳澤代表ハ日蘭印間ノ通常ノ經濟關係持續ノ望マシキ點ニ言及シ會商ノ問題トナレル事項ニ付テモ今後石澤總領事ヲシテ交渉ニ當ラシムル用意アル旨述ヘタル處總督ハ之ニ同意ナル旨答ヘタルヲ以テ芳澤代表ヨリ共同「コンミュニケ」發表方示唆シ先方ノ贊意ヲ得タリ「コンミュニケ」(附錄第八號^{十一カ}參照)ノ要旨左ノ如シ

「日蘭各代表部ハ今次經濟會商カ不幸ニシテ満足ナル結果ニ到達セサリシコトヲ遺憾トス然シ乍ラ今次會商打切カ日蘭印正常關係ニ變更ヲ加フルモノニ非ルコトハ言フ迄モナシ」

(終)

附錄 第一號

對蘭印交渉方針案

一、帝國ノ根本目標ハ、支那事變ノ急速處理及日滿支ヲ中心トシ、之ニ南洋ヲ加ヘタル東亞共榮圈ノ確立ニ存スル處、最近米國ハ我國ニ對シ重要物資ノ禁輸ヲ斷行シ以テ帝國力前記目的ヲ達成セムトスルヲ妨害セムトスルニ到レリ依テ帝國トシテハ之ニ對處スル爲南洋就中蘭印ニ必要資源ヲ求ムルノ他ナキ緊急ノ事態ニ直面スルニ至レリ而シテ之カ爲ニハ、帝國ト蘭印トノ經濟關係ヲ緊密ナラシムルノミナラス、蘭印ニ對スル我カ政治的優越地位ヲ確立スルコト肝要ナルヲ以テ帝國政府ハ蘭印ニ對シ

(1) 蘭印ハ歐洲トノ連繫ヲ絶チ速ニ東亞共榮圈ノ一員トシテノ立場ヲ執ルコト

(2)「インドネシア」人ニ完全ナル自治ヲ認ムルコト

(3)蘭印ヲ含ム東亞共榮圈ノ平和ヲ確保スル爲蘭印ハ其ノ防衛ニ必要ナル具體的協定ヲ帝國ト締結スルコト

(4)帝國臣民ニ對シ、蘭印ヘノ入國、蘭印ニ於ケル居住、旅行、身体財産ノ保護、動産、不動産ノ取得、商業及企業(航空ヲ含ム)ノ經營其ノ他通商、航海ニ關スル一切ノ事項ニ付和蘭臣民ト同一ノ待遇ヲ與フルコト

(5)蘭印政府ハ蘭印產品中特ニ帝國ノ必要トスル物資ノ輸出ノ禁止又ハ制限ヲナササルノミナラス、其ノ對本邦輸出ニ關シ斡旋シ便宜ヲ供與スルコト

ヲ要求スルコトト致シ度キモ國際情勢ノ現段階ニ於テハ此ノ種要求ハ蘭印ノ主權及生存權ニモ影響スル處ナルヲ以テ其儘英、米ニ内報サルルコト明ニシテ結局蘭印ヲ馳テ英、米樞軸ニ追込ミ其ノ連合ノ下ニ我カ要求ヲ拒否スルノ事態ヲ招來スル惧アリ右ニ對シ帝國カ壓力ヲ背景トシテ之ヲ押切り得ヘキ第二段ノ措置ニ出テ得サルカ如キコトアラハ、却テ我威信ヲ失墜スルコトトナルヘシ

依テ來ルヘキ日蘭印交渉ニ際シテハ前記ノ事情ヲ篤ト考慮シ別紙對蘭印要求案ノ趣旨ニヨリ交渉ヲ進ムルコトト致度
二、然ル處別紙案ノ如キ要求ト雖モ蘭側ニ於テハ國內の事情及第三國トノ關係上容易ニ之ヲ受諾セサルヘキハ從來ノ經驗ニヨリ明ニシテ交渉ハ相當迂曲折アルモノト予想セラル從テ其ノ前途ハ樂觀ヲ許ササルヘク我カ使節ニ於テモ現地ニ於テ情勢ノ推移ト睨ミ合セ相當程度ニ自由ノ裁量ニ依リ臨機應變ノ交渉ヲ必要トスル次第ナルニ付小林特派使節ニ對シテハ相當廣汎ナル交渉權限ヲ與ヘ別紙要求ノ趣旨ニ基キ出來得ル限り我方要求貫徹ノ爲努力方訓令スル方針ナリ

附錄 第二號

對蘭印要求案

甲、申入要綱

一、曩ニ帝國政府ヨリ和蘭政府ニ對シ、日蘭印間ノ重要懸案ノ解決方ニ關シ我方要求ヲ申入タルニ對シ、本年六月六日附在京和蘭公使ヨリ有田外務大臣宛公文ヲ以テ爲サレタル回答中、我方ノ必要トスル重要物資ノ供給確保方ニ關スル分ハ大体我方要求ヲ容認セルモノナル處將來右保障ノ遵守ヲ要求ス

然ルニ我方ノ最モ重要視スル日本人ノ蘭印入國、蘭印ニ於ケル豐富ナル資源ノ開發及利用ノ爲ノ日本人ノ企業竝ニ投資ニ關スル問題ニ付テハ、和蘭政府ハ依然我方ノ眞意ヲ充分諒解セス、殊ニ此等問題ノ解決カ我方多年ノ舉國の要望ナルコトハ、從來ノ交渉ニヨリ既ニ充分承知シ居ルニモ拘ラス、蘭側ハ之ヲ大局的且實際の見地ヨリ好意的ニ考慮スルコトナク、今尙局所的立場ヨリ法理的論議ヲ繰返シ居ルハ帝國政府ノ大イニ失望ト不滿ヲ禁シ得サル所ナリ

仍テ帝國政府トシテハ右入國、企業竝ニ投資ニ關スル問題ニ關シ卒直ニ我方ノ見解ヲ披瀝シ和蘭政府ノ深甚ナル考慮ヲ求メムトスル次第ナリ

二、抑モ現代ニ於ケル世界ノ不安竝ニ諸國間ノ軋轢ハ、主トシテ不合理ナル領土的關係ニ基ク資源ノ不正ナル配分ニ基因スルコト論議ノ余地ナキ所ナリ

即チ世界ノ現狀ハ、一部ニハ豐富ナル資源ヲ擁スル廣大ナル未開ノ地方アルト共ニ、他方ニ於テハ潑刺タル生活力ヲ有シツツ資源ノ缺乏ト過剩人口ニ悩ム國尠カラス。斯ル現狀ハ寔ニ不合理ニシテ、之ヲ合理化シ正當化スルニ非レハ國際間ノ平和ハ到底之ヲ庶幾スルニ由ナキモノナリ

從テ斯ル事態ノ發生ヲ防止セムカ爲ニハ資源豐富ニシテ廣大ナル未開發ノ領土ヲ有スル國々ガ卒先シテ其ノ資源ヲ世界ニ開放シ、入國ヲ自由トシ、企業其他一般經濟的活動ニ課シタル制限ヲ撤廢スルコト緊要ナリ

三、和蘭政府ガ蘭領印度ニ關シ、過去ニ於テ執リ來レル政策ハ比較的自由且平等ニ各國民ノ經濟活動ヲ許容シ、或ル程度ニ於テ東亞ノ平和及繁榮ニ寄與シタルコトハ帝國モ之ヲ認ムルニ吝ナラサル次第ナリ

然ルニ近年和蘭力蘭印ニ對シ執リ來レル政策ハ遺憾ナカラ門戸閉鎖のナリ。抑モ蘭印ハ和蘭ノ統治下ニ在リトハ雖モ、

地理的ニハ東亞民族ノ共榮圈內ニ存ス、從テ和蘭ハ蘭印ノ豐富ナル資源ヲ先ツ東亞民族、進ンテハ世界人類ノ繁榮ト福祉トノ爲ニ開放スヘキナリ

然ルニモ拘ハラス和蘭ハ從來余リニモ和蘭人及歐州ノ利益ノミヲ偏重シ、蘭印ニ於ケル重要企業就中鑛業ニ於テハ、蘭印ト地理的ニ遠隔ナル一、二ノ國家ニ對シ夙ニ廣汎ナル權益ヲ與ヘナカラ、東亞共榮圈ノ繁榮福祉ハ之ヲ顧念スルコトナク殊ニ開發能力ト發展力大ナル日本ニ對シ門戸閉鎖主義ヲ執リ來レルハ洵ニ不合理ナルノミナラス東亞共榮圈ノ一員トシテノ義務ヲ怠ルモノナリ

帝國政府ハ右不合理ヲ指摘シ屢々其ノ反省ヲ促シ來レルモ遂ニ其ノ結果ヲ得ルニ至ラスシテ今日ニ及ヒ爲ニ日本朝野ノ間ニ大ナル不滿ノ念涌起スルニ至レルハ帝國ノ甚タ遺憾トスル所ナリ

四、帝國政府ハ前記諸觀點ニ立脚シ且蘭領印度ノ國內事情及蘭領印度第三國間ノ關係ヲモ考慮シ差當リ茲ニ帝國政府ノ眞摯且卒直ナル要求ヲ提示スルニ付貴方ニ於テモ日蘭間ノ傳統的親善關係ニ基キ大局の見地ヨリ帝國政府ノ要求ニ對シ速ニ同意セラレムコトヲ要請スル次第ナリ

乙、原則的要求

一、入國問題

帝國政府ノ要望スル蘭領印度ニ對スル經濟的發展ヲ期スル上ニ重大ナル障礙ヲナシ、日本朝野ノ最モ大ナル不滿トスル所ノモノハ蘭領印度ニ於ケル外國人ノ入國制限ナルニ鑑ミ帝國政府ハ入國ノ自由ヲ要求セムトス。尤モ本問題ハ蘭印政府ニ於テ最モ難色アルモノナルヲ以テ已ムヲ得サル場合ハ之カ緩和方ニ關シ最小限度左ノ通り要求ス

現行蘭領印度入國令ニ定メラルル日本人ノ蘭印入國割當數ハ普通割當八百名及追加割當(一年間ニ外國人入國者ノ合計カ一萬人ニ達セサル場合ハ一九二四年乃至一九三三年ニ於ケル日本人入國總數ノ一割迄入國ヲ許可セラルルモノ)八百三十三名、合計一千六百三十三名ナルヲ以テ右限度迄ノ日本人ノ入國ハ、帝國政府ニ於テ其ノ必要ヲ認メ發給セル旅券

ヲ所有スル者ニ限り、外國人勤勞條令ニ定メラルルカ如キ煩瑣ナル手續ヲ踏ムコトナク自由ニ之ヲ許可スルコト但シ

(イ)左記ニ(1)ノ新規企業ノ爲ノ準備調査並ニ事業經營ノ爲ニ必要ナル人員ハ右入國割當中ニ包含セシメサルコト

(ロ)蘭領印度滞在カ一年以内ナル一時旅行者ハ右入國割當數ニ包含セシメサルコト

(ハ)入國稅ノ徵收ヲ撤廢スルコト

二、企業及投資問題

(1)新規企業

近來蘭領印度政府ハ各種法規ノ發布又ハ改正或ハ法規以外ノ政府ノ方針ニヨリ我方ノ最モ重要視スル石油其他主要礦物ノ有望ナル鑛區ハ殆ント全部之ヲ政府ノ爲ニ保留シ、以テ日本人カ此ノ種鑛業權ヲ獲得スルノ余地ナカラシムルニ至レルノミナラス既存鑛業權ノ讓渡モ之ヲ認メサルニ至レリ

然ルニ英國、米國等ハ此等新法規ノ發布又ハ政府ノ方針決定前既ニ石油其他主要鑛物ノ有望ナル鑛區ヲ獲得シ之カ採鑛ヲ大規模ニ行ヒ居レリ。仍テ帝國政府ハ此ノ際蘭領印度政府ニ對シ、今後ハ現行法規又ハ政府ノ方針ノ如何ニ拘ラス機會均等ノ見地ヨリ石油及各種鑛物ノ探鑛並ニ採鑛ニ關スル日本人ノ申請ニ對シテハ之ヲ許可スルト共ニ、鑛業以外ノ各種企業ノ新設ニ關スル申請モ同様之ヲ許可シ且既存利權ノ日本人ニ對スル讓渡モ必ス之ヲ許可スルコト

尙日本人ノ新規企業ニ關シテハ鑛業法規又ハ其他關係法規ニ定ムル申請手續ヲ執ル以前ニ於テモ、日本人カ有望ナリト認ムル地方ニ於テ自由ニ實地調査ヲナスコトヲ認ムルコト

而シテ我方ニ於テ差當リ着手ヲ希望スル新規企業左ノ如シ

A、鑛業

蘭領印度ニ於ケル全石油鑛區(政府ノ保留地ヲ含ム)中我方ノ希望スル地域ニ對スル探鑛及採鑛

其他ノ礦物ノ有望ナル全鑛區(政府ノ保留地ヲ含ム)中我方ノ希望スル地域ニ對スル各種鑛物ノ探鑛及探鑛
探鑛權者ノ申請スル探鑛申請ハ必ス許可スルコト

B、其他企業

日蘭印間航空路ノ開設

日蘭印間新海運航路ノ開設

日蘭印間海底電線敷設

其他我方ノ希望スル水產業、林業、農業、工業等

以上A及Bノ企業ノ新設ニ關シテハ其ノ調査及各種準備ニ對シ蘭印當局ハ凡ユル斡旋協力及一切ノ便宜ヲ供與スルコ
ト

(2) 既存企業ノ擴張

(イ) 鑛業

現在日本人ノ出願中ノ探鑛又ハ採鑛申請ヲ速ニ許可スルコト(例―「セレベス」ニ於ケル坪野出願ノ「ニッケル」及
鐵、原口出願ノ雲母)

現在日本人ノ經營スル鑛業ニ對シ其ノ發展及合理的の經營ヲ可能ナラシムル爲其ノ擴張ヲ認ムルコト(例―B. O. M.
ノ石油)

現在日本人カ其ノ所有スル鑛業權ニ基キ實際開發ヲ行ハムトスルヲ阻止シツツアル障礙ヲ除去スルコト(例―爪哇「パ
チタン」ニ於ケル石原銅山ノ開發ヲ可能ナラシムル爲「パチタン」港ヲ同企業ノ爲ニ開港スルコト)

(ロ) 海運

現在蘭印ニ於テ沿岸貿易ヲ許可セラレ居ル日本船舶(在「スラバヤ」鹽原副經營第一虎丸及南洋興發所有船大東丸)

ニ對スル航行區域制限ヲ撤廢シ且増船ヲ認ムルコト

一九三五年以來閉鎖セラレタル海港ノ再開及出入船舶噸數制限ヲ撤廢スルコト

(ハ) 農業

既存農園ニ對シ其ノ發展及合理的經營ヲ可能ナラシムル爲其ノ擴張ヲ認ムルト共ニ各種制限及障害ヲ除去スルコト
(例―「ニュージーニア」ニ於ケル南洋興發會社ノ棉花栽培園ノ擴張爪哇ニ於ケル武田農園ノ規那栽培ノ擴張及同園生産品ノ對本邦輸出ノ許可)

(ニ) 漁業

既存漁業ニ對シ發展ノ余地ヲ與フルコト。即チ邦人漁業ハ殆ント全部カ公海漁業ニシテ土民漁業トノ競争ナキヲ以テ之ニ對シテハ、營業上必要トスル漁船數及漁夫ノ増加ヲ認メ、且漁獲物ノ輸入港ニ關スル制限ヲ撤廢スルト共ニ輸入稅ヲ免除スルコト。右漁業力營業上必要トスル製氷其他附帶事業ハ現行營業制限ヨリ除外シ自由ニ之ヲ許可スルコト

(ホ) 其他企業

日本人ニ關係アル倉庫業、印刷業、織布業、製氷業及護謄「スモーク」業等工場ノ營業制限ヲ撤廢スルコト

三、新聞關係

(1) 從來蘭印當局ニ於テハ日本人ノ馬來語及支那語新聞ノ經營ヲ阻止スルノ方針ヲ執リ居レル處、和蘭人及支那人ニ對スルト同様日本人ニ對シテモ其ノ經營ヲ許可スヘキコト

(2) 從來蘭印ニ於ケル一般官民ノ日本及日本人ニ關スル認識ハ全ク缺如シ、其ノ對日態度ニ遺憾ノ點多ク之カ爲ニ兩國間ノ友好關係ヲ阻害スルコト甚シキモノアリ。殊ニ戰禍ノ和蘭ニ波及以來蘭印官民ノ在留邦人ニ對スル暴行及侮辱事件ノ頻發ハ、一方ニ於テハ蘭印當局カ我方ノ眞意ヲ理解セス日本ニ對スル極端ナル警戒措置ヲ執リ來レル結果一般ノ感

情ヲ刺戟セルニ基因スルモノナルト共ニ、他方從來蘭印新聞ノ反日的態度カ輿論ノ對日惡感情ヲ誘發スルニ至リタルコトカ其ノ主要原因ナリト認メラル。仍テ帝國政府ハ此等新聞ノ徹底の取締方ニ關シ左ノ通り要求ス

(イ)和蘭人經營新聞

反日態度ノ最モ甚シキハ和蘭語新聞ニシテ且和蘭語新聞ハ支那語及馬來語新聞ノ指導的地位ニ在ルニモ拘ハラス從來之カ取締カ殆ント行ハレタルコトナキ處今後ハ之カ徹底の取締ヲナスコト

(ロ)支那人經營新聞

支那人經營新聞ノ取締振ハ今尙微溫のニシテ而モ支那人經營新聞ハ一般在留支那人ノ輿論ヲ必スシモ代表セサルノミカ、却テ支那人ニ對シ強制的ニ對日反感ヲ植付ケ反日運動及日貨排斥ヲ指導シ居レル處蘭印當局從來ノ態度ハ之ヲ看過シ居レリト稱スルモ過言ニ非ス、之ニ反シ蘭印當局ハ日本人經營ノ新聞カ、汪精衛支援ニ關スル記事ヲ掲ケタルニ對シ右カ在留支那人ノ感情ヲ刺戟スルモノナリトシテ發行停止ヲ命シ又支那ニ於ケル我方占領地域内ニ於テ發行セラルル新聞等ハ反蔣のナルノ故ヲ以テ一切輸入禁止ヲ爲セルカ右ノ如キ蘭印當局ノ不公平ナル態度ハ、親支反日的ナリト稱セサルヲ得ス。仍テ今後ハ支那人經營新聞ノ取締ヲ一層嚴重化スルト共ニ我方新聞ニ對スル不公平ナル態度ヲ是正スルコトヲ要求ス

丙、一般通商ノ増進及通商障害除去ニ關シ對蘭印要求案及理由

一、日本品ノ輸入ヲ最大限ニ確保スル爲最有利ナル割當ヲ要求ス

理由及要求具体案

蘭印ニ於テ一九三三年以來執リツツアル主要商品ニ對スル輸入制限措置ノ爲日本品ノ輸入ヲ阻害セラレ特ニ高級ナル日本品ノ輸入ハ重大ナル打撃ヲ被リ或種高級綿布、人絹布ノ如キハ殆ント輸入ノ途ヲ閉塞サルルニ至リタリ

然シ蘭印購買力ノ源泉淺ク消費大衆タル土人ノ收入大ナラサルニ拘ラス本制限令ヲ撤廢セシムル時ハ思惑輸入ヲ馴致シ

却テ市場混亂ヲ惹起スルニ至ルコト極メテ明ナリ故ニ我方トシテハ寧口現行制限令ヲ利用シテ日本品ニ對シ最有利ナル割當ヲ取得シ置クコト現在及將來ノ爲極メテ肝要ナリ

故ニ我具體的要求トシテハ右制限令ニ依リテ決定セル輸入許可數量ノ平均七乃至八割ヲ日本品ニ割當ツルコトヲ目標トシテ要求ス

二、蘭印在留日本人輸入商ノ輸入割當比率ノ合理的増加ヲ要求ス

理由及要求具體案

蘭印ニ於テ輸入業ヲ經營シ居ル日本商カ蘭印輸入制限令實施前ニ於テハ蘭印ノ輸入セル或種商品ノ總量ニ對シ其五割程度ノ輸入實績ヲ有シタルニ拘ラス蘭印ニ於テハ無差別ニ日本商ニ對スル輸入割當量ヲ當該商品ノ輸入許可總量ノ二割五分ヲ最高限度ト決定セルコトハ甚不當ナリ

仍テ我方トシテハ右二割五分制度ヲ改メ總テ當該輸入制限令施行前年ノ實績ニ依ルコトシ其最高割當比率ヲ五割トスルコトヲ要求ス

三、蘭印在留日本人輸入商ニ對シ第三國品ノ輸入義務免除方要求ス

理由

蘭印ニ於ケル日本人輸入商ニ對シ蘭印カ第三國ニ割當タル商品ノ一定數量ノ輸入義務ヲ負擔セシメ居ルモ日本商ハ當該第三國トノ取引關係ナク又其割當ラレタル數量モ亦少ク到底商取引ノ對象トスルニ足ラサルモノアルニ付此等第三國品ノ輸入ヲ義務トセサルコトヲ要求ス

四、蘭印ニ於ケル日本人輸入商ヲ經濟省ノ諮問委員會ニ參加セシムルコトヲ要求ス

理由

蘭印經濟省ニ於テハ蘭印市場需給ノ實狀ヲ聽取シテ輸入許可數量ヲ決定スル目的ヲ以テ蘭人輸入商若干名ヲ委員トスル

諮問委員會ヲ設ケ居ルトノコトナルニ付之ニ蘭印在留ノ適當ナル日本人輸入商ヲ參加セシムルコトヲ要求ス

五、日本ニ不利ナル關稅政策ヲ採ラサルコトヲ要求ス

理由

近年和蘭本國品ノミナラス歐米製品ヲモ保護スル爲其稅關價格表中ニ掲載セル或種商品ノ評價格カ市價ヨリモ高キモノアル爲特ニ日本品カ結果ニ於テ高率關稅ヲ支拂フコトトナルモノアリ

又最近ニ至リテハ一般的ニ賦課スル國防輸出稅ノ外ニ戰時輸出稅トシテ特ニ各國ノ必需スル重要物資ノ輸出ニ當リ課稅セントスル政策ニ出テツツアルヲ以テ之カ爲日本ノ蘭印產重要物資買付ニ障害トナルニ至ル

故ニ我方トシテハ蘭印ノ輸出入關稅政策ニ於テ日本ニ不利トナルカ如キ措置ヲ執ラサルト共ニ蘭印ト外國トノ特惠關稅ヲ設定セサルコトヲ要求ス

六、獨逸ノ和蘭侵入直後英、佛、蘭政府ハ蘭印物資ノ共同利用ヲ企圖スル氣配アリタルヲ以テ差當リ我方ノ必需重要物資ヲ確保スヘキ見地ヨリ五月二十日十三品目(生ゴム、錫及錫鑛石、鑛油、ボーキサイト、ニツケル鑛、滿俺鑛、ウォルフラム鑛、クローム鐵鑛、モリブデン、屑鐵、工業鹽、ヒマシ、規那皮)ノ一定量以上對日輸出保障方申入レタル處蘭側ハ之ヲ容認セルカ現下ノ情勢ニ鑑ミ更ニ同品目ニ關スル數量増加方ニ付要求スルコトアルヘシ

七、貿易ノ増進ヲ圖ル爲必要ニ應シ我方ニ於テモ不要不急品ノ買付ヲモ考慮ス

理由

我對蘭印輸出増進ハ蘭印住民ノ購買力如何ニ係ルコト勿論ナルヲ以テ我方ニ於テ不要不急品ト認ムルモノト雖之ヲ買付ケテ以テ蘭印ヲシテ我國ニ依存スル點ヲモ判然知ラシメ置ク必要アリ

對蘭印經濟發展ノ爲ノ施策（二五、一〇、二五閣議決定）

世界新秩序ノ進展ニ伴フ經濟圈發生ノ必然性竝ニ日獨伊三國條約ニ基ク皇國ノ蘭印ニ於ケル優位ヲ確認シ共存共榮ノ大局の立場ニ基キ速ニ蘭印ト經濟的緊密化ヲ圖リ以テ其豐富ナル資源ヲ開發利用シ皇國ヲ中心トスル大東亞經濟圈ノ一環タル實ヲ舉ゲシメンコトヲ期シ、差當リ左記要領ニヨリ施策スルモノトス

一、蘭印經濟ヲシテ歐米經濟「ブロック」ニ依存セル狀態ヲ清算セシメ大東亞經濟ノ一員タル立場ヲ取ラシムルコト

二、現在邦人ノ經濟的活動ヲ阻害スル諸種ノ制限の措置ヲ撤廢又ハ緩和シ、邦人ノ經濟的活動ヲ他ニ優先シテ自由活達ナラシムル如ク努ムルコト

三、皇國ノ必要トスル重要物資ヲ可及の二大東亞圈内ニテ確保シ以テ英米ヨリ資源の獨立ヲ圖ルタメ蘭印ニ對シ共同開發ヲ提議スルコト

要スレバ適當ナル島嶼地域ノ租借又ハ買收ヲナスコト

四、皇國ノ必要トスル重要物資ノ供給確保ニ關シテハ先ニ蘭印側ノ保障ヲ取り付ケタルモ更ニ此等物資ノ種類及數量ノ増加ニツキ蘭印ノ同意ヲ求ムルコト

尙進ミテハ重要物資特ニ蘭印ノ世界の獨占商品タル錫、「ゴム」、規那等ヲ皇國ノ指導ニヨル貿易管理ノ實現ニ努ムルコト

五、共存共榮ノ實ヲ舉ケルタメ可及の土着民ノ收益トナル蘭印產農產物ノ買付ヲナシ土着民ノ購買力ヲ培養ス

コレガ爲蘭印側ニ於テハ可及の我が國ノ要請ニ應スル如ク農業ヲ誘導スルコト

六、皇國製品ノ對蘭印輸出増進ニツキ特ニ協力提携ヲ求ムルコト

七、將來他ノ大東亞諸地域ヲ併セ皇國ヲ中心トスル大金融圈ノ設定ヲ目標トシ、蘭印トノ新金融關係ノ設定ニ付テモ之カ一環タラシムル如ク努ムルモノトス、但シ蘭印自体ハ之ヲ圓地域トナスコトヲ目的トセサルコト

蘭印ニ於ケル爲替管理ヲ皇國ノ指導下ニ置ク如ク努ムルコト

差當リ蘭印ニ於ケル爲替管理ノ運用ヲ邦人ニ對シ寛大ナラシムルト共ニ蘭印ノ銀行等ヲシテ本邦ニ對シ「クレヂット」ノ設定其ノ他極力金融上ノ便宜ヲ供與セシムルコト

八、交通及通信ニ關シテハ大東亞全局ノ指導的地位ヲ確保スル一環トシテ左ノ特殊權益ノ設定ニ努ムルコト

(イ)沿岸貿易權、不開港入港權及港灣設備ノ經營及利用權

(ロ)海底電線ノ陸揚及運用權、國內通信事業經營ニ對スル參加權ソノ他ノ通信權

(ハ)定期航空路ノ新設及航空保安施設ノ設置權

九、水産業ニ關シテハ南方ニ確固タル地歩ヲ建設スルタメ漁船ノ増加、漁獲物輸入港制限ノ撤廢、漁業根據地ノ設置、其ノ他水産業ノ經營ニ伴フ權益ノ獲得ニ努ムルコト

二〇、蘭印ニ於ケル第三國權益ニ對シテハ新規ノ設定ヲ許ルス又既存ノモノニシテ皇國ノ發展ニ障害トナルカ如キモノハ之ヲ驅逐スルガ如ク努メシムルコト

二一、蘭印ノ對内外經濟政策ノ樹立及實施ニ參與シ皇國トノ經濟的提携ヲ指導強化スル爲蘭印側ニ邦人ヲ加ヘタル經濟建設委員會、其他適當ナル機關ヲ設ケシムルコト

貿易、金融、稅制、關稅、第三國トノ經濟協定、企業、交通、通信等ニ關シテハ右機關ヘノ諮問ヲ要スルモノトス
差當リ、在蘭印邦人輸入商ヲ經濟省ノ諮問委員會ニ參加セシムルコト

二二、蘭印ニ關スル新聞其他刊行物ノ對日惡論調ニ對シ徹底的ナル取締ヲ要求スルト共ニ邦人ノ新聞發行ニ對スル自由ヲ確保セシムルコト

二三、在任華僑ノ援蔣抗日態度ニ對シテハ蘭印當局ノ嚴重ナル取締ヲ要求スルト共ニ一方ソノ經濟的地位ニ鑑ミ大局的立場ヨリ華僑ノ組織及資力ノ利用ヲ策スルコト

一四、皇國ノ經濟的發展ヲ期スル爲、土着有力者ヲ皇國ニ招致シ又ハ皇國ノ眞姿ヲ宣傳正解セシムル等諸般ノ處置ヲ講スル
コト

一五、經濟施策ハ大東亞共榮圈確立ノ大局的立場ニ立脚スルコトトシ皇國ノ利益伸長ト土民ト調和スル如ク努ムルコト

附錄 第四號

石油買付數量ニ關スル民間協定

(昭和十五年十一月十二日向井代表、「ロイヤル、ダッチ」及「スタンダード」代表者間ニ調印)

一、新規買付

七二六、五〇〇噸

二、曩ニ東京ニテ契約セルモノ

五八〇、〇〇〇

計

一、三〇六、五〇〇

備考、右以外ニ當時東京ニテ現物買付ヲ爲シタル數量四萬九千噸アリ、又「ロイヤルダッチ」ノ販買機關タル「ライジ
ングサン」及「スタンダード」社ノ日本支店ガ日本内地ニ於テ販買シ得ル割當六十五萬噸ニ就テハ燃料局ト右「ラ
及「ス」社トノ間ニ別ニ契約スルコトトナリタルヲ以テ我方ノ獲得シ得ヘキ石油總量ハ合計二、〇〇五、五〇〇噸ニ
達シタリ

附錄 第五號

我方第一次要求(昭和十六年一月十六日)

(邦譯文)

覺書

天然資源ニ富ム蘭印ノ廣大ナル領域ノ大部分ハ人口甚ダ稀薄ニシテ未開發ノ儘ナルヲ以テ廣範圍ニ亘リ開發ヲ必要トスル状態ニアリ是等地域ノ開發ガ當ニ蘭印ノミナラズ日本ニ對シテモ利益ヲ齎ラスト共ニ世界ノ福祉ニ寄與スベキコトハ言フヲ俟タサル所ナリ

事實上日本及蘭印ハ經濟的ニ相互依存ノ關係ニ在リ且日本ハ地理的ニ歐米ノ列強ヨリモ蘭印ニ近接シ居レリ從テ兩國間ノ經濟的關係ヲ調整スル必要ニ大ナル重要性ヲ置カサルヘカラス日本ハ蘭印ニ於ケル天然資源ノ開發ニ對スル參加竝ニ蘭印トノ貿易其ノ他ノ經濟的關係ノ増進ヲ切望スルモノナリ蘭印政府ニシテ日本ノ要望ニ應ジ日本國民ノ蘭印ニ於ケル經濟的活動ニ對シ便宜ヲ供與スルコトヲ承諾セラル、ニ於テハ右ハ蘭印自体ノ繁榮ニモ亦大イニ寄與スベキモノナルコトハ日本ノ堅ク信ズル所ナリ

上述ノ見解ニ基キ日本政府ハ蘭印政府ニ對シ次ノ如キ提案ヲ爲サントスルモノナリ

一、日本人ノ入國及ビ其他ノ事項

(一)、入國制限ノ緩和

(A)、(B)及(C)項記載ノ者ヲ除キ日本政府ノ發給シタル旅券ヲ所持スル日本人ノ入國ニ對シ蘭印入國法ニ規定セラレタル最大限例ヘハ一九四〇年初頭ニ於テ定メラレタル一、六三三人ニ達スル迄許可セラル、様外國人勤勞條令ノ手續ヲ簡易ナラシムルコト

(B)、多數日本人ノ入國ナクシテハ急速ナル開發ヲ殆ンド期待シ得サル外領殊ニ「スマトラ」、「ボルネオ」及ビ大東亞ニ於ケル開拓事業ノ爲ニ必要ナル日本人ニ對シ入國ヲ許可スルコト

(C)、一時的の滞在ノ爲ニ入國ヲ許可セラル、日本人ハ(A)項記載ノ人數ニ包含セラレサルヘキコト

(D)、入國稅ヲ廢止セラルヘキコト

(二)、開發上ノ障礙除去

事業ノ遂行及ビ其他ノ經濟的活動上必要アル場合之ヲ阻害スルカ如キ如何ナルモノモ之ヲ除去セラルヘキコト

(三)、日本人醫師ノ診療自由

日本ニ於テ醫師(齒科醫ヲ含ム)トシテ資格ヲ有スル日本人カ蘭印ニ於テ診療ノ許可ヲ與ヘラル、爲開業醫ニ對スル制限ヲ緩和セラレ度コト

(四)、日本人企業經營ノ増進

日、蘭印合併事業カ企業ノ經營形態トシテ要望セラルル場合ハ其實現ニ對シテ必要ナル援助ヲ與ヘラルヘク且智的竝ニ技術的勞働者ノ雇傭、運輸施設(鐵道、港灣、船舶等)及其他建設上必要トスル取極メニ關シ凡テノ日本人企業者ニ對シ好遇ヲ與ヘラルヘキコト

(五)、總テ日本人ノ申請又ハ要求ハ友好的精神ヲ以テ取扱ハルヘキコト

二、各種ノ事業

(一)、鑛業

或地方(蘭印政府保留地域ヲ含ム)ニ於テ日本人ノ要望スル各種ノ鑛產物ノ開發ニ對スル許可ハ可及的急速ニ且廣範圍ニ亘リ與ヘラルヘキコト

(二)、漁業

土人漁業トノ競争ヲ惹起セサル限り領海內ニ於ケル日本人漁業ヲ許可セラル、コト、之カ爲ニ必要ナル漁船、漁夫及ビ使用人ノ増加ヲ許可セラル、コト、且深海漁業ニ於テモ同様許可セラル、コト、漁業根據地又ハ其ノ附近ニ於テ漁業及ビ其經營ノ爲必要ナル施設(漁市場、製氷工場、冷藏庫、油槽、魚類製造工場、漁船修理工場等)ヲ許可セラルルコト、魚類輸入港ニ對スル制限ノ撤廢、蘭印ニ於テ日本人漁業者ノ捕獲セル魚類ハ輸入稅ヲ免除セラルヘキコトヲ要望ス

三、交通及通信

(一)、日、蘭印間航空事業ノ開始

日本機ニヨル日、蘭印間直通航空事業ノ開設ヲ許可シ且之ニ關シ日本ノ航空士ニ對シテ無線通信上必要ナル便宜ト無線ニヨル氣象通報トヲ與ヘラレ度キコト

(二)、日本船舶ニ對スル各種制限ノ撤廢

(A)、蘭印政府力既ニ日本人ニ許可シタル沿岸航海ニ關シテハ、日本船舶數ノ増加ヲ許可シ、且日本船舶ニ對スル噸數及ヒ航行範圍ノ制限ヲ廢止セラルヘキコト

(B)、日本人企業ノ爲ノ日本船舶ニ沿岸航海ノ許可ヲ與ヘラルヘキコト

(C)、日、蘭印間ノ交通及貿易促進ノ爲日本トノ直通ヲ必要ナリトスル港ハ開港場トシテ指定セラルヘキコト

(D)、日本向貨物積込ノ爲不開港地ヘノ日本船ノ寄航ヲ必要トスル場合ハ其手續ヲ簡便ニシ且出來得ル限り迅速ニ取扱ハルヘク又其ノ不開港地寄航船舶ノ噸數ニ對スル制限ヲ撤廢セラルヘキコト

(三)、日、蘭印間通信ノ改善

(A)、日、蘭印間ニ安全且能率のナル通信ヲ建設スル爲技術的ニ最新式ナル海底電線ヲ日本ノ管理下ニ敷設スルコトニ對シ承認ヲ與ヘラルヘキコト

(B)、日、蘭印間ノ電信ニ於ケル日本語使用ノ禁止ヲ解クコト

四、營業制限

營業制限令ノ下ニ在ル倉庫業、印刷業、織布業、製氷業、護謄燐製業等ニ關スル日本人ノ請願ニ對シテハ可及的許可セラルヘキコト

五、商業及貿易

- (一)、日本商品ニ對スル輸入割當ハ別表記載ノ通り規定セラルヘキコト
- (二)、日本ハ別表記載ノ通蘭印物産ノ買付ヲ爲ス用意ヲ有ス
- (三)、輸入割當ノ増加セル分ハ蘭印ニ於ケル日本輸入商ニモ下附セラルヘキコト
- (四)、蘭印ニ於ケル日本輸入商ハ第三國品ヲ輸入スヘキ義務ヲ免除セラルヘキコト
- (五)、蘭印ニ輸入セラルヘキ日本商品ニ對シテハ關稅及ビ通關手續ニ於テ友好的ナル措置ヲ執ラルヘキコト

MEMORANDUM.

Most of the vast territories of the Netherlands-Indies, abundant in natural resources, are very thinly populated and still remain undeveloped, waiting for exploitation and development in wide fields. It is beyond question that the exploitation and the development of these areas would bring benefit not only to the Netherlands-Indies but also to Japan and, at the same time, would contribute to the welfare of the world.

As a matter of fact, Japan and the Netherlands-Indies stand in the relation of economic interdependence, the former being geographically situated much nearer to the latter than any other European or American powers. Accordingly, a great importance should be stressed upon the necessity of strengthening the economic relations between the two countries. Japan is earnestly desirous of participating in the exploitation of the natural resources in the Netherlands-Indies, and of promoting the trade and other economic relations with her. It is Japan's firm conviction that a great contribution would also be made towards prosperity of the Netherlands-Indies herself, if the Netherlands-Indies Government would see their way to meet Japan's desires and facilitate the economic activities in the Netherlands-Indies of Japanese nationals.

In the view above-mentioned, the Japanese Government wish to present the following proposals to the Netherlands-Indies

Government:

I. The entry of Japanese nationals and other affairs.

(1) Modification of the restriction of entry.

(a) Procedure laid down in the Foreign Labour Ordinance (*Ordonnantie Vreemdelingen Arbeid*) be simplified in order to permit entry of Japanese nationals, possessing pass-ports issued by the Japanese Government, up to the maximum number as stipulated in the Netherlands-Indies Entry Ordinance (*Toelatings-besluit*)—for example, 1633 persons in the year of 1940, with the exception of the following cases mentioned in (b) and (c).

(b) Permission of entry be granted to Japanese nationals who are required for carrying on exploitation and development enterprises in *Buiten Gewesten*—especially Sumatra, Borneo and Great East, where speedy development can hardly be expected without the entry of substantial number of Japanese nationals.

(c) Japanese nationals who are permitted to enter for temporary stay, be not included in the number, mentioned in (a) above cited.

(d) The entry tax be abolished.

(2) Elimination of difficulties concerning explorations.

Any difficulties whatever concerning explorations, necessary for carrying on enterprises and for other economic activities, be eliminated.

(3) Freedom of medical practice by Japanese doctors.

Restrictions imposed upon medical practice be modified in order that Japanese nationals, who are qualified in Japan as doctors (including dentists), may be granted permission for their medical practice in the Netherlands-Indies.

(4) Promotion of rationalization of the management of Japanese enterprises.

Where Japan and the Netherlands-Indies joint-enterprises are desired as a form of management of enterprises, necessary assistance be given for the realization of such, and favourable treatment be accorded to all Japanese enterprisers in connection with their making necessary arrangements, such as employment of intellectual as well as manual labourers, equipments for transportation (railway, harbours, ships etc.) and other needed establishments.

(5) All applications or requests from Japanese nationals be treated in friendly spirit.

II. Various enterprises.

(1) Mining.

Permission for the exploration and or exploitation of various minerals in the regions (including the areas reserved for the Government), which are desired by Japanese nationals for such purpose, be given as promptly and extensively as possible.

(2) Fishery.

It is requested that the fishing by Japanese nationals in the territorial waters be permitted, so far as it does not cause competition with the native fishery, and that an increase in number of fishing boats, fishermen and employees, necessary for the operation of the territorial-waters-fishery mentioned above, as well as for that of deep-sea fishery by Japanese nationals, be allowed, and that various fisheries at or near the fishery bases and such establishments as necessary for the operation and the management of fisheries (fish markets, ice-manufacturing factories, cold-storage houses, oil-tanks, factories for manufactured goods of fish, repair-shops for fishing boats etc.) be permitted, and that the restriction on import-harbours for fish be abolished, and that the fish caught by the Japanese fishermen in the Netherlands-Indies be exempted from the import

duties.

III. Traffic and communication.

(1) Opening of air-service between Japan and the Netherlands-Indies.

The establishment of a direct air-service between Japan and the Netherlands-Indies by Japanese planes be permitted and, in connection therewith, facilities necessary for wireless communication and meteorological information by wireless be rendered to Japanese aviators.

(2) Abolition of various restrictions on Japanese ships.

- (a) With regard to the coastal navigation already granted to the Japanese nationals by the Netherlands-Indies Government, an increase in number of Japanese ships be permitted, and the restrictions on the tonnage and navigable areas for the Japanese ships be abolished.
 - (b) Permission for the coastal navigation be given to Japanese ships when necessary for the operation of Japanese enterprises.
 - (c) Harbours, of which direct connection with Japan is desirable for the promotion of the traffic and trade between Japan and the Netherlands-Indies, be designated as open-ports.
 - (d) Formalities concerning the visit of Japanese ships to non-open-ports, which is necessary for the shipment of products destined for Japan, be simplified and dealt with as promptly as possible, and restrictions on the tonnage of the ships calling at non-open-ports be abolished.
- (3) Improvement of the means of communication between Japan and the Netherlands-Indies.
- (a) In order to establish a stable and highly efficient means of communication between Japan and the Netherlands-Indies,

consent be given to the laying of submarine cables between the two countries under the Japanese management, which are technically most up-to-date.

- (b) The prohibition of the use of Japanese language in the telegraphic communication between Japan and the Netherlands-Indies be removed.

IV. Business regulation.

Applications by Japanese nationals regarding the business of warehousing, printing, weaving, ice manufacture, rubber smoking etc., such as subjected to the Business regulation Ordinance (Bedrijfs-reglementeering's ordonnance), be complied with as far as possible.

V. Commerce and trade.

- (1) Import-quotas for Japanese goods be arranged as mentioned in the list which will be annexed hereto.
- (2) Japan is prepared to purchase the Netherlands-Indies products as mentioned in the list which will be annexed hereto.
- (3) Increased percentage of import-quotas be allotted to the Japanese importers in the Netherlands-Indies.
- (4) The Japanese importers in the Netherlands-Indies be exempted from the obligation to import the goods of the third countries.
- (5) With regard to the Japanese goods to be imported into the Netherlands-Indies, friendly measures be taken regarding the customs-tariff and customs formalities.

附錄 第六號

蘭側對案(昭和十六年二月三日)

(假譯)

覺書

今次經濟交渉ニ關スル蘭印政府ノ地位ヲ明カニシ且起リ得ヘキ誤解ヲ避クル爲蘭側代表ハ蘭印ノ經濟政策ヲ決定スヘキ考慮ヲ玆ニ再ビ簡單ニ聲明ス

中立國又ハ非交戰國ト相互ノ通商ヲ促進スル爲經濟關係ヲ改善シ且調整セントセバ、友好的精神ヲ以テ實行セラルヘキ不斷ノ關心ヲ要スル次第ナルモ之ニ關シテ採ラルヘキ措置ハ左ノ如キ原則ニ從ハサルヘカラス

第一、ニ蘭印住民ノ福祉、進歩及解放ハ蘭印政府ノ政策ノ主要目的ナルガ故ニ住民ノ利益ト相容レサルカ或ハ彼等將來ノ發展限界ヲ不當ニ狹小ナラシムルカ如キ措置ハ之ヲ避クルコトヲ考慮セザルヘカラス

第二、ニ蘭印ノ利益ハ外國トノ經濟的關係ガ嚴正ナル無差別主義ノ上ニ維持セラルヘキコトヲ必要トス、而シテ經濟的開發ニ對スル外國ノ參加ハ和蘭王國ノ大ナル領域内ニ於ケル自給的經濟單位トシテ蘭印力漸次形成セラル、コトヲ妨害セサルモノナルコトヲ要ス從テ如何ナル經濟的活動ノ分野ニ於テモ外國權益ノ優越的地位ノ發生ヲ許スヘカラス

第三、ニ和蘭王國ノ捲込マレタル戰爭中ハ貿易其他ノ經濟的活動力直接又ハ間接ニ敵國ノ利益トナルコトノ防止及蘭印國防ノ安全ノ爲ニ制限ヲ受クルコトハ不可避ナルコトヲ認メサル可ラス

更ニ日本側代表ノ覺書ニ於テ第一ニ蘭印資源ノ開發ハ未ダ不充分ナリ第二日、蘭印間ノ經濟的關係ハ「相互依存」ナル言辭ノ使用ヲ正當ナラシムル程重要性ヲ有スルモノナルコトヲ意味セルモノノ如クナルモ蘭側代表ハ斯カル主張ハ事實ニ依テ立證セラレタルモノニ非ル如ク思惟セラルルコトヲ指摘セント欲ス、所謂外領ノ大部分ガ人口稀薄ナリトノ事實ハ尤ナレドモ外領ノ開發セサルコトハ資金勞力及企業心ノ乏シキコトニ因ルモノニ非スシテ主トシテ其包藏スル資源ノ不足ト散在的ナル性質ニ起因スルモノニシテ即チ外領ニ於ケル内國及外國資本ニ依ル若干ノ農、林、鑛業ノ成績不良ナルコトハ幾多ノ科學的開發ニ依リテ示サレタル經驗ニ徴シ右見解ヲ堅持スルモノナリ、概言スレハ蘭印ハ實際食料ノ自給ヲ爲セルノミナラス熱帶農企業ノ殆ンド凡ユル方面ニ於テ世界市場ニ於ケル供給過剩ヲ防止スヘキ生産制限ヲ爲スコトヲ必要トス

ル程生産ノ發達ヲ見タリ、又鑛產物ノ生産高ハ鑛產物埋藏量ニ比シ割合ニ多ク而シテ發見セラレタル鑛物ガ―鐵鑛ノ如ク其品質劣等ナル場合ニ於テモ―該鑛物ニ對スル需要ノ起ルコトヲ期待シ得ヘキ時ハ直チニ之カ開發ニ着手セリ然シ是レ以上開發ノ余地ナキコトヲ意味スルモノニ非ス、然レドモ假令善意ノ外國民間資本ト智識トノ協力カ上述ノ限界内ニ於テ歡迎セラル、ト雖モ其開發ハ合理的經濟ノ線ニ沿フテ行ハルヘク且主トシテ蘭印ノ他ノ地方ニ於ケル稠密ナル人口ト其中ニ於テ急速ニ増加シツ、アル教育アリ且訓練アル者ノ援助ニ依リ且彼等ノ利益トナル如ク實現セラルヘキモノナリ

政府ノ組織下ニ行ハル、爪哇ヨリノ農業移民ノ數カ一ケ年五萬人ノ水準ニ達シ然モ其數急速ニ増加シツ、アル事實ハ蘭印カ外國ヨリノ移民ヲ必要トスルモノニ非スシテ寧ロ經濟の有望ナル外領ノ全地方ハ爪哇其他ニ於ケル人口壓力ノ緩和ノ爲ニ必要ナリトノ確信ヲ與フルモノナリ蘭印ト日本帝國トノ間ノ通商關係ノ重要性ニ關シテハ蘭印總輸出額ニ於ケル日本帝國ノ割合カ一九三〇―一九三二年ニ於ケル平均四、二一%ヨリ一九三七―一九三九年ニ於ケル平均三、七四%ニ減少シタルコトヲ注意セラルヘカラス而シテ蘭印輸入ニ於テ日本ノ割合力増加シタルコトハ事實ナルカ右ハ蘭印ノ第三國向輸出ニ依ル購買力ノ起生ニ俟ツ所大ナルコトヲ看過スヘキニ非ス

蘭印輸出額ニ於テ支那(香港ヲ含ム)及滿州國ノ占ムル割合ハ一九三〇―一九三二年ノ八、一五%ヨリ一九三七―一九三九年ノ三、五五%ニ減退セルカ如ク更ニ逆調ヲ示セルコト及今次戰爭ニ依リ大部分ノ歐洲市場ハ失ハレタリト雖モ前記ノ狀勢ニ殆ント變化ナク一九四〇年一月ヨリ十一月ニ至ル間ノ對日本帝國輸出割合ハ五、一八%對滿支ハ三、九四%トナレルニ過キサルコト茲ニ斯ル輸出ノ狀勢ハ蘭印ノ福利ハ對全世界貿易ニ依存スルモノニシテ單ナル地理の近接ハ大量貿易ノ原因トナリ又ハ之ヲ維持スル上ニ於テ支配の要素ニ非ルコトヲ證明スルモノナルコトハ銘記スヘキ事實ナリ

事實上輸入國ノ繁榮及其結果生スル需要力距離ヨリモ遙カニ重要ナル要素ナリトス

數字ハ明カニ經濟關係改善ノ余地アルコト及能フ限り今後經濟の關係ノ更ニ平常ナル發達ヲ計ルヘク凡ユル理由アルコトヲ示シ居レリ而シテ之ニ關シ蘭側代表ハ日本政府ノ「イニシヤチヴ」ヲ取りタル此經濟交渉ノ機會ヲ利用シ左ノ如ク提案

ス

一、日本ノ蘭印物産輸入

經濟的ニ蘭印ニトリ重要ナル蘭印物産ニシテ現在金融上其他ノ措置ニ依リ日本ヘノ輸入力阻害ヲ受ケ居ルモノヲ日本國內消費ノ爲ニ購入セラレ度右ハ就中左記物産ニ關スルモノトス

A、砂糖

日本及滿、支ノ中從來日本ノ製糖業者ニ依リテ供給セラレタル地方ニ於テ著シク不足ス

B、珈琲

蘭印ニ對シ相當ナル輸入割合ヲ許與セラレ度

二、圓ノ自由使用

在日和蘭商社ニ屬スヘキ圓勘定殘高ハ日、蘭印間ノ經濟關係ニ於テハ合法的ナル如何ナル取引ニモ利用シ得ルコト、スルコト

三、營業ノ自由

在日和蘭國民及商社ハ支障ナク其業務ヲ執行スル爲必要ナル自由ヲ與ヘラルヘキコト

NEDERLANDSCHE DELEGATIE

VOOR DE ECONOMISCHE

ONDERHANDELINGEN MET JAPAN

MEMORANDUM.

BATAVIA (C), February 3rd 1941;

In order to clarify the position of the Netherlands Indies with regard to the present economic negotiation and to avoid any possible misunderstandings, the Netherlands Delegation would like to restate briefly the considerations determining the economic policy of the Netherlands Indies.

Whereas the improvement and adjustment of economic relations and the increase of mutual trade with neutral or non-belligerent countries is the object of a constant care, exercised in the spirit of goodwill, the measures taken in this respect must comply with the following principles.

In the first place it must be taken into consideration that the welfare, the progress and the emancipation of the population of the Netherlands Indies are the prime objects of the Policy of the Netherlands Government. Measures, which would tend to run counter to the interests of the inhabitants, or which would unduly narrow the scope of their future development, should therefore be obviated.

In the second place the interests of the Netherlands Indies demand that the economic relations with foreign countries shall be maintained on a basis of strict non-discrimination; that the participation of such countries in the economic growth shall not disturb the gradual formation of the Netherlands Indies as a self-sustaining economic unit within the larger limits of the Kingdom; and that no preponderance shall be created of foreign interests in any field of economic activity.

In the third place it must be observed that, for the duration of the war in which the Kingdom of the Netherlands is involved, it is unavoidable that trade and other economic activities will be subject to restrictions preventing direct or indirect advantage to the enemy or safeguarding the defense of the Netherlands Indies.

Furthermore, in so far as the two opening paragraphs of the memorandum of the Japanese Delegation seem to imply, firstly, that the natural resources of the Netherlands Indies have been inadequately developed and, secondly, that the economic relations between Japan and the Netherlands Indies are of such an important and vital nature as to warrant the use of the term “interdependence”, the

Netherlands Delegation begs to point out that such contentions would not seem to be substantiated by the facts.

The fact that a considerable part of the so called Buitengewesten is sparsely populated is primarily accountable, not to any lack of funds, labor or enterprising spirit, but to the relative scantiness and the scattered character of their natural resources. The poor results of several agricultural, forestry and mining enterprises, both domestic and foreign, in this part of the Netherlands Indies confirm this view, as is the case with the data, supplied by numerous scientific explorations.

As a whole, the Netherlands Indies not only provide practically all their own food, but in almost every field of agricultural activity, suited for the tropics, production has been developed to such an extent that restriction had to be imposed to prevent a permanent glut in the markets of the world. Mineral Production is relatively high, compared with mineral reserves, and in cases where the minerals found are of poor quality—as is the case with iron ore—exploitation was nevertheless undertaken as soon as a demand for these minerals could be expected to arise.

This does not mean that there is no room for further development. However, although the co-operation of bonafide private foreign capital and knowledge is welcome within the limits delineated above, this development should proceed along lines of rational economy and should be realised mainly with the aid and to the benefit of the abundant population in other parts of the Netherlands Indies and of the fast increasing number of well-schooled and well-trained people among them. The fact that the number of government-organized agricultural emigrants from Java has reached the level of 50,000 persons a year and is rapidly increasing should by itself carry the conviction that the Netherlands Indies do not stand in need of immigration from foreign countries and that all parts of the Buitengewesten, where cultivation of the soil offers some economic prospect, are necessary for the alleviation of the pressure of the population in Java and elsewhere.

As regards the importance of trade relations between the Netherlands Indies and the Japanese Empire, it should be borne in mind

that the share of the Japanese Empire in the total export value of the Netherlands Indies decreased from an average of 4.21% in 1930-1932 to an average of 3.74 % in 1937-1939. It is true that the share of Japan in the imports of the Netherlands Indies was larger, but it should not be overlooked that these imports were to a great extent made possible through the creation of buying power by exports from the Netherlands Indies to third countries.

It is a memorable fact that the share of China (including Hongkong) and Manchukuo in the export value of the Netherlands Indies shows an even more adverse development, falling from 8.15% in 1930-1932 to 3.55% in 1937-1939. Even the present war, though it gradually cut off most of the European markets, did but slightly alter the situation, the above percentages for January-November 1940 being for the Japanese Empire 5.18% and for China and Manchukuo 3.94%.

The export situation proves that the welfare of the Netherlands Indies depends on its trade with the world as a whole and that mere geographical propinquity is not the governing element in the creation or the maintenance of a voluminous trade. In fact prosperity in and consequent demand from the importing countries are much more important elements than distance.

The figures undoubtedly show that there is room for improvement and there is every reason to further the normal development of economic relations as much as possible. With regard to this the Netherlands Delegation avail themselves of the opportunity that economic negotiations have been initiated by the Japanese Government to offer the following proposals:

1. Imports in Japan of products from the Netherlands Indies.
Netherlands Indies products, economically important to the Netherlands Indies, the entrance of which in Japan is now barred by monetary and other measures, be purchased for home consumption in Japan. Among others this regards specially:
 - a. sugar, a considerable shortage of which exists in Japan and those regions of China and Manchukuo, which used to be provided with sugar by Japanese refineries;

b. coffee, a reasonable share in the imports of which be granted to the Netherlands Indies.

2. Free use of yen balances.

Yen balances accruing to Netherlands nationals or companies in Japan be made available for any lawful transaction appertaining to the economic intercourse between Japan and the Netherlands Indies.

3. Freedom of business.

Netherlands nationals and companies in Japan be granted the necessary liberty for the undisturbed exercise of their trade.

附錄 第七號

我方第二次要求(昭和十六年五月十四日)

(入國、企業、交通通信問題ニ關スル要求邦譯文)

覺書

日本代表部ハ、一九四一年一月十六日和蘭代表部ニ對シテ其ノ提出セル覺書ヲ再考慮シ、次ノ新提案ヲ和蘭代表部ニ對シテ茲ニ提出ス。但シ日本代表部ハ、前記覺書ノ前文ニ表明セラレタル日本側見解ハ日本政府ノ依然堅持スル所ナル旨明確ナラシメ置キ度シ。

(一)、入國關係

(イ)、蘭印政府ハ日本人従業員ノ入國ニ付關係者ヨリ許可ノ申請アル場合現行法令ノ範圍内ニ於テ事情ノ許ス限り多數且迅速ニ許可方好意的考慮ヲ加ヘ少クトモ年千六百名迄ハ許可ヲ與フベシ。

(ロ)、従業員交替許可申請者及許可延長申請者竝入國ノ目的カ一時的ナル者ハ(イ)ノ項ノ數ニ包含セラレズ。

(ハ)、日本人ノミノ治療ニ從事スル目的ヲ以テ渡來スル日本人醫師(齒科醫ヲ含ム)ノ入國開業ハ各地方ニ於ケル必要ヲ考

慮シ全体トシテ一定數ヲ限リ之ヲ許可スベシ尤モ外領ニ於ケル日本人ノ企業ニ關係スル日本人從業員ノ治療ニ從事スルコトヲ許可セラレタル日本人醫師(齒科醫ヲ含ム)ハ要スレハ當該外領ニ於ケル日本人企業ニ關係スル日本人以外ノ從業員又ハ使用人ヲモ治療スルコトヲ得。

(二)、企業及營業關係

蘭印政府ハ日本人單獨又ハ合併ノ各種企業及營業ノ新設又ハ擴張等ニ關シ關係者ヨリ承認又ハ許可ノ具體的申請アル場合其ノ都度之ヲ好意的ニ審議シ國防上ノ理由ニ依リ又ハ蘭印人ノ爲保留スルノ必要上特別ノ支障ナキ限リ計畫遂行上必要ト認メラル、事前調査ヲ許容シ且右新設又ハ擴張等ヲ承認又ハ許可スルト共ニ右承認又ハ許可ノ上ハ從業員ノ雇傭及運搬施設其ノ他必要ナル設備ヲ施スコト等ニ付出來得ル限リ好意的ニ取計ヒ必要ナル便宜ヲ供與スベシ殊ニ蘭印政府ハ(イ)、鑛業ニ關シ日本人企業家ヨリ探鑛又ハ採鑛ノ許可申請アル場合之ヲ好意的ニ審議シ特別ノ支障ナキ限リ許可スベシ尙政府保留地域内ニ於ケル鑛業ニ付日本人企業家ヨリ鑛業法第五條Aニ基キ探鑛又ハ採鑛ノ許可申請アリタル場合ニ付テモ亦同ジ

(ロ)、水産業ニ關シ日本人關係者ヨリ具體的ニ許可申請アル場合國防上ノ理由ニ依リ又ハ蘭印人特ニ土人ノ爲保留スルノ必要上特別ノ支障ナキ限リ之ヲ許可スヘク又日本人水産業ニ關係スル從業員ノ雇傭及其ノ經營ノ爲必要ナル附帶施設ヲ設クルコト等ニ付テモ好意的ニ取計ヒ必要ナル便宜ヲ供與スベシ

(ハ)、商業及各種營業ニ關シ日本人ヨリ許可申請ヲ爲ス場合特別ノ支障ナキ限リ之ヲ許可スヘク倉庫業其他既ニ營業制限令ノ適用ヲ受ケ居ルモノニ付テモ具體的ニ申請アラバ個々ノ場合ニ付好意的考慮ヲ加ヘ特別ノ支障ナキ限リ之ヲ許可スベシ

(三)、交通通信關係

(イ)、蘭印政府ハ日蘭印間ノ航空發達ハ兩國經濟關係ノ緊密化ニ寄與スル所大ナルベキヲ以テ將來適當ノ機會ニ日蘭印間

直通航空事業ノ開設方ニ付日本政府ト協力スベク尙差當リ盤谷及西貢其他ニ於ケル日蘭機連絡ノ改善方ニ付日本政府ト協力スベシ

(ロ)、日蘭印間ノ電信連絡ニ關シテハ蘭印政府ハ安全且能率のナル通信ヲ建設スル爲將來適當ノ機會ニ技術的ニ最新式ナル海底電線ヲ日本ノ管理下ニ建設スルコトニ付日本政府ト協力スベク尙差當リ「マラバル」無電對日連絡改善方竝「ヤップ」「メナド」間海底電線利用方ニ付日本政府ト協力スベシ

(ハ)、沿岸航海ニ關シテハ既存ノ日本人企業ニシテ事業ノ進行ニ伴ヒ沿岸航海自營ノ必要痛感セラル、モノニ付テハ前廣ニ申請アル場合竝新規ノ日本人企業ニシテ事業ノ進行ニ伴ヒ沿岸航海自營ノ必要予想セラル、モノニ付テハ最初ヨリ事業計画ノ一部トシテ申請アル場合蘭印政府ハ國防上ノ理由ニ依リ特別ノ支障ナキ限り之ヲ許可スベシ

尙蘭印政府ハ既ニ日本人ニ許可シ居ル沿岸航海ニ關シ日本人關係者ヨリ日本船舶ノ隻數又ハ噸數増加ノ必要アリトシテ許可申請アル場合ニハ特別ノ支障ナキ限り之ヲ許可スベキコト及右既存船舶ノ運行經營及沿岸貿易ヲ困難ナラシムルノ意圖ナキコトヲ言明ス

(ニ)、日本人企業ノ經營又ハ生産ノ増大若クハ日蘭印間貿易ノ増進ニ伴ヒ不開港場ヲ特定產物ノ爲ノ開港場若クハ一般的開港場ト爲スノ必要生ズルニ至リ關係業者ヨリ要請アル場合ニハ蘭印政府ハ特別ノ支障ナキ限り右要請ニ應ズベシ

(ホ)、日本向物資積出ノ爲日本船舶ノ不開港場寄港ヲ必要トスル場合關係者ヨリ申請アラバ蘭印政府ハ特別ノ支障ナキ限り之ヲ許可スベク又其ノ手續ヲ迅速且容易ナラシムベシ

(以下欠カ)

(五月十四日蘭側ニ提出セル日本品ニ對スル蘭印輸入割當要求邦譯文)

第一表

四 「日、蘭印經濟交渉ノ部」

統計番號	品名	(A) 蘭印輸入許可 數量ニ對スル日 本品ノ輸入割當 要求百分比率	(B) 日本品ニ割當テラルヘ キ最低數量
二五一	セメント	一〇〇・〇	一三〇、〇〇〇千B 珎
一二二	麥酒(スタウト以外ノ瓶詰)	八〇・〇	二、〇〇〇千立
	晒綿布		
五四三―五四二	キヤムブリツクス	一〇〇・〇	一〇四、四〇〇千米
一五二―一五六	キヤムブリツクス、シャ―ティンクス、エレフアント及マダホラムス	一〇〇・〇	一、二〇〇千米
一五七―一五五	シャ―ティンクス及ロングクロス	一〇〇・〇	二五、三〇〇千米
一五六六	ドリル、ジンス及トウイル	一〇〇・〇	二〇、五〇〇千米
一五七―一五九	サテン、フランネル及其他ノ晒綿布	一〇〇・〇	一二、五〇〇千米
	未晒綿布		
一五三及一五四	キヤリコツト	九七・〇	七、〇〇〇千米
一五二五	シャ―ティンクス(ス―パー)及其他特記セサル平織物、幅二九吋以下、(糸數三五本以下)	九七・〇	二、〇〇〇千米
一五二六	同 幅三〇―三三吋、(糸數三五本以下)	九七・〇	一〇、三〇〇千米
一五七及一五八	同 幅三四―三六吋、(糸數三七本以下)	九八・〇	三四、六〇〇千米
一五二九	同 幅三七―四一時、(糸數三二本以下)	一〇〇・〇	二、四〇〇千米
一五三〇	同 幅四二吋以上、(糸數三六本以下)	一〇〇・〇	二九、一〇〇千米

一五三及一五三	ジャバンシャティンクス幅三六吋以下	九二・〇	六、四〇〇千米
一五三三	同 幅三七吋以上	一〇〇・〇	三、五〇〇千米
一五三四	ドリル及ジンス、幅二二吋以下、糸數三三本以下	一〇〇・〇	—
一五三五	同 幅二三吋以上、糸數三三本以下	一〇〇・〇	七、六〇〇千米
一五三六	同 幅三〇吋以下、糸數三三—三七本	一〇〇・〇	四〇〇千米
一五三七	同 幅三一吋以上、糸數三三—三七本	一〇〇・〇	一七〇千米
一五三八	同 幅二八吋以下、糸數三八本以上	一〇〇・〇	三六〇千米
一五三九	同 幅二九吋以上、糸數三八本以上	一〇〇・〇	九、二〇〇千米
一五四〇	其ノ他ノ未晒綿布	八五・〇	—
七四〇	鑄鐵製フライ鍋	八五・〇	—
四六及一四六	窓硝子（無色透明）	八七・〇	二〇〇千B 珪
四七四及四七五	硝子水吞コップ、無色（非切子）	一〇〇・〇	七〇〇千方米
四七六及四七九	硝子封度瓶、普通品	一〇〇・〇	八〇〇千打
四八三及四八三	硝子ランプホヤ（非雲母製）	一〇〇・〇	一、四〇〇千打
七四一—七四五	エナメル製鍋、弁當箱、洗面器及湯沸	九三・〇	五〇〇千打
七四六	エナメル製皿、指洗、コップ匙及特記セサル臺所竝食卓用品	九三・〇	三、四〇〇千B 珪
八三三	自轉車（自動自轉車ヲ除ク）	一〇〇・〇	二六、〇〇〇臺
八三四	同 部分品及附屬品、特記セサルモノ	一〇〇・〇	六、三〇〇千B 珪
四八〇	自轉車及懷中電燈用電球	七一・〇	七、五〇〇千個

一四八〇	自動車用電球	八八・〇	二三〇千個
二四八〇	家庭用電球	九八・〇	四、四〇〇千個
九〇八	齒刷子	八〇・〇	三六〇千打
九一三	ペンナイフ	一〇〇・〇	九〇千打
九一四	各種鋏(バリカンヲ含ム)	一〇〇・〇	一〇〇千B打
九一五	家庭用ナイフ	五五・〇	七〇千打
九一六	剃刀及同刃	九六・〇	四〇千B打
九一七	其ノ他ノ刃物	八四・〇	二六千B打
九三六	石油ランプ及同部分品 鉞力笠付提ランプ	一〇〇・〇	二〇千打
九三七	同 硝子笠付提ランプ	一〇〇・〇	—
九三八	同 壁掛ランプ	一〇〇・〇	三〇〇千打
九三九	同 特記セサルモノ	一〇〇・〇	一八〇千B打
	浴用タオル		
一六二八	綿製浴用タオル(打一、三三〇瓦以下)	九〇・〇	三六〇千打
同	同(同 以上)		
一六二二	綿毛布	一〇〇・〇	九〇〇千枚
一六二四	兵隊毛布	一〇〇・〇	一一〇千枚
	衛生陶器		
四四八	移動式衛生陶器及同部分品	八〇・〇	—

四四九	固着式衛生陶器	九八・〇	三四〇千B 疋
一四四九	同 部分品及附屬品	九八・〇	一三〇千B 疋
陶器			
四三—四三五	粗製陶器特記セサルモノ	一〇〇・〇	三、九〇〇千打
四七—四四三、四四五	上質陶磁器特記セサルモノ		
四二六	粗製陶器其ノ他ノモノ	五〇・〇	六六〇千B 疋
四四、四四六及四四七	支那製飯碗及匙、其他ノ特記セサル上質陶磁器竝ニ組物及同部分品、アスパラカス皿、パイ皿、盤、スープレ、菓子入及其他ノ特記セサル高級陶磁器製食器、飯器用器、卓用道具（金屬製口金ノ有無ヲ問ハズ）竝ニ化粧卓子用具及其他ノ特記セサル陶磁器製各種奢侈品	九〇・〇	三、六〇〇千B 疋
石鹼			
四一八	化粧石鹼	五〇・〇	七〇〇千B 疋
四九—四三	洗濯石鹼及其ノ他ノ石鹼	六六・〇	五六〇千B 疋
綿縫糸			
一五二—一五三	綿縫糸、ボビン卷	一〇〇・〇	六、五〇〇、〇〇〇千米
一五三—一五四	同 球卷	一〇〇・〇	五〇〇千B 疋
一五一七	同 其他	一〇〇・〇	一一〇千B 疋
六二〇	包裝紙、統計番號六一九ニ該當セサル其ノ他ノモノ	九七・〇	一二、〇〇〇千B 疋
織物			

一五七〇	同	色染綿布、キャンブリックス	一〇〇・〇	三四、〇〇〇千米
一五七一	同	ジンス、ドリル、トウイル、幅二六吋以下	一〇〇・〇	五〇〇千米
一五七二	同	同 黒染物、幅二七―二八吋、糸數三三本以下	一〇〇・〇	四六、〇〇〇千米
二五七二	同	同 黒染以外、幅二七―二八吋、糸數三三本以下	一〇〇・〇	二一、二〇〇千米
三五七二	同	同 幅二七吋以上糸數三三本以上	九三・〇	一二、三〇〇千米
四五七二	同	同 幅二九吋以上糸數三三本以上	八五・〇	―
一五七三	記	色染綿布朱子、イタリアン、ラスチュプ及ヴェネシアン竝ニ上 記ノブロッツシエ物	一〇〇・〇	一、二〇〇千米
一五七四	同	綿ネル	一〇〇・〇	一、〇〇〇千米
一五七五	同	同上記以外ノモノ及其他ノブロッツシエ物幅二四吋以下、糸數 三三本以下	九六・〇	二三、四〇〇千米
二五七五	同	同 幅二四吋以上、糸數三三本以上	八四・〇	―千米
一五七六	同	同 幅二五吋以上	一〇〇・〇	三〇、九〇〇千米
一五七七	同	捺染綿布、ドリル、ジンス、トウイル、立縞捺染物 幅二八吋 以下、糸數三三本以下	一〇〇・〇	二四、二〇〇千米
二五七七	同	同 同	一〇〇・〇	―千米
		右以外ノモノ		
一五七八	同	朱子	一〇〇・〇	―千米
一五七九	同	綿ネル	一〇〇・〇	―千米
一五八二	同	上記以外ノ捺染物 幅二四吋以下、糸數三三本以下	一〇〇・〇	八六、四〇〇千米

二五八二	同	同	幅二四吋以下	糸數三三本以上	九六・〇	―千米
一五八三	同	同	幅二五吋以上		一〇〇・〇	三三、三〇〇千米
一五八四	糸染綿布ドリル、ジンス及トウシル	本以上白地物（ルーリックヲ除ク）	幅二四吋以下	糸數三三	一〇〇・〇	六九、四〇〇千米
二五八四	同	同			一〇〇・〇	九〇〇千米
	其ノ他ノモノ					
一五八九	糸染綿布綿ネル				九八・〇	―千米
一五九〇	同	柳條布（ベツトクロス）			一〇〇・〇	六、七〇〇千米
一五九一	同	上記以外ノモノ	幅二四吋以下	糸數二六本以下（サロン制	九八・〇	八、九〇〇千米
二五九一	糸染上記以外ノモノ	幅二四吋以下	糸數二七本以上		九六・〇	―千米
一五九二	同	同	幅二五吋以上		九八・〇	一八、二〇〇千米
一五九四	蚊帳地用織物（「テュール」ヲ含ム）				一〇〇・〇	五、八〇〇千米
一五九六	綿ポイル及半ポイル				一〇〇・〇	三、七〇〇千米
二五九六	綿アジュール物、金銀箔捺染物、マーセライズ物、絹交織物及其他特殊物				一〇〇・〇	二、五〇〇千米
二五七―二六〇	綿サロン、カインバンジャン、スレンジン、カインカパラ等				九五・〇	二〇〇千コレ
一六〇及一六三	毛織物及毛交織物				一〇〇・〇	三一〇千B疋
一六一六	絹織物				八九・〇	八〇千疋
一六一七	絹交織物				一〇〇・〇	三一〇千疋

一六八	人絹及人絹交織物	一〇〇・〇	三、二〇〇千N 疋
一六九及一七〇	麻織物及麻交織物	一〇〇・〇	二六〇千B 疋
二六二	其他ノ織物（ジュートヲ混織セル綿製品）	一〇〇・〇	三六〇千疋
二六三及二六五	被覆物及上掛物並ニ毛布（純毛ノモノ、羊毛ノモノ、起毛サルモノ、製品タルト否トヲ問ハス）	九五・〇	四〇千疋
一六六及一六七	卓子掛、ナプキン類（綿製、麻製、並ニ半麻製）及其他ノ類似品並ニシート（綿麻及半麻製）	八二・〇	九〇千疋
一六三〇	白手巾、綿麻及半麻製、表面積四〇〇平方吋以下	九八・〇	一一〇千打
二六三〇	白以外ノ手巾 同	一〇〇・〇	—
二六三一	糸染（縞）手巾、綿製及半麻製、表面積四〇〇平方吋以下	九八・〇	二二〇千打
三六三一	其他ノ糸染（縞）手巾、同	一〇〇・〇	—
一六三一	其他特掲ナキ手巾（人絹及半人絹製以外ノモノ）	一〇〇・〇	九五〇千打
同	同（人絹及半人絹製ノモノ）	一〇〇・〇	—
一六三二	天鵝絨（カオツシヲ含ム）衣服用、綿製ノモノ	一〇〇・〇	二七〇千B 疋
一六三三	同 其他ノモノ	一〇〇・〇	一四〇千疋
二六三七	窓掛、家具用布、壁掛布	一〇〇・〇	四五〇千疋
五八六及五八九	特記セサル莫大小製品及絹製品	九一・〇	四、一〇〇千B 疋
九五九及九六一	自動車タイヤ 自動車タイヤ、自動車及自動自轉車用	七八・〇	六九〇千疋

六〇及九三	チューブ、同 既製衣服類	七五・〇	八〇千疋
五八六	男子及少年用上衣洋服、外套、半ズボン既製品、ピヂヤマ、浴衣、和服及其他上衣ト見ラル、モノ	五九・〇	一二〇千B疋
五八七	婦人及少女竝小兒用上衣、少女服、小兒服既製品、和服、浴衣、ビヂヤマ、ハツペイコート、ベビー服、カバヤ等	九五・〇	一三〇千疋
五九〇	綿製ベロース、ポロシヤツ	一〇〇・〇	—
五九一	其他ノ下着類、ワイシヤツ、シヤツ、猿又、ヅボン下、肌着、乳カクシ、寢巻及其他下着ト見ラルル各種既製品(但シ莫大小製品ヲ含マス)	九〇・〇	八八〇千B疋
五九六	別掲以外ノ衣服類、シヨール、頸巻、ヴェール、面綱、ゲートル、前掛、エプロン、足袋、脚半、腹巻等(但シ莫大小製品ヲ含マス)	九七・〇	五五千B疋
六〇〇	各種帽子(但シ婦人帽、男子用中折帽、竹帽子等ヲ含マス)	九八・〇	二、一七〇千個

第二表

統計番號	品名	(A) 別一號ノ通表	(B) 別表第一號ノ通
一〇〇	鰯罐詰	八四・〇	九、九〇〇千B疋
一四二二	セロファン紙	一〇〇・〇	五〇〇千B疋
四七七	硝子瓶	九〇・〇	一、三〇〇千B打

四八六	硝子器(皿、コップ等)	九六・〇	二、九〇〇千B 疋
五〇六	ベニア板	九八・〇	三、〇〇〇千組
二五〇六	同附屬品	一〇〇・〇	二、七〇〇千B 疋
五四九	綿糸	八七・〇	一〇、〇〇〇千B 疋
五五〇	生糸	七〇・〇	二〇〇千B 疋
二五五〇	人絹糸	一〇〇・〇	二、〇〇〇千B 疋
三五〇九	スフ糸	一〇〇・〇	二、〇〇〇千B 疋
五六―五五	刺繡糸	一〇〇・〇	九二〇千B 疋
五七九	刺繡製品及レース及同製品	九八・〇	五〇〇千B 疋
五三及五三	綿製靴下	七〇・〇	二〇〇千打
二六二五	煙草用紙	九八・〇	七〇〇千B 疋
八七五	織物工場用機械器具	一〇〇・〇	二、五〇〇千B 疋
一八九四	懷中及自轉車用乾電池	五〇・〇	六、〇〇〇千個
九八六	帽子、靴、布帛製裝身具	九五・〇	三〇〇千B 疋
九九五	玩具	九二・〇	二、〇〇〇千B 疋

MEMORANDUM.

In reconsideration of the memorandum, which the Japanese Delegation presented to the Netherlands Delegation on the 16th Jan. 1941, they herein present to the Netherlands Delegation the following new proposal. They wish to make it clear, however, that the Japanese viewpoint expressed in the preamble of the above-mentioned memorandum is firmly held by the Japanese Government.

1. The entry of Japanese nationals.

(a) With regard to the entry of Japanese employees, when employers concerned apply for labour permits for their employees, the Government of the Netherlands Indies will give favourable consideration for speedy granting of as many permits as possible, as far as circumstances allow, within the limits of existing regulations, and the permits to be granted will be at least 1600 per annum.

(b) Employees, for whom their employers apply for labour permits in order to replace existing employees, and employees for whom their employers apply for the extension of labour permits, and those whose purpose of entry is of temporary nature, are not included in the number, cited above in the paragraph (a).

(c) In consideration of the necessity in various districts, the Government of the Netherlands Indies will permit, as a whole, a certain number of Japanese doctors (including dentists) to enter the Netherlands Indies, if their object is to practise medical treatment solely to Japanese residents.

It is also understood that Japanese doctors (including dentists), who are permitted to practise medical treatment to Japanese employees working for Japanese enterprises in outer regions, can extend their medical treatment, when necessary, to employees or servants of other nationalities working in the same enterprises.

II. Enterprise and business.

Whenever Japanese nationals concerned submit concrete applications for consent or permission for establishment or extension etc. of various enterprises and businesses, either in own account or in joint account with Netherlands enterprisers, the Government of the Netherlands Indies will give favourable consideration to the said applications and, as far as there are no special obstacles owing to the reasons of national defence or to the necessity of reservation for the subjects of the Netherlands Indies, they will allow previous investigations, which are deemed necessary for the execution of their plans, and will give consent or permission for the said

establishment or extension etc.

When the said consent or permission has once been given, the Government of the Netherlands Indies will give favourable treatment and necessary facilities as much as possible for the engagement of employees, the building up of transportation equipments and other needed establishments etc.

(a) With regard to the mining, when Japanese enterprisers apply for the permission for exploration and exploitation of mineral resources, the Government of the Netherlands Indies will give favourable consideration thereto and will grant required permission, as far as there are no special obstacles.

The same will be the case when Japanese enterprisers apply for the permission for exploration or exploitation according to article 5A of the Mining Law in order to participate in the mining within the area reserved for the Government.

(b) With regard to the fishery, when concrete applications for permission are submitted by Japanese nationals concerned, the Government of the Netherlands Indies will grant permission, provided that there are no special obstacles owing to the reasons of national defence or to the necessity of reservation for the subjects of the Netherlands Indies, especially for the natives, and they will give favourable treatment and necessary facilities for the engagement of employees working for Japanese fisheries as well as for the establishment of accessory installations necessary for the operation of the said fisheries etc.

With regard to commercial and other businesses, when applications are submitted by Japanese nationals, the Government of the Netherlands Indies will grant permission, provided that there are no special obstacles, and also concerning warehouse-business and others, which are already subjected to the Business Regulation Ordinance, they will give favourable consideration to each case, when concrete applications are submitted and they will grant permission, provided that there are no special obstacles.

III. Traffic and communication.

(a) From the viewpoint that the development of air services between Japan and the Netherlands Indies will greatly contribute to the strengthening of economic relations between both countries, the Government of the Netherlands Indies will, at a suitable opportunity in the future, cooperate with the Japanese Government for the opening of direct air service between Japan and the Netherlands Indies, but, for the time being, will cooperate with the Japanese Government for the improvement of connection between Japanese and Netherlands aeroplanes at Bangkok, Saigon and other places.

(b) With regard to the telegraphic communication between Japan and the Netherlands Indies, the Government of the Netherlands Indies will cooperate with the Japanese Government for laying of technically most up-to-date submarine cables under Japanese management, in order to establish a safe and efficient means of communication, at a suitable opportunity in the future, but, for the time being, they will cooperate with the Japanese Government for the improvement of the radiotelegraphic connection between Malabar and Japan as well as for the utilization of the submarine cable between Yap and Menado.

(c) With regard to the coastal navigation, when applications are submitted timely by existing Japanese enterprisers, who feel the necessity of their own coastal navigation owing to the growth of their enterprises, and also when applications are submitted at the beginning as a part of their whole plans by new Japanese enterprisers, who foresee the necessity of their own coastal navigation, the Government of the Netherlands Indies will grant permission, provided that there are no special obstacles owing to the reasons of national defence.

The Government of the Netherlands Indies state that, with regard to the coastal navigation already permitted to Japanese nationals, when Japanese nationals concerned, feeling the necessity of the increase in number of or in tonnage of ships, apply for the permission for the said increase, they will grant permission, provided that there are no special obstacles, and they further state that they have no intention to make difficult the navigation and the coastal trade of the ship, which is already permitted to engage herself in the

said businesses.

(d) When Japanese nationals concerned, feeling the necessity to have certain closed ports opened for special products or for general trade, in accordance with the development of Japanese enterprises or the increase of products or the furtherance of trade between Japan and the Netherlands Indies, apply for the permission for opening of those closed ports, the Government of the Netherlands Indies will grant permission, provided that there are no special obstacles.

(e) When Japanese nationals concerned, feeling the necessity of Japanese ships to call at closed ports for the shipment of products destined for Japan, apply for permission to that end, the Government of the Netherlands Indies will grant permission, provided that there are no special obstacles, and they will treat the matter as promptly as possible.

IV. Trade and commerce.

The Government of the Netherlands Indies state that, in view of the circumstances that the demand of Japanese industries on the products of the Netherlands Indies is rapidly increasing and the increasing import of Japanese articles will contribute towards the promotion of the welfare of the people of the Netherlands Indies, they recognize the importance of the position Japan is now occupying and will occupy in the future in the foreign trade of the Netherlands Indies, and will take the following measures to be effected for one year ending....., 1942.

1. (a) the quotas and or the percentages as shown in the attached Tables I and II shall be allotted to articles to be imported from Japan into the Netherlands Indies.

(b) Japanese importers in the Netherlands Indies shall be given import percentages ranging from ten to thirty percents according to the kinds of articles.

2. unconditional and prompt permission shall be given for the exportation to Japan of the products of the Netherlands Indies

mentioned in the attached list.

3. with regard to the import duties, export taxes, surtaxed and official prices (including the prices in the Price List), not only no discriminatory treatment shall be given to the articles imported from and or exported to Japan, but also favourable treatment shall be accorded to them.

V. In case neither the Government of Japan nor the Government of the Netherlands will give notice to terminate the above-cited measures three months before the expiration of the period of one year as mentioned above, the said measures will continue to be operative for successive years, unless notice will be given three months before the expiration of each year.
14 May 1941.

JAPANESE ECONOMISCHE DELEGATE

BATAVIA-CENTRUM.

JAVA.

Batavia-C.,.....

TABLE I

Statistical No.	Description of Article	(A) The percentage of the quantity of Japanese goods to the total quantity of foreign goods to be imported into the Netherlands Indies	(B) Minimum quantity of Japanese goods to be imported

251	Portlandcement en ander dergelyk cement: bouwcement, ongeacht be verpakking.	100	In 1000 kg bruto 130,000
132	Bier, afgetapt; ander dan stout	80	In 1000 liters 2,000
1543/1551	Cambrics	100	In 1000 meters 104,400
1552/1556	Cambric-shirtings, Elefants en Madapollem's	100	1,200
1557/1565	Shirtings en long-cloth	100	25,300
1566	Drillings, jeans en twills	100	20,500
1567/1569	Satteens, flanelen en gebleekte stoffen n.a.g.	100	12,500
1523 en 1524	Calicots	97	7,000
1525	Shirtings (supers) en andere n.a.g. effenbindige stoffen: breedts 29 inch en minder	97	2,000
1526	Idem: breedte 30/33 inch	97	10,300
1527 en 1528	Idem: breedte 34/36 inch	98	34,600
1529	Idem: breedte 37/41 inch	100	2,400
1530	Idem: breedte 42 inch en meer	100	29,100
1531 en 1532	Japansheetins: breedte 36 inch en minder	92	6,400
1533	Idem: breedte 37 inch en meer	100	3,500
1534	Drillings en jeans: van 32 draden en minder: breedte 22 inch en minder	100	—
1535	Idem: idem: breedte 23 inch en meer	100	7,600
1536	Idem: van 33 5/m 37 draden: breedte 30 inch en minder	100	In 1000 meters 400
1537	Idem: idem: breedte 31 inch en meer	100	170

「日、蘭印經濟交渉ノ部」

1538	Idem: van 38 draden en meer: breedte 28 inch en minder	100	360
1539	Idem: idem: breedte 29 inch en meer	100	9,200
1540	Ongebleekte stoffen, niet met gekleurd garen doorweven n.a.g.:- andere	85	—
740	Ijzer en ijzerlegeringen: gegoten braadpannen (z.g. Oosfpannen)	85	In 1000 kg bruto 200
466 en 1466	Vensterglas, gewoon, geheel doorschijnend en ongekleurd	87	In 1000 m ² 700
474 en 475	Drinkglazen, kristallen hieronder niet begrepen: waterglazen, ongekleurd, anders dan in stellen	100	In 1000 dozijnen 800
478 en 479	Stopflesschen, gewone	100	160
482 en 483	Lampegglazen, anders dan van mich	100	1,400
742/745	Ijzer en ijzerlegeringen: geëmailleerde casseroles, etensdragers, wascbekkens en waterketels	93	500
746	Idem: geëmailleerde borden vingerkommen, bekers, lepels en n.a.g. keukens- en tafeltgerei	93	In 1000 kg bruto 3,400
833	Rijwielen: ander dan motor-rijwielen	100	In stuk 26,000
834	Deelen van en toebehooren tot rijwielen, n.a.g.	100	In 1000 kg bruto 6,300
480	Gloeiperan, electrische: voor rijwiel- en zak- lantaarnlampen	71	In 100 stukken 7,500
1480	Idem: voor automobiellampen	88	230
2480	Idem: lampen voor gewone verlichting	98	4,400
908	Borstelmakerswerk: tandenborstels	80	In 1000 dozijnen 360

913	Messenmakerswerk: pennemessen	100	90
914	Idem: huishoud-, druiven-, toilet- en bloemenscharen, alsmede tondeuses	100	In 1000 kg bruto 100
915	Idem: huishoudmessen	55	In 1000 dozijnen 70
916	Idem: toiletmessen, met inbegrip van veiligheidscheermessen en bijbehoorende mesjes	96	In 1000 kg bruto 40
917	Idem: ander, n.a.g.	84	26
936	Petroleumlampen, gewone en n.a.g. deelen daarvan: hanglampen met blikkenkap	100	In 1000 dozijnen 20
937	Idem: hanglampen met glazenkap	100	—
938	Idem: muurlampen	100	300
939	Idem: n.a.g.	100	In 1000 kg bruto 180
1628	Bandhanddoeken	90	In 1000 dozijnen 360
1622	Katoenen moltondekens	100	In 1000 stukken 900
1624	Gemoltoneerde katoenen spreien (zoogenaande soldatendekens)	100	110
448	Sanitair aardewerk: verplaatsbaar sanitair aardewerk en n.a.g. deelen daarvan	80	—
449	Idem: vaststaand sanitair aardewerk: deelen van aardewerk	98	In 1000 kg bruto 340
1449	Idem: idem: andere n.a.g. deelen	98	130

423/435	Aardewer, grof, n.a.g. borden, kopjes met schoteltjes, schalen zonder/met deksel en soepterrines, spoelkommen en theepotten	100	In 1000 dozijnen
437/443 en 445	Idem: fijn en porselein, n.a.g. borden, dekschalen en soepterrines met deksel, kopjes met schoteltjes en theepotten		3,900
436	Aardewerk, grof, n.a.g.: ander	50	In 1000 kg bruto 660
444, 446 en 447	Aardewerk, fijn, en porselein, n.a.g.: eetkommen en lepels, chineesche, en ander; en Serviezen en serviesdeelen, zoo-mede n.a.g. toilettafelartikelen, en alle andere n.a.g. luxe voorwerpen van aardewerk of porselein, al of niet met metaal gemonteerd	90	3,600
418	Zeepp: toiletzeep, al of niet geparfumeerd, n.a.g.	50	In 1000 kg bruto 700
419/421	Idem: waschzeep, en andere, n.a.g. (w.o. medicinale zeep)	66	560
1511/1512	Naigarens: katoenen op klossen	100	In 1000 meters 6,500,000
1513/1514	Idem: katoene op kluwen	100	In 1000 kg bruto 500
1517	Idem: n.a.g.	100	110
620	Pakpapier: andere die niet onder 619 valt	97	12,000
1570	Geverfde stoffen, n.a.g. cambrics	100	In 1000 meters 34,000
1571	Idem: drillings, jeans en twills: breedte 26 inch en minder	100	500
1572	Idem: idem: breedte 27/28 inch, van 32 draden of minder: geheel zwart	100	46,000
2572	Idem: idem: idem: andere	100	21,200
3572	Idem: idem: breedte 27 inch en meer, van 33 draden en meer	93	12,300

4572	Idem: idem: breedte 29 inch en meer, van 32 draden en minder	85	—
1573	Idem: satteens, Italians, lastings en venetians, alsmede gebrocheerde daarvan	100	1,200
1574	Idem: flanelen	100	1,000
1575	Idem: andere, en gebrocheerde daarvan; breedte 24 inch en minder: van 32 draden of minder	96	23,400
2575	Idem: idem: van 33 draden of meer	84	—
1576	Idem: breedte 25 inch en meer	100	30,900
1577	Gedrukte stoffen, n.a.g.: drillings, jeans en twills: breedte 28 inch en minder, van 33 draden of minder, waarvan het dassin wordt gevormd door in kettingsrichting onderbroken recht doorlopende strepen	100	In 1000 meters 24,200
2577	Idem: idem: andere	100	—
1578	Idem: satteens	100	—
1579	Idem: flanelen	100	—
1582	Gedrukte stoffen, al of niet tevens geveerd of gedechargeerd, n.a.g., andere: breedte van 24 inch en minder; van 32 draden of minder	100	In 1000 meters 86,400
2582	Idem: idem: van 33 draden of meer	96	—
1583	Idem: breedte 25 inch en meer	100	33,300
1584	Bontgeweven stoffen, n.a.g.: drillings, jeans en twills: met wit fond, breedte 24 inch en minder, van 33 draden of minder	100	69,400
2584	Idem: idem; ander	100	900
1589	Idem: glanelen	98	—
1590	Idem: beddetijk (bedcloth)	100	6,700

1591	Bontgeweven stoffen n.a.g., andere: breedte 24 inch enminder; van 26 draden of minder	98	8,900
2591	Idem: breedte 24 inch en minder; van 27 draden of meer	96	—
1592	Idem: breedte 25 inch en meer	98	18,200
1594	Klamboegoed en -tule	100	5,800
1596	Voile en halfvoile	100	3,700
2596	Ajour-geweven, met goud of zilver bedrukt, met gemerceriseerde, kunstzijden of andere garens samengesteld, of op ander wijze dan door drukken of dechargeeren versterd	100	2,500
1597/1608	Sarongs, kains pandjang, standangs, hoofd-, draag-, of sleutel- en dergelijk doeken	95	In 1000 corge 200
1610 en 1613	Manufacturen: van wol en halfwol, n.a.g.	100	In 1000 kg bruto 310
1616	Idem: van zijde, n.a.g.	89	80
1617	Idem: van halfzijde, n.a.g.	100	310
1618	Idem: van kunstzijde en halfkunstzijde, n.a.g. (al of niet stepelvezels inbegrepen)	100	In 1000 kg not 3,200
1619 en 1620	Idem: van linnen en halflinnen: n.a.g.	100	In 1000 kg bruto 260
2621	Manufacturen van andere samenstelling: uit katoen met jute	100	360
1623	Wollen en halfwollen dekens	95	40
1625	Dekens en spreien: n.a.g.		
1626 en 1627	Tafel- en servetgoed, vinger-, hand-, vaat-, thoe-, stof- e.d. doeken, n.a.g., zoowel afgepast als aan het stuk, beddelakens en sloopen: katoenen, linnen en halflinnen		90

1630	Zakdoeken: witte, van katoen, linnen of halflinnen: met een oppervlakte van 400 vierkante inches en minder	98	In 1000 dozijnen
2630	Idem: idem: andere	100	110
2631	Idem: bontgeweven, van katoen, linnen of halflinnen: met een oppervlakte van 400 vierkante inches en minder	98	220
3631	Idem: idem: andere	100	—
1631	Zakdoeken: andere, n.a.g.	100	950
1632	Fluweelen en pluchen kleeding-stoffen: katoenen	100	In 1000 kg bruto 270
1633	Idem: n.a.g.	100	140
2637	Gordijn-, meubel- en behang-stoffen	100	450
588 en 589	Gebreijde en tricotgoederen, n.a.g.: katoenen borstrokken, netmenden en andere	91	4,100
959 en 961	Automobiel- en motorrijwiel-banden: buitenbanden	78	690
960 en 962	Idem: binnenbanden	75	80
586	Bovenkleeding, n.a.g.: voor mannen en jongens	59	120
587	Idem: voor vrouwen, meisjes en kleine kinderen	95	130
590	Onderkleeding, n.a.g.: katoenen hemdblouses	100	—
591	Idem: andere, met uitzondering van gebreid goederen	90	880
596	Kleederen en kleedingstukken, andere, n.a.g. (sjaals, halsdoeken, voiles e.d. hieronder begrepen)	97	55
600	Hoeden, v.a.s. (dameshoeden, heerenhoeden, en bamboehoeden niet inbegrepen)	98	In 1000 stukken 2,170

TABLE II

Statistical No.	Description of article	(A) The percentage of the quantity of Japanese goods to the total quantity of foreign goods to be imported into the Netherlands Indies	(B) Minimum quantity of Japanese goods to be imported
100	Visch: sardines in blikken	84	In 1000 kg bruto 9,900
1422	Cellophaanpapier en andere dergelijke voor gelijke doeleinden dienende fabrikaten	100	500
477	Flesschen, gewone, al of niet met beugelsluiting	90	In 1000 dozijnen 1,300
486	Vaat-, beker, flesch- en ander hol glaswerk, n.a.g.	96	In 1000 kg bruto 2,900
506	Houtwerk: triplexkisten: houtwerk	98	In 1000 stuks kisten 3,000
2506	Idem: idem: fittings	100	In 1000 kg bruto 2,700
249	Weefgarens: van katoen	87	10,000
550	Idem: van zijde	70	200
2550	Idem: van kunstzijde	100	2,000
3509	Idem: van kunstzijde al den niet getwijnd; geheel staple fibre	100	2,000
556/559	Borduur-, haak-, en andere n.a.g. garens voor vrouwelijke handwerken: van katoen, van wol, van zijde, van kunstzijde en n.a.g.	100	920

579	Manufacturen: borduursel, borduurwerk, kant, kantwerk en passementerie	98	500
592/593	Kousen en sokken: katoenen, gewone, effenbindige en n.a.g.	70	In 1000 dozijnen 200
2625	Sigarettenpapier: in vellen	98	In 1000 kg bruto 700
875	Werktuigen en toestellen, n.a.g. en n.a.g. deelen daarvan: voor de textielnijverheid	100	2,500
1894	Batterijen voor zak- en rijwiellantaarns	50	In 1000 stukken 6,000
986	Hoed-, schoen- en kledingfournituren, andere dan knopen, voor zoover geen modewaren	95	In 1000 kg bruto 300
995	Speelgoed	92	2,000

附錄 第八號

我方第二次要求附屬ノ蘭印物資買付案(昭和十六年五月廿日)

(邦譯文)

第三表

(單位 施)

品 目	蘭印物資買付量
1、 珈 琲	四八〇
2、 木 材	六五、〇〇〇
3、 縞 黑 檀	三四〇

四 「日、蘭印經濟交渉ノ部」

22、工業鹽	21、滿俺鑛	20、ニツケル鑛	19、ボーキサイト	18、錫鑛(七三%以上錫ヲ含ムモノ)	17、錫	16、生護謨	15、砂糖	14、タンニング材料	13、棉花	12、屑鐵(銑力屑ヲ含ム)	11、パーム油	10、籐	9、カツサバ、ルート	8、コブラ	7、玉蜀黍	6、カポック種子 棉種子	5、カポック(種付ヲ含ム)	4、ダマル及コパール
一〇〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一八〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇	一、六〇〇	六〇、〇〇〇	一二、〇〇〇	一、〇〇〇	八、〇〇〇	二五、〇〇〇	八〇、〇〇〇	五、五〇〇	一、〇〇〇	一、四五〇	

四 「日、蘭印經濟交渉ノ部」

23、ヒマシ	六、〇〇〇
24、規那皮	六〇〇
25、キニーネ	八〇
26、鑛油	一、八〇〇、〇〇〇
差當リ一百八十萬屯ト記入シタル上「蘭印政府ニ於テ増産其他ノ方法ニ依リ三百八十萬屯ニ達スル迄對日輸出方盡力スヘキ旨竝ニ日本政府ハ少クモ五ヶ年間毎年三百八十萬屯迄買付クル用意アリ」ト附記セリ	
27、ピッチ・コークス	二五、〇〇〇
28、黃麻	一、三〇〇
29、糖蜜	六〇、〇〇〇
30、蜜蠟	
31、豆類	
32、ココア	八〇〇(千圓)
33、貝殻	
34、蒟蒻芋	
35、モリブデン鑛、クローム鐵鑛、タンゲステン鑛、雲母(高級品)ニ付テハ對日輸出上蘭印政府カ積極的努力ヲ爲スコトヲ確約セラレ度	
36、サイザル	四〇、〇〇〇(施)

本表末尾ニ於テ左ノ通附言セリ

日本代表ハ五月十四日附日本側覺書ニ對スル蘭側回答カ「フェボラブル」ナルニ於テハ二月三日附蘭側覺書ニ於ケル蘭

側希望ニ顧ミ蘭印物資ノ日本ヘノ輸入特ニ砂糖及珈琲ニ付本表ニ掲記セル數量以上ニ增量買付方日本政府ニ進言スヘシ

JAPANSCH E ECONOMICHE DELEGATIE

BATAVIA-CENTRUM.

JAVA.

Batavia-C.,

TABLE III.

Description of articles.	Quantity in 1000 kg.
1. Coffee	480
2. Wood	65,000
3. Ebony with white streaks	340
4. Dammar and Copal	1,450
5. Kapok fibre (including kapok fibre in the seed)	1,000
6. Kapok seed and Cotton seed	5,500
7. Indian corn	80,000
8. Copra	25,000
9. Cassava-root	8,000
10. Rattan	1,000
11. Palm oil	12,000

12. Scrap iron (including scrap of tinned steel sheets)	60,000
13. Cotton	1,600
14. Tanning materials	4,000
15. Sugar	100,000
16. Rubber	20,000
17. Tin	
18. Tin ore (containing 73% or more tin by weight) }	3,000
19. Bauxite	400,000
20. Nickel ore	180,000
21. Manganese ore	20,000
22. Salt	100,000
23. Castor seed	6,000
24. Cinchona bark	600
25. Quinine	80
26. Mineral oil	1,800,000

The Government of the Netherlands Indies are requested to make, through their influence, the oil companies concerned to increase the quantity of export of mineral oil to Japan up to 3,800,000 tons per annum by providing means of increasing production, by appropriating quantities, if any, which are allocated to countries other than Japan but are rendered undeliverable, or by any other means.

The Government of Japan are prepared to purchase mineral oil from the Netherlands Indies up to 3,800,000 tons per year for the duration of at least five years and request that the Government of the Netherlands Indies will prevail upon the oil companies to enable them to make new contracts with Japan for quantities considerably larger than those in the present contracts.

27. Pitch cokes	25,000
28. Jute (refined)	1,300
29. Molasses	60,000
30. Beeswax	
31. Beans and pease	
32. Cocoa	Value in 1000 yen.
33. Shells of mollusca	800
34. Amorphophallus tubers	
35. The Government of the Netherlands Indies are requested to take positive measures for promoting the export of scrap iron, molybdenum ore, chrome iron ore, wolfram ore and mica (high quality) to Japan.	(February)
36. Sisal fibre	In 1000 kg.
	40,000

N.B. In view of the wishes of the Netherlands Delegation expressed in the memorandum of the 3rd., January, 1941, about the imports to Japan of the products from the Netherlands Indies, especially sugar and coffee, the Japanese Delegation will advise the Japanese Government to increase the imports of the said products as more as possible than the quantities mentioned above, if the reply from the Netherlands Delegation to the Japanese memorandum of the 14th., May, 1941, will be favourable.

附錄 第九號

石油鑛區ニ關スル我方最後の要求(昭和十六年五月二十二日)

JAPANSCH E ECONOMICSCHE DELEGATIE

BATAVIA-CENTRUM.

JAVA.

Batavia-C.,

MEMORANDUM

The Japanese Delegation request the Netherlands Government that they will give B.O.M. concession of mineral oil exploration and, when oil is found, of exploitation thereof in the following three districts as has been already applied, viz:-
279,000 h.a. in Sangkoelirang districts.

(The Netherlands Government will keep remainder of 1,300,000 h.a. in Mangkaliat Peninsula as the sphere of interest of B.O.M. for future extension of concession).

121,400 h.a. called "Banggai-Block"

in Celebes opposite the Isle of Pelang.

600,000 h.a. to be chosen out of 1,300,000 h.a. in North-East of New Guinea.

22 May 1941.

蘭側回答(昭和十六年六月六日)

(假譯)

覺 書

前文

一九四一年五月十四日及二十一日日本經濟代表部ヨリ提示セラレタル覺書類ヲ檢討セル處和蘭代表部ハ日本側提案ガ會商ヲ通ジ問題トナリタル各種ノ點ニ付徹底のニ論議セラレタル結果ニ基キ數個ノ點ニ於テ修正セラレ居ルコトニ満足ス是等修正ハ日本側原案ヲ現在ニ於ケル非常事態ノ緊急ノ必要ニ適應セシメ且和蘭代表部ガ日本側原案中蘭印經濟政策ノ諸原則ニ背馳スルモノ多々アリトノ理由ニ基キ提起セル種々ノ反對ヲモ或程度迄容認セントスル日本代表部ノ努力ノ結果ナリト認メラル

然レ共和蘭代表部ハ日本政府ノ見解ガ依然トシテ是等原則ニ著シク背馳スルモノアルヲ遺憾トセザルヲ得ズ

即チ一九四一年五月十四日ノ日本側覺書ニ依レバ日本政府ハ依然一九四一年一月十六日ノ覺書ノ前文ニ開陳セラレタル種々ノ見解ヲ固執ス是等見解ハ蘭印ノ天然資源ノ開發不充分ナリトノ想像及蘭印ト日本帝國トハ相互依存ノ關係ニ在リトノ臆斷ニ基クモノナルヲ以テ之ヲ實踐ニ移ス場合蘭印ニ於テ日本ノ經濟的特殊地位ヲ造成スルニ至ルベキハ明カナリ

故ニ茲ニ再ヒ一九四一年二月三日ノ和蘭側覺書中ニ開陳シタル蘭印ニ關スル和蘭政府ノ基本的經濟政策ニ言及スルコト適當ナルベシ即チ和蘭ノ政策ハ住民ノ福祉、進歩、解放ノ助長及友好國ニ對スル無差別待遇竝ニ如何ナル特種ノ活動分野ニ於テモ優越的ナル外國利益ノ設定セラル、ヲ防止スルコトニアリ

蘭印ハ其本國ノ援助ヲ得テ大体充分ニ其ノ經濟生活ノ發達及資源ノ開發ヲナシ得ヘキ經濟發達ノ段階ニ到達セリト言フヲ得ベク此ノ方法ニ依ルコトカ住民ノ願望ニモ合致スルモノナリ故ニ外國利益ヲ余リ寛大ニ許容スルコトニ依リ其ノ進展ヲ阻害セザル様注意ヲ拂フノ要アリ和蘭本國ハ素ヨリ爪哇及蘭印ノ其ノ地域ニ於ケル人口ハ稠密ナルニ依リ出來得ル限り王

國臣民ノ利益ノ爲ニ蘭印ノ經濟資源ヲ開發シ其ノ勞働市場ヲ保留スルノ必要益々緊切トナル

他面ニ於テ右政策ハ外國人ノ企業ト雖モ一旦蘭印ニ設立セラレタル上ハ同種ノ內國人企業ト同一ノ規則ニ服シ且同種ノ便宜ヲ供與セラル、モノナルコトヲ意味ス但シ當該外國人ノ本國力在留和蘭臣民ノ利益ヲ右ト同一ノ精神ヲ以テ待遇スルコトヲ條件トス

是等一般經濟政策上ノ諸々ノ考慮ハ別トシ蘭印ト諸外國トノ關係ハ戰爭繼續中貿易其ノ他ノ經濟活動ニ對スル種々不可避免ナル制限ニ依リテ影響ヲ蒙ラサルヲ得ス是等制限ハ直接間接ノ利敵行爲ヲ防止シ蘭印國防ノ安全ヲ確保シ竝ニ王國及其ノ同盟國ノ戰爭遂行ノ努力ヲ促進センガ爲ニシテ其ノ性質上臨時的ノモノナリ

日蘭兩國政府間ニ^(備考)蹣ルカ如ク見ユル一般の概念ノ相違ニ拘ラス和蘭代表部ハ最近ノ日本側覺書ニ提起セラレタル個々ノ問題ニ付其ノ執リタル態度ノ合理性ノミナラズ種々ノ點ニ於テ日本ノ利益ニ對シテ開カレアル實際上ノ可能性ニ關シテモ再ヒ日本代表部ヲ納得セシムルノ努力ヲナスコトヲ望マシト思考ス

依テ是等個々ノ問題ニ關スル和蘭政府ノ見解ヲ左ニ開陳ス

I、日本人ノ入國

(A)、「外國人勤勞條例」ノ目的ハ蘭印ノ住民ノ爲出來得ル限り同領ニ於ケル職業ヲ保留セントスルニ在リ從テ外國人ニ對シテハ唯特殊ノ地位ニ其ノ勞働ガ必要ト認メラレ且之ニ和蘭臣民ヲ得ルコト能ハザル場合ニノミ勞働許可ヲ與フ加之關係雇傭者ハ將來ニ於ケル缺員ヲ充タス爲出來得ル限リ和蘭臣民ニ對シ充分ナル實際的訓練ヲ施スベキモノナリトノ了解アリ外國人雇傭ノ要求ハ常ニ寛大ニ審査セラレ居リ此ノ方針ハ今後モ之ヲ持續スベシ和蘭政府ハ勞働許可申請ノ取扱ニ付各關係當局ヨリ意見ヲ徵スルノ必要及時ニ地方的調査ヲ爲スノ必要アル場合ニモ出來得ル限り之ヲ迅速ナラシメンコトヲ期ス

本件ハ極メテ重大ナル利害關係アルヲ以テ和蘭政府カ右條例ノ根本原則ヲ考慮ニ入ル、コトナク多數ノ外國人ニ對シ

勞働許可ヲ下付スヘシトノ保障ヲ與フルコトハ如何ニスルモ不可能ナリ故ニ日本側覺書ニ要求セラレタルガ如ク割當ノ最大限度迄日本人ノ入國ヲ許可スヘシトノ無條件の保障ハ之ヲ與フルコトヲ得サルノミナラス斯クノ如キコトハ他ノ諸外國ニ對スル許スヘカラサル差別待遇トナルヘシ

(B)、此ノ點ニ關連シ或ル勞働許可ノ下付カ前顯割當ニ包含セラルヘキヤ否ヤノ問題ニ付テハ更ニ討議スルコトヲ必要トセサルカ如シ

(C)、和蘭政府ハ專ラ在留日本人ヲ診療スベキ日本人醫師ノ蘭印入國方ニ付テハ在留日本人ノ數ヨリ見テ之ヲ妥當トスルカ如キ場所ニ於テ開業スルノ目的ヲ以テ其ノ嚴格ニ限ラレタル數ガ入國スルヲ許可センカ爲現行規則ノ改正方ニ付好意的考慮ヲ拂フノ用意アリ右醫師ノ診療ヲ日本人企業ニ働ク凡テノ從業員又ハ使用人ニ及ホスコトハ適當ナラス蓋シ其ノ大多數ハ日本人ニアラサレバナリ

II、企業及營業

外國人ノ單獨又ハ和蘭人トノ合辦ノ企業ノ新設ニ付テハ斯カル企業カ前文ニ述ヘラレタル方針ノ範圍内ニ於テ蘭印ノ經濟開發ニ相當ノ貢獻ヲ爲スベシト關係當局ノ認ムル限り之ヲ許可スベシ

(A)、以上述べタル所ハ蘭印ニ於ケル鑛業ニ對スル外國人ノ參加ニ付テモ亦該當ス蘭印ニ於ケル鑛油ノ試掘、採掘ニ對スル日本人ノ參加方ニ關シ日本經濟代表部ノ爲サレタル要求ニ對スル回答ハ本覺書ノ第一附屬書ニ見出サルベシ

(B)、漁業及漁業關係産業ノ發展ハ土人ノ爲ニ保留セラルベキモノナルニ依リ和蘭政府ハ外國人ニ對シ水産業ニ關スル許可ヲ與ヘ又ハ便宜ヲ供與シ得ルノ地位ニ非ス尤モ特殊ノ事情ノ下ニ於テ或ル外國人申請者ニ對シ斯クノ如キ便宜ヲ供與シ得ル可能性アリヤ否ヤハ各個ノ申請ヲ其レ自身ノ價值ニ依リテ審査シ以テ各場合ニ付別々ニ考慮セラルベキモノナリ國防上明ラカナル理由ニ依リ和蘭政府ハ當分斯クノ如キ便宜ヲ供與スルコトヲ得サルベシ

(C)、以上蘭印ニ於ケル企業ニ對スル外國人ノ參加ニ付テ述べタル所ハ日本側覺書ノ第二節(ハ)ニ指示セラレタル商業竝ニ

倉庫業及其ノ他各種營業ニ付テモ該當ス經濟活動ノ是等部門ハ和蘭臣民ノ爲ニ大ナル程度迄保留スルコト必要ナリ蓋シ和蘭政府ニトリテ經濟政策上ノ主要問題ノ一タル地方民ノ商業及産業教育ニ付殊ニ商店、小倉庫、小工場ノ如キ小商業其ノ他ノ企業ハ其ノ機會ヲ與フルモノナレバナリ

Ⅲ、交通通信

(A)、和蘭政府ハ盤谷、西貢及其ノ他ノ地點ニ於ケル日蘭航空路ノ連絡改善方ニ付日本政府ト協力スルノ用意アリ然レドモ和蘭政府ハ蘭印内及諸外國トノ間ノ航空運輸ノ將來ニ於ケル發展ハ幾多不確定ナル要素ニ依存シ從テ現在ノ事情ノ下ニ於テハ本件ニ付何等約束ヲ爲スコトヲ得ストノ見解ヲ有ス

(B)、無線電信連絡ノ現在ニ於ケル進歩ヲ考慮スレバ和蘭政府ノ見ル所ニテハ日蘭印間ニ高價ナル海底電線ニ依リ電信連絡ノ重複ヲ行フヘキ何等ノ理由無シ「マラバル」日本間ノ無線通信ノ改善力必要ナル場合ニハ和蘭政府ハ必要ナル協力ヲ爲スノ用意アリ右無線通信ニ加ヘ「ヤツプ」「メナド」間海底無線利用ノ措置ヲ講スルコトヲ必要トスル理由ハ何等之ヲ認メサルノミナラス右海底電線ノ修理狀態ハ甚ダ不良ニシテ之ヲ使用スルカ爲ニハ費用ノ嵩ム大々的ナル修繕及改良ヲ必要トス

(C)、蘭印ニ於ケル沿岸航行ハ自國海運ノ助長保護ノ爲外國船ニ對シテハ原則トシテ之ヲ禁止シ居レリ或ル日本船ヲ含ム特定ノ例外ハ現行海運法施行ノ際既ニ存在シ居タル海運業者ニ許與セラレタル最大限度ノ讓歩ト認メラルヘキモノナリ然レドモ和蘭政府ハ外國船沿岸航行權保有者ニ對シ船型、隻數、噸數ニ關スル現行制限内ニ於テ其事業ノ維持ニ必要ナル便宜ヲ引續キ供與スヘシ

(D)、特定產物ノ輸出又ハ一般通商目的ノ爲ニスル不開港場ノ開放ハ利用シ得ヘキ船便トノ關係ニ於テ當該地方ノ現實ノ必要如何ニ依ルモノニシテ個々ノ場合ニ付其レ自身ノ價值ヲ檢討シ且各外國船ニ對スル無差別主義ニ則リテ決定セラルヘキモノナリ

(E)、前項ハ外國船ノ不開港場寄港ニ關スル許可ニ付テモ亦適用アリ

IV、貿易及商業

蘭印ノ繁榮ハ多數國トノ貿易ニ依存スル所大ナルカ故和蘭政府トシテハ其ノ輸入ヲ輸出ニ關スル緊急狀態ニ適應セシムルコトニ付キ出來得ル限り其ノ行動ノ自由ヲ保持スルコト極メテ重要ナリ

加之戰爭ノ繼續中ハ外貨ノ浪費ヲ避クル爲輸入ニ對シ嚴重ナル管理ヲ實行スルト共ニ蘭印ヨリノ輸出カ軍事的價值アル資材ノ敵國ヘノ供給ニ何等役立ツカ如キコトヲ防止スル爲輸出ニ對シテモ同様嚴重ナル管理ヲ實行スルノ必要アリ國家存立ノ爲現在戰ヒツ、アル和蘭トシテハ是レ以外ニ途ナキコトハ必スヤ日本政府ニ於テモ之ヲ諒解セラルヘシ

是等ノ考慮ハ別トスルモ急變シツ、アル國際情勢ハ長期ニ亘ル各種物資ノ確定數量ノ輸出入ニ關スル正式ニシテ且拘束力アル協定ヲ締結スルコトヲ不得策ナラシメ居レリ尤モ他方ニ於テ諸々ノ事情及國家ノ死活的利益ノ許ス限り急激ナル變更ハ之ヲ避クルコトカ和蘭政府ノ通商政策ニ合致スル所以ナリ而シテ此ノ政策カ日、蘭印間ノ相互的ニ重要ナル貿易ニ關シ遵守セラル、モノナルコトニ付テハ日本政府ニ於テモ安心セラレ度シ

1、(A)、蘭印ノ輸入貿易上ニ於ケル日本ノ利益ニ關シテハ充分考慮ノ上合意成立シ右ハ所謂「ハルト」・石澤協定及「フアン・モーク」・小谷協定トシテ具体化セラレタリ和蘭政府ハ是等協定ヲ改訂スルノ要ヲ認メス右協定ハ依然其ノ效力ヲ有ス

現在ノ不安定ナル事情ノ下ニ於テハ向フ十二ヶ月ト雖モ如何ナル特定國ヨリ輸入セラルヘキ或ル特定商品ノ數量ニ付テモ何等ノ約束ヲ爲スコト不可能ナルカ如ク見ユ然レドモ和蘭政府ハ若シ日本政府カ日本ニ於ケル生産ノ調整ヲ圖ランガ爲希望セラル、ニ於テハ和蘭政府ガ向フ六ヶ月間ニ於テ其ノ選擇ニ從ヒ諸國ヨリノ輸入ニ對シテ許可ヲ與フベキ物資ノ數量ヲ明示スルノ用意アリ日本ヨリノ輸入ニ對スル許可ハ右選擇ニ基キ且價格及引渡條件ノ點ニ於テ他國品ト競爭シ得ルモノナル限り之ヲ與フヘシ而シテ是等ノ數量ハ蘭印ノ實需ニヨリテ決定セラルヘキモノナリ

(B)、和蘭政府ハ蘭印ニ於ケル日本人輸入業者ノ地位ハ既ニ前記協定ノ基礎ノ上ニ満足ニ解決セラレタル次第ニシテ又

此ノ割當ハ他ノ利害關係者ニ不當ニ不利ヲ蒙ラシムルコトナクシテハ増大シ得ラレザルモノナリトノ見解ヲ保有ス

2、戰爭ノ必要上和蘭政府トシテハ向フ十二ヶ月間ノ如キ長期ニ亘リ各種物資ノ輸出ニ對シ無條件ニ許可ヲ與フル如何ナル義務ヲモ負フコト不可能ナリ尙之ヨリモ遙カニ短期間ニ對スルモノト雖モ右ノ點ニ關スル政策ニ付テノ如何ナル言明モ和蘭政府ニ於テ其ノ完全ナル實施ガ直接又ハ間接敵國ノ利益トナリ或ハ和蘭王國及其ノ同盟國ノ利益ヲ害スト認ムル場合ニハ其ノ拘束力ヲ失フベシトノ條件ニ從フヘキモノナリ

然レドモ和蘭政府ハ日本政府トシテ見レバ蘭印ヨリノ輸入力全然不確定ナルニ於テハ之ニ應ジテ其國內經濟政策ヲ調整スルコト困難ナルヲ了解スルカ故ニ和蘭政府ハ現在ノ事態ニ關スル其ノ見解ニ基キテ決定セラレタル一九四一年度ノ輸出制限ニ關スル其ノ意嚮ヲ既ニ述ヘタル明確ナル條件附ニテ言明スルコトニ何等ノ異議ヲ有セス右言明ハ本覺書ノ第二附屬書ニ之ヲ掲ゲタリ和蘭政府ハ其ノ輸出品ニ關スル戰爭上ノ緊急ノ必要ニ付唯一ノ判定者タルノ權利ヲ有スルモノナルコトヲ指摘セサルヘカラスト雖モ國際交通ノ通常ノ經路ハ依然開キ殘サレ之ヲ通シテ事實ト苦情トニ對スル考慮力拂ハル、次第ナルコトハ特ニ言フヲ俟タザルベシ

3、輸入税、輸出税、附加税及公定價格ニ付テハ日本ヨリノ輸入物資及日本ヘノ輸出貨資ニ對シ無差別ノ原則ニ從ヒ凡テノ他國ヨリノ輸入物資及凡テノ他國ヘノ輸出貨資ニ對スルト同一ノ待遇ヲ與フヘシ

V、協定期限

期限條項ハ現在行ハレ居ル意見交換ノ結果協定ノ締結トナル場合ニ文書ノ起草ト同時ニ之ヲ考慮スルコトヲ得ベシ

VI、蘭側提議

和蘭代表部ハ日本政府ニ於テ經濟關係ノ増進ニ對スル其ノ寄與トシテ左記各項ヲ採用セラレンコトヲ提議ス

1、周知ノ如ク日本帝國及其ノ近接地域ニ於テ砂糖不足シ居ル事實アルカ故ニ日本政府ハ一九四一年ノ殘期間中年十五

萬噸ノ割合ニ於テ爪哇糖ヲ輸入スルノ措置ヲ執ルヘキコトヲ約セラレタシ

2、右期間中ニ蘭印ヨリ日本ヘ輸入セラルヘキ黑檀ノ數量ハ之ヲ年二千噸ノ割合トセラレ度シ右數量ハ猶正常輸入量ノ約五割ニ過キズ

3、日本政府ハ一九四一年ノ殘期間中年一千噸ノ割合ニ於テ蘭印ヨリ珈琲ヲ輸入スル措置ヲ執ラレ度シ

4、日本政府ハ日本ニ在ル和蘭人又ハ和蘭會社ニ歸屬スル圓殘高全部ヲ日蘭印間ノ經濟交通ニ關係アル如何ナル合法的取引ニモ之ヲ使用シ得ル様措置セラレ度シ

5、日本政府ハ日本ニ在ル和蘭人及和蘭會社ニ對シ其ノ貿易ガ支障無ク行ハル、様蘭印ニ在ル日本人及日本會社ニ與ヘラル、ト同様ニ必要ナル自由ヲ與フベシ

第一附屬書

和蘭政府ハ「マンカリアット」半島ヲ將來B. O. M. ノ石油利權ノ延長セラルコトアルヘキ利益範圍ト認メツツB. O. M. ノ一九四二年二月十七日附申請ノ對象タル「サンクリラン」地方ニ於ケル二七八、〇〇〇「ヘクタール」ノ石油鑛區試掘權ヲB. O. M. ニ許與スルコトニ何等ノ異議ヲ有セス

「パンガイ・ブロック」及東北「ニューギニア」ニ於ケル試掘ニ對スル同日附申請ニ付テハB. O. M. ノ活動力其ノ利權ノ擴張ヲ正當トスルニ充分ナル程發展ヲ遂ケタルカ如キ時期ニ考慮スヘク之ヲ保留シ置クヘシ和蘭政府ハ是等地域ニ於ケル利權ニ關シ今後現ハルコトアルヘキ申請者ニ對シ之ヲ許與スルニ先タチB. O. M. ノ既ニ提出セル申請ヲ慎重審査スヘシ

第二附屬書

五月十四日附日本代表部ノ覺書添附ノ第三表ニ列記セラレタル蘭印產各種物資及其ノ數量ノ日本向輸出ニ付テハ左ノ如ク

開陳スルコトヲ得(左記陳述ハ第三表ニ列記セラレサル物資ニ對シ毫モ輸出制限及割當ノ適用ヲ除外スルモノニ非サルコトヲ何等誤解ヲ避クル爲特ニ附記ス)

和蘭政府ハ現在ノ事情ノ續ク限り且左ニ記載セラルル措置ノ完全ナル實施カ直接ニモ間接ニモ敵國ノ利益トナラス又和蘭王國及其ノ同盟國ニ有害ナラスト其ノ判斷ニ依リテ認ムル限リ一九四一年ニ於テ左ノ措置ヲ執ルノ意嚮ナリ

(A)、第三表ニ記載セラレタルモノノ内左記各物資ニ付一九四一年中ニ輸出セラルヘキ總量カ左記各數量(單位「メトリツク、トン」)ニ達シ得ルカ如ク一九四一年中ニ於ケル日本帝國向輸出割當ヲ維持シ又ハ設定スルコト

16	生 護 謨	一五、〇〇〇
17—18	錫及錫鑛(錫含有量)	三、〇〇〇
20	「ニツケル」鑛	一五〇、〇〇〇
22	「ヒマシ」	六、〇〇〇
24	規 那 皮	六〇〇

(B)、第三表ニ記載セラレタルモノノ内左記各物資ニ付一九四一年ノ殘期中ニ於ケル日本帝國向輸出ノ各月割當ヲ左ニ列記(單位「メトリツク、トン」)セル數量ニ定ムルコト

4	樹脂「ダマル」 「コバル」	一二五
5	「カポツク」纖維(種付ヲ含ム)	一〇〇
6	「カポツク」種子及棉子	五〇〇
8	「コプラ」(椰子油中ノ相當量ヲ含ム)	一、六五〇
10	籐	一〇〇
11	「パーム」油	一、〇〇〇

14 「タンニン」材 一二五

19 「ボーキサイト」 二〇、〇〇〇

21 滿 俺 鑛 五〇〇

25 「キニーネ」(純量) 五

28 黃麻(精製セルモノ) 一二五

(C)、日本側覺書第三表ニ記載セラレタル物資中本附屬書ノ(A)及(B)ニ記載セラレ居ラサルモノノ日本帝國向輸出ニ付テハ左ノ留保ヲ附シ其ノ割當ヲ定ムルコトハ之ヲ避クルコト

屑鐵ニ付定メラレアル輸出割當ハ無制限輸出ノ場合起ルヘキ價格昂騰ノ結果トシテ鐵類ノ大規模盜難ノ行ハルルヲ防止スル爲ノ措置ト見ラルベキモノナリ右以外ノ點ニ付テハ國內消費又ハ和蘭ノ同盟國向トシテ必要ナラサル限り屑鐵ノ對日輸出ニハ別ニ反對ナシ

玉蜀黍ノ對日輸出ニ付テモ前記末段ノ留保ハ附スルモ之ニ何等ノ反對ナシ

鑛油及同製品ノ對日輸出ノ増量ハ日本輸入業者ト石油生産會社トノ交渉ニ俟ツベキ事項ナリ和蘭政府ハ石油資源ノ現狀ハ生産ノ増加ヲ許サストノ意見ナリ「ピッチコークス」ノ輸出ニ付テモ右ト同様ナリ

糖蜜ニ付テハ日本側覺書第三表ニ記載セラレタル數字ニ依レハ日本政府ハ蘭印ヨリ正常量ノ三十倍以上ノ輸入ヲ計畫セラレ居ル處本件ニ付テハ未タ確定的ナル意見ヲ開陳シ難シ「サイザル」ニ付テハ日本側ノ輸入希望量ハ正常量ノ二十五倍ナル處之ニ付テモ右ト同様ナリ

「モリブデン」鑛、「クローム」鑛、「タングステン」鑛、雲母(高級品)ノ採掘ニ關スル資料ニ依レハ大ナル輸出ノ可能性無キカ如シ

NEDERLANDSCHE DELEGATIE
VOOR DE ECONOMISCHE
ONDERHANDELINGEN MET JAPAN

BATAVIA (C)., June 6th 1941.

MEMORANDUM

Preamble.

From the memoranda, presented by the Japanese economic delegation on May 14th and 22nd 1941, the Netherland delegation have noticed with satisfaction that the Japanese proposals have been modified in several instances after the thorough discussion of the various points at issue in the course of the negotiations. They value these modifications as a result of the endeavours of the Japanese delegation to adapt the Japanese proposals, as originally formulated, to the exigencies of the present abnormal circumstances, and to meet to a certain extent the objections raised by the Netherland delegation on account of the incompatibility of a number of those proposals with the principles of economic policy in the Netherlands Indies.

Nevertheless the Netherland delegation cannot but express their regret that the views of the Japanese Government are still materially at variance with these principles.

In fact the Japanese memorandum of the 14th of May 1941 states that the Japanese Government still firmly hold the views expressed in the preamble of the memorandum of the 16th of January 1941. As these views were based on a supposed inadequacy in the development of the natural resources of the Netherlands Indies and an assumed interdependence between this country and the Japanese Empire, it is clear that their practical application would tend to create a special position for the Japanese interests in the Netherlands Indies.

It seems therefore appropriate to point once more to the fundamental economic policy of the Netherland Government in regard to this archipelago, as set forth in the Netherland memorandum of February 3rd 1941; a policy, which involves the furtherance of welfare, progress and emancipation of its population, non-discrimination towards friendly foreign powers and the avoidance of the creation of preponderance of foreign interests in any particular field of activity.

This country has reached a stage of economic growth in which, with the assistance of the mother country, it may be deemed capable in the main of adequately developing its own economic life and resources. This process is in harmony with the aspiration of the population and care should be taken not to hamper its course by too liberal an admittance of foreign interests.

The density of the population in Java and other parts of the archipelago, as well as the density of the population in the mother country, emphasize still more the need to open up the economic resources and to reserve the labour market of this country as much as possible for the benefit of the subjects of the Kingdom.

On the other hand this policy implies that foreign enterprises, once established in the Netherlands Indies, are subject to the same rules and entitled to the same facilities as national enterprises of a similar nature, provided that the interests of Netherland subjects in the country of origin of those enterprises are treated in the same spirit.

Apart from these considerations of general economic policy, the relation between the Netherlands Indies and other countries must, for the duration of the war, be affected by the subjection of trade and other economic activities to certain unavoidable restrictions, in order to prevent direct or indirect advantage to the enemy, to safeguard the defence of the Netherlands Indies, and to promote the war effort of the Kingdom and its allies. These restrictions are, by their nature, of a temporary character.

Notwithstanding the difference in general conception, which appears to separate the two governments, the Netherland delegation remain desirous to make another effort to convince the Japanese delegation not only of the reasonableness of the position taken by the

Netherland Government in regard to the specific question raised in the recent Japanese memoranda, but also of the practical possibilities open to the Japanese interests on various points.

To this end the views of the Netherland Government in respect to each of these questions are set forth here below.

I. The entry of Japanese nationals.

a. The purpose of the Foreign Labour Ordinance is to reserve employment in the Netherlands Indies as far as possible for the inhabitants of the country. Consequently labour permits can only be granted to foreigners if their labour is deemed necessary and no Netherland subjects are available for the specific position. Furthermore it is understood that the employer concerned shall, as far as possible, provide adequate practical training for Netherland subjects to fill future vacancies. The need of foreign employment is always estimated in a liberal way, a policy, which will be continued. The Netherland Government aims at an expeditious handling of application for labour permits as far as feasible in connection with the necessity to obtain advice from the different authorities concerned and, in some cases, of local investigation.

Because of the vital interests involved the Netherland Government do not see their way to give an assurance that in a number of cases labour permits would be granted to foreigners without taking into account the basic principles of the ordinance. Therefore the unconditional guarantee of admission of Japanese nationals up to the full quota, as asked for in the Japanese memorandum, which moreover would constitute an inadmissible discrimination against other foreign countries, can not be given.

b. In this connection the question, as to whether the granting of certain labour permits should or should not be included in the aforementioned quota, does not seem to need further discussion.

c. The Netherland Government are willing to give favourable consideration to a change in the existing regulation in order to permit a strictly limited number of Japanese doctors to enter the Netherlands Indies for medical practice, solely amongst Japanese residents,

in those places where the number of Japanese residents would justify such a course. An extension of their medical practice to all employees or servants working for Japanese enterprises is not appropriate, as the majority of those employees and servants consists of people of non-Japanese origin.

II. Enterprise and business.

The establishment of enterprises of foreigners in their own account or in joint account with Netherland nationals is permitted, provided such enterprise, in the opinion of the authorities concerned, will constitute a fitting contribution to the economic development of the country within the scope of the general economic policy referred to in the preamble.

a. The foregoing also prevails for the participation by foreigners in mining enterprises in the Netherlands Indies.

The answer to the requests, made by the Japanese economic delegation with reference to participation by Japanese interests in the exploration and exploitation of mineral oil products in the Netherlands Indies, will be found in the first annex of this memorandum.

b. As the extension of fisheries and fishing industries should be reserved mainly for the native population, the Netherland Government do not find themselves in a position to grant permit or facilities for fishing to foreigners. Whether under special circumstances there might be a possibility of granting such facilities to certain foreign applicants will have to be considered separately in each case, judging every request on its own merits. For obvious reasons of national defence the Netherland Government will, for the time being, not be able to grant such facilities.

c. What has been said heretofore about the participation of foreigners in enterprises in the Netherlands Indies also stands for the “commercial and other business”, as well as for the “warehouse-business and other” meant in § II sub c of the Japanese memorandum. It is necessary to reserve these branches of activity to a large extent for Netherland subjects on account of the fact that especially in smaller commercial and other enterprises, like shops, small warehouses and small factories, opportunities can be found for the

commercial and industrial education of the rural masses, which is one of the main problems of economic policy for the Netherland Government.

III. Traffic and communication.

a. The Netherland Government will be pleased to co-operate with the Japanese Government for the improvement of the connection between Japanese and Netherland airlines at Bangkok, Saigon and possibly other places. They are, however, of opinion that the future development of air transport within the archipelago and with foreign countries depends on so many uncertain factors that under the present circumstances they could not commit themselves on this subject.

b. Taking into account the present development of wireless connections there is, as far as the Netherland Government can see, no motive for the duplication of telegraphic communication between Japan and the Netherlands Indies by expensive submarine cables. In case an improvement of the radio communication between Malabar and Japan might prove necessary, the Netherland Government will be pleased to give the co-operation required. There is no indication that, in addition to this radio communication, provisions need be made for the utilization of the submarine cable between Yap and Menado, which, moreover is in such a bad state of repair that for its use extensive and costly renovations and improvements would be required.

c. Coastal navigation in the Netherlands Indies has in principle been prohibited for ships under foreign flag in order to promote and protect national shipping. The exceptions to this rule, which have been made in certain cases—including certain ships under the Japanese flag—should be regarded as a maximum concession granted to shipping interests, which already existed when the present shipping laws came into force. The Netherland Government are ready however, to continue granting such facilities to the concessionaires in coastal shipping under a foreign flag as are needed for the maintenance of their enterprises within the present limits of type, number and tonnage of ships.

d. The opening of closed ports for the export of special products of for general trade purposes depends on the proven needs of the regions concerned in connection with the available shipping. Each case will have to be decided on its own merits, and on a basis of strict nondiscrimination with regard to foreign flags.

e. The foregoing also applies to permissions for ships under a foreign flag to call at closed ports.

IV. Trade and commerce.

As the prosperity of the Netherlands Indies depends, to a large extent, on trade with many countries, it is of vital importance that the Netherlands Government retain, as far as possible, their freedom of action with regard to the adjustment of imports to the exigencies of the export situation.

Besides it is necessary, for the duration of the war, to exercise a strict control on imports in order to avoid waste of foreign currency, and on exports in order to prevent that exports from the Netherlands Indies should contribute in any way to provide the enemy with materials of strategic value. The Japanese Government will undoubtedly understand that the present struggle for national existence admits of no other course.

Apart from these considerations the quickly changing international situation renders it inadvisable to enter into formal and binding agreements concerning the importation or the exportation of definite quantities of commodities for any extended period of time. On the other hand it is in accordance with the trade policy of the Netherlands Government to refrain from abrupt changes, as long as the circumstances and the vital interests of the country permit. The Japanese Government may rest assured that this policy will be adhered to in respect of the mutually important trade between the Netherlands Indies and Japan.

1. (a) with regard to the Japanese interests in the Netherlands Indian import trade an agreement was reached after the fullest consideration and embodied in the so-called Hart-Ishizawa and Van Mook-Kotani agreements. The Netherlands Government see no

necessity to modify these agreements, which are still in force.

Under the present unsettled circumstances it seems impossible to enter into any commitment concerning the quantities of certain commodities, which will be imported from any particular country, even during the next twelve months. The Netherland Government are, however, prepared—if such is wished for by the Japanese Government in the interest of the regulation of production in Japan—to state the quantities of goods for which during the next six months permits will be issued for importation from countries at choice, on which permits importation from Japan will be possible as long as prices and terms of delivery can meet competition from other countries. These quantities will have to be determined according to the actual needs of the Netherlands Indies.

(b) The Netherland Government remain of the opinion that the position of Japanese importers in the Netherlands Indies has been satisfactorily settled on the basis of the abovementioned agreements, and that they could not, without causing undue harm to other interests concerned, enlarge this share.

2. The necessities of war render it impossible for the Netherland Government to enter into any obligation to grant permits unconditionally for the exportation of various commodities for as long a period as the next twelve months. Any statement of policy in this respect, even for a much shorter space of time, must be subject to the proviso that it cannot be binding whenever, in the judgement of the Netherland Government, the full execution would be of direct or indirect advantage to the enemy or harmful to the interests of the Kingdom and its allies.

As, however, the Netherland Government appreciate the difficulty for the Japanese Government to adjust their internal economic policy on a basis of complete uncertainty with regard to imports from the Netherlands Indies, the Netherland Government have no objection to state—under the express proviso mentioned heretofore—their intentions with regard to restrictions of exports for the year 1941 as determined by their view on the present situation. Such a statement is drafted in the second annex of this memorandum. It

needs not be expressly mentioned in this connection that, although the Netherland Government must vindicate their right to be the sole judges of the exigencies of war with regard to exports, the ordinary channels of international intercourse remain open for the consideration of facts and complaints.

3. With regard to the import duties, export taxes, surtaxes and official prices the same treatment will be given to commodities imported from and exported to Japan, as to commodities imported from and exported to all other countries, in accordance with the principle of non-discrimination.

V. Termination of agreement.

If the present exchange of views would lead to the drawing up of an agreement the terminating clause could then be considered simultaneously with the wording of the document.

VI. Netherland proposals.

The Netherland delegation proposes that the following be adopted by the Japanese Government as their contribution to the furthering of the economic relations.

1. As a shortage of sugar is known to exist in the Japanese Empire and adjacent regions, the Japanese Government undertake to provide for the importation, during the remaining months of 1941, of Java sugar at a rate of 150,000 tons a year.
2. The amount of ebony to be imported into Japan from the Netherlands Indies shall, for the same period, be brought to a level of 2,000 tons a year, which quantity yet only represents about 50% of the normal imports.
3. The Japanese Government will provide for the importation, during the remaining months of 1941, of coffee from the Netherlands Indies at a rate of 1,000 tons a year.
4. The Japanese Government will take measures to make available all yen balance, accruing to Netherland nationals or companies in

Japan, for any lawful transaction appertaining to the economic intercourse between Japan and the Netherlands Indies.

5. The Japanese Government will grant to Netherland nationals and companies in Japan the necessary liberty for the undisturbed exercise of their trade, in a similar way as such liberty is granted to Japanese nationals and companies in the Netherlands Indies. —

ANNEX I.

The Netherland Government, considering the Mangkalihat peninsula as a sphere of interest of the B.O.M. for future extension, have no objection to grant to the B.O.M. concessions for the exploration of 278,000 ha in the Sangkoelirang region, which from the subject of the application of that company of February 17th 1941.

The applications of the same date for exploration in the Banggai block and North-East-New-Guinea will be held over for consideration at such time when the activities of the B.O.M. shall be sufficiently developed to justify a further extension of its concessions. Before granting concessions in these areas to possible later applicants the Netherland Government will carefully examine the applications filed by the B.O.M.

ANNEX II.

Concerning the exportation to Japan from the Netherlands Indies of the various commodities and quantities, specified in Table III, annexed to the memorandum of the Japanese delegation of May 14th, the following can be stated. ^(over 2)*)

*) To avoid possible misunderstanding it is expressly observed, that the following statement in no wise excludes the application of export regulations and quota to commodities not mentioned in table III.

Under the present circumstances and unless the full execution of the measures to be mentioned below would, in their judgment,

be of direct or indirect advantage to the enemy or harmful to the interests of the Kingdom and its allies, it is the intention of the Netherland Government for the year 1941:

a. To maintain or institute quota for the exportation of the following commodities, mentioned in table III, to the Japanese Empire during the year 1941 in such a way, that the total quantities in metric tons to be exported during that year can reach the figure opposed to each article:

16. Rubber	15,000
17/18. Tin and tin ore (in tin content)	3,000
20. Nickel ore	150,000
22. Castor seed	6,000
24. Cinchona bark	600

b. To institute monthly quota for the exportation of the following commodities, mentioned in table III, to the Japanese Empire for the remaining months of 1941 to the amounts, specified in metric tons opposite each article:

4. Damar and copal	125
5. Kapok fibre (including kapok fibre in the seed)	100
6. Kapok seed and cotton seed	500
8. Copra (including the equivalent in cocoanut oil)	1,650
10. Rattan	100
11. Palm oil	1,000
14. Tanning materials	125

19. Bauxite	20,000
21. Manganese ore	500
25. Quinine (net weight)	5
28. Jute (refined)	125

c. To refrain from instituting quota for the exportation to the Japanese Empire of the commodities, mentioned in the table III but not included in the lists sub a and b, with the following reservations.

The export quatum fixed at present for scrap iron is to be regarded as a measure to prevent wholesale thefts of iron as a consequence of the high price obtained in case of unlimited export. Otherwise there is no objection to export to Japan the available scrap-iron, as far as it is not needed for home consumption or for the allies of the Netherlands.

Under the last mentioned proviso there is also no objection to the exportation to Japan of the available maize.

The increase of the exportation of mineral oil and oil-products to Japan remains a matter of negotiation between the Japanese importers and the oil-producing companies. The present situation of oil-reserves does not, in the opinion of the Netherland Government, allow an increase of production. The same applies to the export of pitch cokes.

In the case of molasses, of which commodity, according to the figures in table III, the Japanese Government plan to import more than thirty times the normal quantity from the Netherlands Indies, no definite opinion can as yet be given.

The same applies to sisal fibre, where the quantity applied for is nearly twenty five times the normal amount.

The available data concerning the exploitation of molybdenum ore, chrome-iron ore, wolfram ore and mica ("high quality") seem to contradict the probability of exports of any importance.

附錄 第十一號

會商打切ニ關スル日蘭印共同聲明（昭和十六年六月十八日發表）

Both the Japanese and Netherlands Delegations greatly regret that the economic negotiation which has been conducted between them has unfortunately come to no satisfactory result. It is needless, however, to add that the discontinuation of the present negotiation will lead to no change of normal relations between Japan and the Netherlands Indies.